

晝夜ノ別ナク施工ニ務メタリ溝橋伏樋ニハ大ナル難工事ナシト雖只前記地質不良箇所ニハ基礎砂土ヲ施セリ、隧道工事ハ本明隧道一箇所ナレ共其ノ前後ニハ大ナル切取アリ、勾配其ノ他ノ關係上前年度末山口方切取ヨリ第三導坑ヲ以テ掘鑿ヲ初メ四年五月坑口ニ達シ引續キ掘進シ支保工ハ主トシテ枝梁式ヲ用ヒ九月貫通シ同時ニ諫早方ノ切取ヲ開始セリ此ヨリ先一籽九〇〇米附近ニ拱塊製作場ヲ設ケ塊製作ニ從事シ十一月疊築工ニ著手セリ、一籽三五〇米附近ハ地質良好ナルモ滲透甚シキ爲鐵板ヲ張リ詰メ膠泥混凝土ノ流出ヲ防止セリ而シテ本年度末ニ於テ總工程八分強ヲ示ス、又第二工區七浦終點ヨリ多良間及第九工區終點長田ヨリ湯江間ハ線路選定済ナルモ未タ起工スルニ至ラス

伊佐線 第一工區伊萬里起點自五四二米一三至五籽九三四米四五間土工其ノ他工事ハ前年度末ニ於ケル總工程八分二厘ニシテ本年度ニ入りテモ順調ニ進工シ四年八月竣功セリ軌道工事ハ四年十二月著手シ伊萬里ヨリ有田川橋梁ニ至ル間ノ軌條敷設砂利撒布ヲナシ有田川橋梁ハ五年一月操重車ヲ用ヒテ架桁ヲ終リ引續キ軌條敷設ノ延長竝砂利撒布ヲ續行シ尙停車場建物其ノ他諸般ノ設備ヲ施セリ伊萬里驛ニ於テハ停車場ノ擴張及既設線路トノ連絡設備ヲ爲シ之カ竣功ヲ俟チテ五年三月運輸營業ヲ開始セリ、第二工區自五籽九三四米四五至一九籽九三米五七三間土工其ノ他工事ハ前年度末ニ第一工區ト一齊ニ起工セルモノニシテ線路ノ一部海中ヲ通過セル箇所アリテ經費節約竝線路保安上有利ナリト認メ之ヲ山手へ變更セリ、自一一籽八四〇米至一一籽九四〇米間ハ村井鑛業株式會社トノ設計其ノ他協議纏ラサル爲一時工事ヲ中止シタルモ偶々同社及地方有志ノ用地寄附ヲ條件トシタル停車場設置ノ請願

アリ之カ認可ヲ得ルニ及ヒ協議成立シタルヲ以テ五年三月中止ヲ解除シ工事續行中ナリ、土工ハ切取箇所概ネ頁岩及砂岩ノ互層ニシテ間々粘土ノ如キ軟層介在シ往々施工ニ困難ヲ感セリ高峯隧道西口附近切取間ニハ泥炭層現ハレ地質甚シク不良ナリ縣道付換ハ二三地方廳ノ負擔ヲ以テ幅員ヲ増加セルモノアリ線路ハ概ネ海岸ニ沿ヒテ走レルヲ以テ各所ニ海岸石垣ノ設置ヲ要シ又炭鑛ノ不良土砂埋立箇所ハ基礎地盤深キ爲孰レモ杭打混凝土ヲ施セリ尙工事ハ干潮時ヲ利用セサルヘカラサル關係上遲々トシテ進マス橋梁工事ハ概ネ地質不良ニシテ基礎ニハ多ク杭打混凝土ヲ施工セリ而シテ大半ハ前年度ニ於テ竣成シ本年度ニ入りテハ鳴石川外三箇所ノ工事ヲ施行セルノミ、溝橋工事モ亦地質概ネ不良ナルヲ以テ基礎ニハ杭打混凝土ヲ軟泥ノ箇所ニハ砂工ヲ施シ伏樋ハ殆ント前年度ニ於テ竣成シ隧道工事ハ三箇所ノ内前年度ニ於テ二箇所竣功シ唯高峰隧道ノ疊築工ヲ餘スノミ、本隧道ハ兩口共ニ地質不良ニシテ特ニ伊萬里口ハ膨脹性ヲ帶ヒ且湧水多量ナル爲坑門口ヲ十米延長シ卷厚ヲ増シ約百四十米ニ互リ仰拱混凝土ヲ施セリ尙中部ニ「グアナイト」施工ノ豫定ナリシモ地質ハ之ニ適セサルモノト認メタルヲ以テ側壁及拱混凝土ニ變更セリ、佐世保口モ同様地質不良ナルヲ以テ特ニ支保材及工事施行ニ注意セシモ四年四月坑口ヨリ約三〇米間崩壞セリ然レトモ銳意之カ復舊ニ努力シテ竣功セシメ本年度末ニ於テハ中止區間ノ一部ヲ殘シテ殆ント竣功セリ、佐世保俵町間(佐世保起點自零米至三籽四八〇米)ハ四年五月線路ノ選定ヲ了シタルモ未タ工事著手ニ至ラス

大川線 宮之城永野間(宮之城起點自三〇九米二九至一六籽九八〇米)ハ四年六月線路ノ選定ヲ了

シタルモ未タ工事著手ノ運ヒニ至ラス

鐵道局施行工事 仙臺鐵道局ニ於テ施行セル仙山東線仙臺驛連絡設備工事ノ内機關車給炭裝置ハ四年一月著手同年八月竣功シ線路増設乗降場跨線橋第一聯動裝置其ノ他工事ハ四年六月著手シ五年三月竣功セリ、大阪鐵道局ニ於テ施行セル和歌山機關庫分庫改増築工事ハ四年四月請負付託同年十一月竣功シ同給水工事ハ五年二月竣功ニ依リ本工事ノ全部ヲ終了セリ尙之ニ伴フ支障通信線路改築工事並同上電燈設備工事ハ孰レモ四年七月著手同年十一月竣功セリ、土讚北線連絡工事ニ伴フ阿波池田驛設備工事ノ内土工事ハ前年度ニ於テ既ニ竣功シ軌道工事ハ前年度ニ於テ六分通竣成シ本年度ニ入り其ノ殘部ヲ竣功セリ尙之ニ伴フ同驛通信設備工事ハ四年三月著手同年四月竣功シ同上電燈設備工事ハ四年三月著手シ同年六月竣功セリ、又姫津線連絡ニ伴フ姫路停車場設備工事ハ本年度ニ於テ用地買收ヲ了シ土工事ハ五年一月著手セルモ直ニ中止セリ、門司鐵道局ニ於テ施行セル大分驛擴張工事ハ三年四月ヨリ繼續施行中ノ處四年十一月竣功シ、大湯線大分賀來間自一杆一〇六米至五杆六七七米線路改築工事ハ四年三月著手施行中ニシテ六年一月竣工ノ豫定ナリ

建設殘工事 本年度ニ於テ土工事ノ他ノ殘工事ヲ施行セル工事名若ハ區間ヲ舉クレハ長輪線ニ於テ長萬部停車場電力助役詰所新設其ノ他工事及東輪西停車場乗降場上家其ノ他新設工事、會津線ニ於テ西若松驛跨線橋新設工事、飛越線ニ於テ笹津停車場第一號官舎新設其ノ他工事、並越美南線ニ於テ美濃洲原美濃下川間及美濃下川深戸間、東紀勢線ニ於テ伊勢柏崎大内山間、高山線ニ於テ白川口飛彈金山間及飛彈金山燒石間、西紀勢線ニ於テ藤並紀伊湯淺間及紀伊由

良御坊間、太多線ニ於テ美濃太田多治見間ノ各一部ナリトス

鐵道局施行殘工事 仙臺鐵道局ニ於テ施行セル大船渡線千厩驛側線増設工事ハ四年十一月著手同年十二月竣功セリ、久慈線種市驛出發信號機及給水柱新設工事ハ五年一月著手同年三月竣功シ又鮫外一驛旅客乗降場増設工事ハ四年八月著手シ同年十月竣功セリ、大阪鐵道局ニ於テ施行セル伯備南線清音驛安全側線新設其ノ他工事ハ四年二月著手シ(三年度工程六分)同年四月竣功シ之ニ伴フ電燈設備工事ハ四年三月著手シ同年五月竣功セリ、伯備北線生山驛轉車臺新設其ノ他工事ハ四年十二月著手五年三月竣功シ尙同驛構内通信線路移轉並轉車臺新設ニ伴フ電燈設備工事ハ孰レモ五年三月著手竣功セリ、又高德線丹生外三驛旅客乗降場増築其ノ他工事ハ四年十月著手シ同年十二月竣功セリ

茲ニ最近三箇年間ニ於ケル當該年度ノ建設費決算額ヲ對比スレハ左ノ如ク即チ本年度決算額ハ三年度ニ對シテハ二割四分八厘、二年度ニ對シテハ二割八分六厘ノ増加ヲ示セリ

年	度	建設費
昭和四年	度	六、九〇六、六四七
昭和三年	度	五、八二四、四九六
昭和二年	度	四、九二六、九一三

第二節 未開業線路

本年度末ニ於ケル國有鐵道未開業線路ノ杆程ハ四千八百四十四杆三百三十五米ニシテ内工事中

ノ線路九百八十軒二百米、工事未著手ノ線路三千八百六十四軒百三十五米ナリ、之ヲ前年度ニ比スレハ前者ニ於テ二百四十軒二十米ヲ減少シ後者ニ於テ七百軒五百六十五米ヲ増加セリ、之ヲ建設事務所所管別ニ舉クレハ左ノ如シ

建設事務所	工事線	工事未著手線
北海道	二四七三〇〇 ^米	三三二五五七 ^米
北盛岡	六五八八〇	二〇〇三〇一
秋田	三三〇三〇	一四五一三五
長岡	九〇五四〇	一六三六七八
東京	一三・三八〇	一七九〇八
熱海	一四・三五〇	八四八七六
岐阜	一〇〇七三〇	四八〇六四三
米山	六四・三二〇	二四〇五六一
岡子	八六・七四〇	三二五・三〇八
山口	三六・三三〇	一五・一三三〇
熊本	一九七六〇	六四・四六九
所定	九〇〇八〇	四一七〇三七
合計	九八〇三〇〇	一〇九二・三四三
		三、八四一・一三五

第三節 線路調査

本年度ニ於テ實地測量調査シタル線路ハ總計三十五線ニシテ此ノ延長千六百五軒九十一米ナリ之ヲ區間別ニ表示スレハ左ノ如シ

區間	軒程	備考	區間	軒程	備考
奥内、五所川原	二七八五七 ^米		宮口、四方淨	三二八四六 ^米	二俣大野間ノ内比較
五所川原、金木	一〇四九九	五所川原三懸間ノ内改測線	六地藏、長篠古城趾	二七九九	二俣大野間ノ内比較
三戸、花輪	六〇・六五一		奈良、名張	五三九〇二	
夏坂、大湯	一六六七九	三戸花輪間ノ内局部比較線	阪本、新宮	九五〇九二	
生保内、鳩ノ湯	三一〇五四		田邊、本宮	五九〇七	
阿仁合、角館	六〇二五七		新宮、若櫻	七六〇四六	
比立内、峠下	一三二九〇	阿仁合角館間ノ内局部比較線	伊豫小松、大洲	九四二六八	伊豫小松大洲間ノ内局部比較線
白石、上ノ山	六四九三三		上非、内子	三二六六七	
來迎寺、越後岩澤	二四六五八		横河原、松山	一三九〇八	
大宮、青梅	四五〇五三		八幡濱、宇和島	三五〇八六	
古谷本郷、大塚新田	九七七五	大宮青梅間ノ内局部比較線	北見瀧ノ上、上越	三六九九九	
豊岡、飯納	六七三八		留邊蘆、ホロカ石狩	六〇二七	
穴水、飯田	五七九三四	穴水飯田間ノ内局部比較線	大津、厚内	二八八三	
比良、鷺川	一四六〇三		忠類、浦幌	五三〇二	
松本、高山	九四七二		帶廣、高江	一〇三九〇一	
高山、莊川	四六・三二九		浦河、廣尾	八八八七	
白鳥、城端	一〇五五三二		濱益、増毛	四一九三五	
二俣、大野	三三・六一		合計	一、六〇五・〇九一	

工務

錦糸町外二十二驛ポイント更換工事
 石岡驛本屋改築其ノ他工事
 大崎驛構内官舎再築工事
 新宿驛官舎移轉改築工事(補充費關聯)

名古屋鐵道局

各線軌條更換工事
 淺川初狩間水害應急工事
 梶屋敷能生間(三三六杆七〇〇米附近)水害復舊工事
 筒石谷濱間線路築堤防護工事
 權現隧道拱改増築其ノ他工事
 名立谷濱間三三三杆〇四〇米附近線路築堤防護工事
 冠着隧道拱修繕其ノ他工事
 梶屋敷筒石間線路築堤防護工事
 木曾川岐阜間橋桁ペイント塗換工事

大阪鐵道局

各線軌條更換工事
 鷹取工場客車職場床面修繕工事
 山田上口驛本屋改増築其ノ他工事

奈良ホテル館内敷物及窓掛取替其ノ他工事

門司鐵道局

各線軌條更換工事
 各線線路砂利補給工事
 各線橋梁溝橋桁ペイント塗換工事
 門川富高間B一號府内橋梁水害復舊工事
 門川富高間二七一杆〇四〇米附近災害應急工事
 小倉工場鍛冶工場屋根修繕其ノ他工事
 烏栖機關庫修繕其ノ他工事

仙臺鐵道局

各線軌條更換工事
 草野外十七驛信號機改修其ノ他工事(補充費關聯)
 横手驛第一號外一棟官舎移轉模様替其ノ他工事(補充費關聯)
 土崎工場木工及鑄物職場天窓改修其ノ他工事
 米澤驛石炭臺一部改築其ノ他工事(補充費關聯)
 堺田富澤間六〇杆〇一七米附近頽雪止軌條柵移轉其ノ他工事
 大野長塚間根小屋川橋梁袖石垣水害復舊其ノ他工事(補充費關聯)
 四ッ倉久ノ濱間二三三杆〇〇四米附近切取法切直其ノ他工事(補充費關聯)

工務

工務

仙臺連坊小路驛員合宿所移轉其ノ他工事(補充費關聯)
 貝田越河間散火圍改修
 仙臺鐵道局應舍増築其ノ他補充費關聯)
 札幌鐵道局

各線軌條更換工事
 各線軌道修繕用砂利採集撒布工事
 各驛官舎基礎改良工事(補充費關聯)
 手宮海上及陸上棧橋修繕工事
 各驛信號機更換其ノ他工事(補充費關聯)
 旭川工場倉庫災害復舊其ノ他工事(補充費關聯)
 札幌外九箇所側線軌條更換工事
 室蘭石炭棧橋修繕工事

茲ニ最近三箇年間ニ於ケル保線費ノ決算額ヲ示セハ左ノ如シ

年 度	保 線 費
昭和四年度	五〇,〇九八,三八四
昭和三年度	五一,〇〇〇,〇一五
昭和二年度	四七,七二七,三六二

第二節 補充工事

本年度ニ於テ施行セル主ナル工事ヲ擧クレハ左ノ如シ

東京鐵道局

松井田横川間二六杆四〇〇米附近水害復舊工事(保線費關聯)
 大宮加茂宮間試驗線オセオグラフ新設其ノ他工事
 市ヶ谷四ッ谷間六杆二五〇米附近線路築堤復舊工事(保線費關聯)
 品川驛構内配線一部變更其ノ他工事(保線費關聯)
 新宿驛本屋増築其ノ他工事(保線費關聯)
 品川外三箇所線路工事(保線費關聯)
 新宿驛官舎移轉改築工事(保線費關聯)

名古屋鐵道局

與瀬上野原間橋澤隧道西口延伸其ノ他工事(保線費關聯)
 三留野坂下間長谷川拱橋排水路改修工事(保線費關聯)
 甲府事務所増築工事(保線費關聯)
 河原市外二乗降場擁壁改修工事(保線費關聯)
 尾張一宮配線變更工事(保線費關聯)

大阪鐵道局

工務

山田上口驛本屋改増築其ノ他工事
 新見備中神代間六九杆一〇〇米附近外六箇所線路護輪軌條敷設
 門司鐵道局

門司驛本屋下家増築其ノ他工事

若松旭溜官舎ヲ中丸及辻ヶ谷ニ移轉改築其ノ他工事(保線費關聯)

三納代廣瀬間三二一杆附近水害復舊工事(保線費關聯)

小川驛改築工事(保線費關聯)

後藤寺驛跨線橋移設工事(保線費關聯)

仙臺鐵道局

内ヶ卷越後岩澤間四杆九〇〇米附近雪害復舊其ノ他工事(保線費關聯)

浦佐五日町間第二押堀川跨線水道橋増設其ノ他工事(保線費關聯)

機織驛廻リ線有效長延伸其ノ他工事(保線費關聯)

羽前向町瀬見間七三杆三六〇米附近類雪止災害復舊其ノ他工事(保線費關聯)

夜ノ森大野間二五四杆附近外一箇所線路築堤水害復舊其ノ他工事(保線費關聯)

富岡夜ノ森間二五二杆附近側溝石垣水害復舊工事(保線費關聯)

仙臺倉庫荷捌上家新築其ノ他工事

札幌鐵道局

長輪線一四九杆八〇〇米附近海岸根固其ノ他工事

各驛信號機更換其ノ他工事(保線費關聯)
 旭川工場倉庫災害復舊其ノ他工事(保線費關聯)
 根室本線直別隧道修繕其ノ他工事(保線費關聯)
 各驛官舎基礎改良工事(保線費關聯)

茲ニ最近三箇年度間ニ於ケル補充費決算額ヲ示セハ左ノ如シ

年 度	補 充 費
昭 和 四 年 度	1,910,311
昭 和 三 年 度	2,261,944
昭 和 二 年 度	2,144,368

第三節 改良工事

線路増設工事

達セリ

本年度ニ於テ竣功セシ線路増設ハ次表ノ通ニシテ合計六十四杆五百五十九米ニ

線 名	區 間	一線ヨリ 二線ニ	二線ヨリ 四線ニ	四線ヨリ 六線ヨリ	新 設	使用開始年月日
東海道本線	鶴見横濱間	二線ヨリ			二線	昭和四年八月二十一日
	横濱程ヶ谷間	二線ヨリ	三〇三三		二線	同 四年八月二十一日
	目黒川新鶴見間			七〇六〇	二線	同 四年八月二十一日
	新鶴見鶴見間				四線	同 四年八月二十一日

線名	區間	一線ヨリ 二線ニ	二線ヨリ 四線ニ	四線ヨリ 六線ニ	新設	使用開始年月日
東海道本線	清水港清水埠頭間 梅小路向日町間	四六〇	四六〇		單線 一〇五〇	昭和五年二月一日
東北本線	日暮里、尾久、赤羽間 赤羽、蕨間	六五九〇	六四六〇		二線 七五八七	同 五年三月三十日
高崎線	籠原、深谷間 本庄、神保原間	四七八〇			同	同 四年六月二十日
紀勢西線	紀伊由良由良内間	四〇三〇			單線 一八三〇	同 四年十二月十五日
長崎本線	長崎、長崎港間				單線 一〇〇〇	同 四年五月一日
					同	同 四年七月十日
					同	同 四年八月六日
					同	同 四年四月二十一日
					同	同 五年三月十九日

而シテ線路増設工事ノ中主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

東海道線線路増設

一、品川鶴見間貨物線増設 前年度ヨリ繼續施行ニ係ル本區間工事ハ全體トシテハ約九分九厘ノ工程ニシテ土工工事ニ在リテハ六工區完成ヲ以テ全區間ヲ終了シ軌道工事モ亦各工區共完成セリ、用地買收ハ前年通九分九厘ニシテ鶴見驛構内擴築工事ハ全體トシテハ八分一厘ノ工程ナルモ土工工事ノ内鶴見地下道工事全部完成軌道工事モ完了セリ

一、橫濱國府津間線路増設 前年度ヨリ繼續施行ニ係ル程ヶ谷驛改良工事ノ内軌道工事ハ聯動關係ヲ除キ完了シ大船驛改良保安設備ノ一部平塚驛改良、大磯驛改良及二宮驛改良工事ハ各軌道工事ノ一部ヲ殘シ孰レモ工程九分九厘ヲ示セリ、平塚大磯間ハ平塚花水川間完成、花水川

大磯間ハ用地買收ヲ了リタルモ國道路切設計協議未了ノ爲工事著手ニ至ラス大磯二宮間用地買收ハ六分方進捗セリ

一、京都神戸間線路増設 本區間線路増設工事ノ内前年度ヨリ繼續施行ニ係ル桂川向日町間ハ九分二厘、向日町山崎間其ノ二ハ四分二厘、山崎高槻間其ノ一ハ四分、同其ノ二ハ五分二厘、高槻茨木間其ノ一ハ九分九厘、同其ノ二ハ九分通進捗シ竹串避溢橋増設工事ハ九分、神戸市街線灘生田川改築工事ハ九分三厘、生田川三宮間ハ九分、灘神戸間軌道工事ハ四分六厘ノ工程ニ在リ、茨木吹田間線路増設工事、神戸市街線改良工事ノ内灘相生橋間假線路敷設工事、三宮假驛本屋新築工事ハ孰レモ完了セリ、尙大正十二年著手ニ係ル神戸市街線用地買收其ノ二ハ八分四厘方進捗シ殘部トシテ灘新三宮間線路南側三間道路敷地ノ買收及電柱移轉埋設物補償トス

一、小野濱線延長 前年度ヨリ繼續施行ニ係ル神戸海岸線新設工事ハ工程七分通進捗シ一部假線ニ依リ營業ヲ開始シ之カ用地買收ハ約七分三厘方進捗セリ、大正十五年著手シタル神戸海岸貨物驛新設土工其ノ他工事ハ約九分五厘方進捗シ昭和二年著手セル神戸海岸貨物驛諸建物新設其ノ他工事モ同様九分五厘方進捗シ既ニ營業開始セリ、同年著手ノ小野濱驛改良工事モ略竣功ヲ見ルニ至レリ

一、大阪北方直通線増設 前年度ヨリ繼續施行ニ係ル吹田宮原間大阪北方直通線第二期工事ハ略完成シ工程九分九厘ヲ示セリ

中央線線路増設

一、飯田町中野間線路増設 前年度ヨリ繼續セル本區間軌道工事ノ内飯田町市ヶ谷間、市ヶ谷信

濃町間、新宿中野間軌道工事ヲ完了シ中野驛改築工事ハ總工程九分四厘ニシテ土工工事九分三厘、軌道工事七分通進捗ス

一、國分寺八王子間複線 本區間第一工區ハ前年度ニ於テ竣功シ第二工區ハ本年度ニ至リ總工程八分三厘方進捗シ内土工工事ハ九分五厘、軌道工事ハ九分ナリ

山陽線線路増設

一、神戸應取間線路増設 本區間ニ於ケル市街線用地買收ハ全部完了シ大正十五年著手ニ係ル神戸刈藻川間改築工事ノ内兵庫刈藻川間改築ハ約九分五厘、神戸兵庫間改築ハ約九分三厘方進捗シ、神戸市街線神戸刈藻川間軌道工事ハ約二分一厘ノ工程ニ在リ、大正十四年著手ノ刈藻川橋梁増築工事ハ約七分五厘、大正十二年著手ノ應取驛擴張並線路増設土工工事ハ約九分九厘、同橋梁工事ハ約九分八厘、同軌道工事ハ八分七厘方進捗セリ

一、廣島下關間複線 前年度ヨリ繼續施行ニ係ル三田尻大道間複線敷設其ノ他工事並藤生由宇間複線敷設其ノ他工事ハ孰レモ工程九分五厘方進捗シ麻里布藤生間複線敷設其ノ他工事ハ約四分通進捗セリ

一、和田岬線延長 大正十五年ヨリ著手シタル新川延長線用地買收ハ海軍省用地所管換未済ノ分ヲ殘シ殆ント買收ヲ了シ昭和二年著手セル和田岬線延長用地買收ハ約九分八厘方進捗セリ

關西線線路増設

一、名古屋龜山間複線 本區間工事ノ内本年度著手セル富田濱驛複線工事ハ工程九分通進捗セリ

一、城東貨物線新設 前年度ヨリ繼續施行ニ係ル吹田神崎川間土工其ノ他工事、東野田淀川間土工其ノ他工事ハ孰レモ竣功シ東野田淀川間用地買收ハ九分九厘、平野放出間線路増設用地買收ハ八分二厘、蒲生附近土工其ノ他工事ハ工程八分五厘方進捗セリ、本年度著手セル平野放出間土工其ノ他工事ハ一分七厘、放出驛改築土工其ノ他工事ハ四分五厘ノ工程ヲ示スニ至レリ

一、大阪水陸連絡線新設 前年度ヨリ繼續施行ニ係ル築港操車場設備工事ハ本年度ニ於テ完成シ連絡線用地買收ハ九分九厘方進捗セリ

東北線線路増設

一、東京田端間線路増設 東京上野間第二期工事(電車線以外ノ分)ノ内神田川上野間(四、五、六工區)ハ引續キ施行中ニシテ工程約九分五厘ヲ示シ上野驛構内改良(七工區)第二期工事(電車線以外ノ分)ハ九分五厘ノ工程ニシテ上野田端間線路改築、用地買收ハ略完了シ鶯谷田端間線路増設(八工區)ハ約九分通進捗セリ

一、田端大宮間線路増設 東北本線荒川橋梁増設工事及田端大宮間ノ内川口町驛附近(二工區)ノ用地買收ハ略完了シ同工事ハ九分五厘ノ工程ヲ示シ巖驛附近(三工區)ノ用地買收ヲ了シ同工事ハ工程約八分、浦和驛附近(四工區)ノ用地買收ハ九分、同工事ハ本年度著手シ工程二分通進捗セリ

一、高崎線複線 本區間ノ用地ハ本年度ニ於テ全部買收ヲ了シ熊谷深谷間複線工事ヲ完成シ岡部神保原間工程九分九厘、神保原新町間九分、新町倉賀野間六分通進捗セリ

總武線線路増設

一、金町小岩間越中島線新設 前年度ヨリ繼續施行中ノ越中島線ハ工程約九分ヲ示セリ
 一、横濱港水陸連絡設備 本工事ハ總工程九分三厘方進捗シ内土工及軌道工事ハ完了シ用地買
 收ハ前年通九分九厘ニアリ
 一、敦賀臨港線新設 本工事ハ昭和二年十二月著手セル繼續工事ニシテ前年度迄工程五分一厘
 ニ達シ本年度ニ於テハ工程ヲ示スニ至ラス

線路改良工事

線路改良工事中主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ(○印ヲ附シタルハ竣功ヲ示ス)

一、線路諸改良

東海道線

○品川大井町間線路路盤改良 蒲田驛構内池上踏切地下道新設 鶴見横濱間路盤改
 良 ○平塚跨線人道橋新設 ○山北駿河間反向曲線改良 ○島田掛川間路盤改良
 ○中泉驛構内反向曲線改良 ○北方直通線能勢街道附近線路扛上其ノ他 ○生瀬武
 田尾間二〇糎五〇〇米附近外四箇所土留石垣改良 ○守山草津間四九九糎一八〇米附
 近外十箇所路盤改良其ノ他 ○塚口伊丹間外二箇所路盤改良其ノ他 垂井關ヶ原間
 タイプレート敷設其ノ他 福知山線廣野驛及藍本驛附近勾配改良其ノ他
 北陸線
 ○新保葉原間外二箇所反向曲線改良 ○泊郷津間護岸擁壁 ○牛ノ谷栗津間路盤改
 良 ○能生谷濱間路盤改良 ○北陸本線枕木増加 ○鯖江大土呂間線路扛上
 ○鯖江大土呂間淺水川外二橋梁徑間縮少

中央線

○信濃町千駄ヶ谷間路盤改良 ○高圓寺阿佐ヶ谷間伏樋ヲ開渠ニ改築 吉祥寺驛外
 一驛轉轍器更換 八王子甲府間隧道改築 ○定光寺土岐津間曲線改良 ○葦崎木
 曾福島間枕木増加 ○中央線對向轉轍器改良立町三留野) 中央線土留石垣新設其ノ
 他 ○麻績城捨間路盤改良

山陽線

曾根驛東部急勾配改良 生野新井間四八糎二五〇米附近線路變更 ○小串線線路改
 良其ノ三 小串線線路改良其ノ四ノ一 藤生由宇間線路改良 三田尻大道間線路
 改良 ○有年糸崎間タイプレート敷設

山陰線

○嵯峨龜岡間一四糎八九〇米附近反向曲線改良 ○嵯峨龜岡間落石防護其ノ一
 ○舞鶴新舞鶴間二三糎一七五米附近路盤改良 ○嵯峨岩美間犬釘更換 ○丹波大山
 下瀧間六六糎一六四米附近落石止擁壁新設其ノ他

關西線

○揖斐川橋梁改築其ノ他 ○加佐登龜山間路盤改良 ○參宮線枕木増設 龜山下
 庄間四糎附近勾配改良 ○今宮驛構内渡邊下街道交叉方法改良 ○今宮驛構内勘助
 町踏切道交叉方法改良 ○關西本線一部タイプレート敷設 ○加太柘植間七〇糎附
 近反向曲線改良 ○城東線桃谷玉造間第一東上町外一箇所踏切道交叉方法改良

○關西本線六六杆六八〇米附近外一箇所線路改良
東北線

○常陸太田驛附近線路扛上其ノ他
○水郡線水戸常陸太田間枕木增加
○水郡線水戸常陸青柳間那珂川橋梁補強
草野平間夏井川橋梁改良
常磐線隅田川橋梁改良
水戸驛構内陶管ヲ函渠ニ改築
○乙供千曳間施工基面取擴
○小湊仙北町驛對向轉轍器改良
○田尻瀨峰間路盤改修
○黑澤尻大荒澤間枕木增加
白石北白河間三一五杆附近曲線改良

磐越線

○馬下五泉間赤羽川橋梁徑間變更

奥羽線

白澤陣場間四一三杆附近反向曲線改良

○浪岡大釋迦間四六四杆附近外一箇所線路扛上

○森岳大館間山形神町間陣場津輕新城間笹木野關根間枕木增加

○米澤置賜間第三羽黑川橋梁徑間增設

羽越線

○溫海五十川間鼠ヶ關溫海間五箇所切取法面防護

○新津鼠ヶ關間枕木增加

信越線

○鉢崎青海川間二五杆三〇〇米附近護岸

○直江津宮内間新津新潟間枕木增加

○豐野牟禮間外二箇所反向曲線改良工事

高知線

土佐加茂日下間二五杆一四〇米附近線路扛上其ノ他

函館線

小樽錢函間波除擁壁改良

室蘭線

○由仁夕張川橋梁擴築

根室線

○厚岸根室間道床更換

阿寒川橋梁擴築

天鹽線

○天鹽線枕木增加
○天鹽線道床更換
○天鹽線音威子府芦川間枕木增加

二、軌條更換

東海道線

○東海道本線電車線一部其ノ二
○東京國府津間
○東海道本線一部
○國府津沼津間一部其ノ二
橫須賀線軌條更換其ノ四
東京川崎間
程ヶ谷原間
○垂井關ヶ原間
○岩淵與津間外二箇所
○鳥田掛川間
○用宗燒津間關ヶ原柏原間
木曾川近江長岡間
○東海道本線(大鐵管内)
東海道本線(含驛構内)其ノ一(大鐵管内)
○大阪驛構内
○西成線

北陸線

工務

工務

○鯖江市振間 牛ノ谷直江津間 ○筒石谷濱間

中央線

○中野國分寺間其ノ三 ○萬世橋大久保間一部 中央線電車線 立川八王子間
八王子甲府間隧道改築ニ伴フ軌條更換 淺川鳥澤間 ○中央線(名鐵管内) 甲府鹽
尻間

山陰線

○山陰本線 ○山陰本線其ノ二

關西線

名古屋龜山間 桑名龜山間 名古屋富田間 ○關西本線(大鐵管内) 城東線

東北線

○日暮里平間一部其ノ二 ○上野白河間其ノ二 山手線電車線一部 山手線一部
○熊谷高崎間一部 籠原高崎間各驛 ○日光線其ノ二 日光線鹿沼日光間
水戸線 兩毛線 ○足尾線一部 ○東北本線其ノ二(仙鐵管内) 東北本線其ノ三
(仙鐵管内) 常磐線(仙鐵管内)

信越線

○信越本線(東鐵管内) ○信越本線(名鐵管内) 信越本線(仙鐵管内) 磯部松井田間

總武線

兩國橋千葉間

鹿兒島線

鹿兒島本線外三線 ○宇土八代間外一箇所 ○鹿兒島線及長崎線

函館線

○南小樽岩見澤間其ノ一、二、三 岩見澤瀧川間

室蘭線

○室蘭本線一部

三、橋桁改良

東海道線

○下曾我松田間川音川橋梁桁架換 ○山北駿河間第四相澤川橋梁桁改良 平塚大磯
間花水川橋梁桁改良 ○垂井驛構内相川橋梁橋桁改良 ○名古屋枇杷島間枇杷島川
橋梁外一箇所橋桁改良 ○刈谷大府間界川橋梁橋桁改良 ○由比興津間興津川外五
箇所橋桁改良 辨天島新居町間第三濱名橋梁橋桁改良 ○福知山線道場驛構内第六
武庫川橋梁橋桁改良 彦根河瀬間高宮川橋梁橋桁改良

北陸線

長濱虎姫間姉川橋梁外一箇所橋桁改良

中央線

豐田八王子間淺川橋梁桁架換

山陽線

工務

○明石大久保間明石川橋梁上リ線鐵桁架換 ○御着姫路間市川橋梁鐵桁架換及補強
 加古川寶殿間加古川橋梁鐵桁架換 山陽本線橋梁溝橋桁架換(門鐵管内) 四郎ヶ原伊
 佐間第十厚狹川橋梁桁架換 四郎ヶ原伊佐間第六厚狹川橋梁桁架換及補強 厚狹厚
 保間第二厚狹川外二箇所桁補強
 山陰線

○嵯峨龜岡間赤水谷川橋梁桁架換 ○嵯峨龜岡間保津川橋梁構桁架換 上井上灘間
 竹田川橋梁鐵桁架換
 關西線

德田川外四十箇所桁補強並架換工事 和歌山線船戸岩戸間紀ノ川橋梁構桁架換
 木津上狛間木津川橋梁鐵桁架換
 東北線

○東北本線第一蕨用水橋梁外三十七箇所桁改良 ○矢板野崎間箒川橋梁桁架換
 ○神立高濱間戀瀬川橋梁外一箇所桁改良 ○龜有金町間中川橋梁外一箇所桁改良
 我孫子取手間利根川橋梁桁改良 金町松戸間江戸川橋梁桁改良 平草野間夏井川橋
 梁桁改良 藤代佐貫間小貝川橋梁桁改良 隅田川橋梁改良 ○水澤金ヶ崎間膽澤
 川橋梁桁架換 小牛田田尻間江合川橋梁桁架換 野邊地有戸間枇杷川橋梁外八箇所
 桁架換及補強 浪江小高間室原川外九十一箇所橋梁及溝橋桁架換並補強
 磐越線

○中山宿上戸間第二岩滑川外五箇所橋梁桁架換及補強
 奥羽線

陣場碓ヶ關間第五平川外五十一橋梁及溝橋桁架換及補強
 信越線

荻川龜田間小阿賀川橋梁桁架換 ○沼垂新瀉間古信濃川外一箇所橋梁桁架換
 總武線

○栗山川橋梁桁架換
 長崎線

有田藏宿間B第二號外一八箇所桁架換
 日豐線

○今津豐前善光寺間社川橋梁桁架換 ○行橋新田原間稗川橋梁桁架換 大貞今津間
 犬丸川橋梁外十七箇所桁架換 新田原椎田間二口川橋梁桁架換
 筑豊線

臼井大隈間臼井橋梁外二十箇所桁架換 ○臼井嘉應川外一箇所桁架換
 函館線

○函館本線橋桁改良其ノ一二
 天鹽線

○天鹽線橋桁改良
 工務

四、隧道改良

東海道線

○逢坂山隧道排煙設備

○逢坂山及東山隧道排水設備

山陽線

○厚狹埴生間福田隧道道床改良

東北線

○常磐線金山隧道内道床路盤改築

奥羽線

○奥羽本線第二板谷峠隧道内路床改築

函館線

○俱知安隧道排水設備

五、防雪設備

名古屋鐵道局

○二本木驛構内雪覆新設

○柏原新井間線路切擴

○信越線防雪林第一期施設

○親不知青海間雪覆新設

○名立谷濱間頽雪止擁壁新設

北陸線防雪林第一期施設

大阪鐵道局

○豐岡玄武洞間一五四杆九一〇米附近線路切取切擴

○鹽見鳥取間二二三杆六〇〇米附近線路雪覆新設其ノ他

仙臺鐵道局

○赤岩板谷間二一杆三二〇米附近雪覆改築

○羽前向町瀨見間四五杆〇六〇米附近線路變更

○堺田富澤間五九杆二七〇米附近外一箇所雪覆改增築

○奥羽本線防雪林第七期施設

○大湊線防雪林設置

○横黒線防雪林第七期施設

○峠驛構内雪覆改築

札幌鐵道局

○函館本線八雲山崎間線路扛上

○防雪林第四期施設

○防雪林補植及保護

○函館本線小澤銀山間線路變更其ノ一

同其ノ二

停車場改良工事

○停車場改良工事ノ主ナルモノ左ノ如シ

一、操車場新設

鶴見操車場

用地買收ハ全部完了シ一工區第一期工事ハ總工程九分七厘方進捗シ軌道工事ハ一、二工區共完成シタリ

大阪客車操車場 用地買收ハ九分通進捗シ土工其ノ他工事ニ著手シ工程二分ヲ示スニ至レ

明石客車操車場 同工事ハ工程九分一厘方進捗シ本年度末使用開始セリ

田端操車場 第一回中部土工其ノ他工事及第二回南部土工其ノ他工事ハ軌道ノ一部ヲ除キ

完了シ第三回(構内土工其ノ他)工事ハ七分通進捗シ第四回(建物)工事ニ著手セリ、同驛改良ノ

内第七回(南部軌道及土工)工事ハ八分ノ工程ニアリ

戸山ヶ原客車操車場 用地ノ買收ヲ完了シタリ

吹田操車場 其ノ一土工其ノ他工事ハ九分八厘、同事ニ伴フ吹田驛改良工事ハ完了セリ
 長岡操車場 用地ハ殆ント全部ノ買収ヲ了シ驛、驛員詰所、機關庫轉車臺、中繼貨物積卸場新設
 工事等孰レモ本年度ニ於テ完了セリ又軌道敷設跨線道路橋新設工事等ハ工程八分通進捗
 セリ

小岩操車場 前年度ヨリ引續キ施行中ニシテ工程約八分五厘ニアリ
 二、驛改良

名古屋驛 用地買収ヲ了シ貨物設備工事ハ九分九厘、貨物積卸場及軌道敷設工事ハ九分三厘、
 客車操車場土工其ノ他工事ハ七分三厘方進捗セリ

大阪驛 用地ハ九分九厘方買収ヲ了シ貨物驛新設第一期其ノ一土工其ノ他工事ハ九分七厘、
 同第一期軌道工事ハ九分九厘、旅客驛改良第一期上下淀川間線路改築其ノ一工事ハ八分九
 厘、同其ノ二工事ハ二分五厘、其ノ三工事ハ三分五厘方孰レモ進捗シ、貨物驛新設ニ伴フ阪神
 電鐵線路扛上ハ完成シタリ、尙本年度著手セル驛構内高架橋及乗降場築造第一期工事ハ工
 程一分四厘方進捗セリ

三ノ宮驛 用地ハ電柱移轉及埋設物補償ノ一部ヲ殘シ略全部ノ買収ヲ了シ本年度著手シタ
 ル驛改築工事ハ約三分四厘方進捗セリ

神戸驛 用地ハ約九分七厘方買収ヲ了シ驛改築工事ノ内假乗降場ハ本年度完成シ改築其ノ
 二工事ハ約三分五厘方、改築其ノ三工事ハ約五分七厘方進捗シタリ
 福井驛 用地買収ヲ了シ同擴張工事ハ工程九分九厘方進捗セリ

兵庫驛 用地ハ全部ノ買収ヲ了シタルモ電柱移轉及埋設物補償ノ一部ヲ殘セリ、同改築工事
 ハ約三分二厘ノ工程ヲ示ス

隅田川驛 其ノ二工事ハ僅ニ軌道工事ノ一部ヲ殘シ殆ント竣成シタリ

秋葉原驛 引續キ施行中ニシテ工程約八分ニ達セリ

上野驛 第二期工事(電車線以外)ハ工程五分通進捗セリ

王子驛 第二期(軌道)工事ハ完成シタリ

赤羽驛 用地買収ハ略完了シ工事ハ九分八厘方進捗セリ

福島驛 増用地買収未了ノ分ハ本年度ニ於テ全部買収ヲ了シタリ

龜戸驛 本年度ニ於テ全部完了セリ

小名木川驛新設 前年度ヨリ引續キ施行中ニシテ略完了セリ

函館驛擴張 本驛擴張工事ノ内其ノ一工事ハ前年度ニ於テ完了シ其ノ二工事ハ工程九分六
 厘、其ノ三工事ハ九分四厘、其ノ四工事ハ四分通進捗セリ

三、水陸聯絡設備

小樽 水陸聯絡設備其ノ一岸壁新設其ノ他工事ハ工程六分通進捗セリ

室蘭 水陸聯絡設備其ノ一岸壁新設其ノ他工事ハ工程七分、同其ノ二軌道敷設工事ハ三分通
 進捗セリ

四、其ノ他各驛改良工事ノ内主ナルモノハ左ノ如シ(○印ヲ附シタルハ竣功ヲ示ス以下同シ)
 東海道線

工務

二〇六

- 沼津驛機關庫機車給炭裝置 ○米原驛側線增設其ノ他 ○京都驛側線增設
- 野洲驛側線增設 ○安治川口驛積卸線及貨車留置線增設 ○櫻島驛ガントリーク
レイン新設 灘驛改良
- 北陸線
- 敦賀水陸連絡設備改良 ○山中信號場有效長延伸 青海驛擴張 直江津驛擴張
- 敦賀側線增設 新保驛有效長延伸
- 中央線
- 初狩直通線新設 勝沼驛直通線新設
- 山陽線
- 應取驛擴張 ○姫路驛擴張工事ノ内第二期其ノ二 尾道驛有效長延伸其ノ他
- 下關驛竹崎埋立地側線增設 ○下關機關庫機車給炭設備 ○吉見驛改良
- 山陰線
- 米子驛側線增設 福知山驛給炭設備改良
- 關西線
- 長島驛有效長延伸附增用地買收 片町驛擴張 ○桃山驛擴張 ○八尾驛貨物積
卸場及上家改良 ○和歌山機關庫分庫改增築其ノ他
- 東北線
- 宇都宮驛擴張 高崎驛擴張其ノ二 ○新町驛有效長延伸 ○高萩驛第一種聯動裝

- 置 ○湯本驛第一種聯動裝置 ○高田馬場驛本屋改築 ○佐野驛本屋改築
- 平驛本屋改築 ○原宿驛地下道新設 ○田端驛貨物ホーム増築 ○熊谷驛轉車
臺新設 足利驛擴張 久喜驛有效長延伸 ○隅田川驛石炭積卸場扛上 ○仙臺
機關庫機車給炭裝置 小牛田驛改築 原町驛有效長延伸 狩場澤驛有效長延伸
- 奥羽線
- 弘前驛側線增設 ○浪岡驛有效長延伸 ○大釋迦驛有效長延伸 ○津輕新城驛
有效長延伸
- 信越線
- 横川機關庫増築 東三條驛改築 塚山驛待避線新設 ○新潟驛轉車臺改造
- 帶織驛有效長延伸
- 讚豫線
- 高松驛擴張
- 鹿兒島線
- 門司驛石炭船積裝置 ○門司機關庫機車給炭裝置 烏栖機關庫擴張 大里驛
下リ仕分線増設 折尾驛擴張 ○熊本驛擴張 戸畑ホイス卜岸壁延長其ノ他
- 筑豊線
- 直方驛擴張 芳雄驛擴張 若松驛起重機新設
- 日豊線

二〇七

工務

- 大分驛擴張
- 頭成驛擴張
- 函館線
- 駒ヶ岳驛改良
- 旭川驛機關車庫増築
- 根室線
- 帶廣驛本屋改築
- 宗谷線
- 稚内海陸聯絡設備改良其ノ二
- 五、停車場及信號所新設
- 東海道線
- 御油蒲郡間停車場新設
- 高塚信號所ヲ驛ニ變更
- 中央線
- 吉祥寺武藏境間驛新設
- 坂下三留野間信號場新設
- 三留野野尻間信號場新設
- 山陽線
- 庭瀬倉敷間帶江信號場ヲ驛ニ變更
- 和氣萬富間熊山信號場ヲ驛ニ變更
- 山陰線
- 湖山寶木間假驛ヲ驛ニ變更
- 溫泉津黒松間驛新設
- 湯町宍道間驛新設
- 嵯峨龜岡間信號場新設
- 梅迫舞鶴間信號場新設
- 關西線

○加佐登龜山間停車場新設

東北線

文挾今市間驛新設

奥羽線

- 横堀湯澤間信號場ヲ驛ニ變更
- 刈和野羽後界間信號場ヲ驛ニ變更
- 二ッ井鷹ノ集間信號場新設
- 大釋迦津輕新城間信號場新設

長崎線

佐賀久保田間信號場ヲ驛ニ變更

函館線

○森石倉間信號場新設

六、應舍、官舍、病院、倉庫、其ノ他

- 隅田川倉庫擴張
- 大臣官舎敷地用地買收
- 東京第一第二改良事務所應舍移轉
- 用地買收
- 蒲田合宿所新築
- 東神奈川驛合宿所増築其ノ他
- 名古屋港倉庫新設
- 稻澤職員集會所新築
- 高岡官舎及合宿所新築其ノ他
- 大阪鐵道病院新築
- 福知山運輸保線事務所改増築
- 米子運輸保線事務所改増築
- 櫻島貯炭場改築
- 由良貯炭場新設
- 安治川口倉庫改築
- 大阪倉庫新築
- 大里倉庫新設第一期
- 岩見澤驛官舎新築
- 釧路甲號合宿所改築
- 五稜郭倉庫設置

線路及建造物復興工事

大正十二年九月震災ニ依ル被害線路及建造物ノ復舊工事ノ内繼續施

工務

行中ノ主ナルモノ左ノ如シ

- 一、水道橋驛復舊土工建物共完成ス
- 二、田町上野間線路増設 東京柳原通間及神田川上野間用地買収ハ略完了、東京田町間用地買収ハ完了シ秋葉原上野間工事ハ六分通進捗セリ
- 三、鶴見程ヶ谷間線路増設 東神奈川程ヶ谷間線路増設工事總工程九分三厘ニシテ土工工事及軌道第一期工事ハ完了シ第二期工事ハ九分五厘方進捗セリ、鶴見東神奈川間線路増設工事ハ全部完成シ横濱櫻木町間線路増設工事ハ總工程七分一厘ニシテ内土工工事及軌道第一期工事ハ完成シタリ
- 四、兩國橋御茶ノ水間線路増設 用地買収ハ八分五厘方進捗セリ
- 五、兩國橋龜戸間線路増設 用地買収ハ完了シ兩國橋錦糸町線路増設工事ノ内第一回スラフ橋新設工事ハ略完了セリ
- 六、諸停車場復興工事

東京驛假裏口新設工事ハ完成ス

兩國橋驛擴張用地買収ハ九分五厘工事ハ八分五厘ノ工程ニ在リ

茲ニ最近三箇年間ニ於ケル工務關係改良工事決算額ヲ示セハ左ノ如クニシテ昭和四年度ハ三年度ニ比シ壹千九拾萬八千八百八拾八圓(一割五分)二年度ニ比シ壹千九百九拾六萬六千八百貳拾壹圓(二割四分)ノ孰レモ減額ヲ示セリ

年	度	改	良	費
和	和	和	和	和
二	三	四		
年	年	年		
度	度	度		
				六〇、九四四、五五一
				七、八五三、七三九
				八〇、九一一、三七三

第四節 線路並停車場

營業線路 本年度末ニ於ケル國有鐵道ノ營業線路ハ一萬四千二百二十一軒二百九十米、軌道延長二萬三千四百四十四軒二百五十七米ニシテ前年度ニ比シ前者ハ四百四十九軒二百六十八米(三分二厘)後者ハ八百十六軒七百六米(三分六厘)ノ孰レモ増加ヲ示セリ之ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

局 別	線 路		計 長	軌 道 延 長
	單 線	二 線 以 上		
東 京 鐵 道 局	一、〇三九、四〇一	七〇七、〇七六	一、七四六、四七七	四、三三、七九八
名 古 屋 鐵 道 局	一、四三六、六六六	三三五、三四〇	一、七七一、〇〇六	三、〇六、〇〇五
大 阪 鐵 道 局	二、〇七〇、一〇四	四六五、六六六	二、五三五、七七〇	四、三二、六八八
門 司 鐵 道 局	二、〇九一、八五三	四〇四、〇九六	二、四九五、九四八	四、〇七、五九〇
仙 臺 鐵 道 局	二、八五六、九九九	二八七、七三〇	三、八八五、四一九	三、九六、四八三
札 幌 鐵 道 局	三、四九三、五〇二	二二一、一六八	三、七〇六、六七〇	三、八八、三一九
合 計	一、一、九七三、二三四	三、一、四四〇、六六六	一、四、一一一、二九〇	三、三、四四、二五七
前年度比較増減	四、一、二六六	三、六六五、三	四、四九、二六八	八、一六、七〇六

工務
 尚本年度内ニ於テ新ニ營業ヲ開始セル線路及營業廢止線路ヲ示セハ左ノ如シ
 營業開始線路

局名	線名	區間	程	開業年月日
東京鐵道局	計	東海道本線	一六五〇	昭和四年八月二十一日
		東北本線	七五八七	同 四年六月二十日
		房總線	一六〇三九	同 四年四月十五日
		上總興津安房鴨川間	四〇二六	同 四年四月十五日
		清水港清水埠頭間	一〇五〇	同 五年二月一日
		飛驒金山燒石間	九〇四〇	同 四年四月十五日
		深戶郡上八幡間	八三九〇	同 四年十二月八日
		越中八尾笹津間	八三五〇	同 四年十月一日
		信濃大町築場間	二二四〇	同 四年九月二十五日
		計	三七九七〇	
名古屋鐵道局	計	作備西線	八三三〇	同 四年四月十四日
		三神線	九九七〇	同 五年二月十日
		峰豐線	二八八〇	同 四年十二月十五日
		若櫻線	四四六〇	同 五年一月二十日
		名松線	七〇三〇	同 四年八月二十五日
		紀勢西線	八五九〇	同 五年三月三十日
		紀伊由良御坊間	八三三〇	同 四年四月二十一日
		紀伊由良由良内間	一八三〇	同 四年四月二十一日
		權現前井關間	八五九〇	同 五年三月三十日
		松阪權現前間	七〇三〇	同 四年八月二十五日
大阪鐵道局	計	新見岩山間	八三三〇	同 四年四月十四日
		備中神代矢神間	九九七〇	同 五年二月十日
		豐岡久美濱間	二八八〇	同 四年十二月十五日
		郡家隼間	四四六〇	同 五年一月二十日
		名松線	七〇三〇	同 四年八月二十五日
		紀勢西線	八五九〇	同 五年三月三十日
		紀伊由良御坊間	八三三〇	同 四年四月二十一日
		紀伊由良由良内間	一八三〇	同 四年四月二十一日
		權現前井關間	八五九〇	同 五年三月三十日
		松阪權現前間	七〇三〇	同 四年八月二十五日

工務

局名	線名	區間	程	開業年月日
東京鐵道局	計	東海道本線	一六五〇	昭和四年八月二十一日
		東北本線	七五八七	同 四年六月二十日
		房總線	一六〇三九	同 四年四月十五日
		上總興津安房鴨川間	四〇二六	同 四年四月十五日
		清水港清水埠頭間	一〇五〇	同 五年二月一日
		飛驒金山燒石間	九〇四〇	同 四年四月十五日
		深戶郡上八幡間	八三九〇	同 四年十二月八日
		越中八尾笹津間	八三五〇	同 四年十月一日
		信濃大町築場間	二二四〇	同 四年九月二十五日
		計	三七九七〇	
名古屋鐵道局	計	作備西線	八三三〇	同 四年四月十四日
		三神線	九九七〇	同 五年二月十日
		峰豐線	二八八〇	同 四年十二月十五日
		若櫻線	四四六〇	同 五年一月二十日
		名松線	七〇三〇	同 四年八月二十五日
		紀勢西線	八五九〇	同 五年三月三十日
		紀伊由良御坊間	八三三〇	同 四年四月二十一日
		紀伊由良由良内間	一八三〇	同 四年四月二十一日
		權現前井關間	八五九〇	同 五年三月三十日
		松阪權現前間	七〇三〇	同 四年八月二十五日
大阪鐵道局	計	新見岩山間	八三三〇	同 四年四月十四日
		備中神代矢神間	九九七〇	同 五年二月十日
		豐岡久美濱間	二八八〇	同 四年十二月十五日
		郡家隼間	四四六〇	同 五年一月二十日
		名松線	七〇三〇	同 四年八月二十五日
		紀勢西線	八五九〇	同 五年三月三十日
		紀伊由良御坊間	八三三〇	同 四年四月二十一日
		紀伊由良由良内間	一八三〇	同 四年四月二十一日
		權現前井關間	八五九〇	同 五年三月三十日
		松阪權現前間	七〇三〇	同 四年八月二十五日
門司鐵道局	計	三原須波間	五二〇〇	同 五年三月十九日
		麻里布岩國間	三七三〇	同 四年四月五日
		東萩奈古間	二八四〇	同 四年四月二十四日
		黃波戸長門古市間	四〇七〇	同 四年十月十三日
		西國分國分間	二五七〇	同 四年十一月二十四日
		長崎長崎港間	一〇三〇	同 五年三月十九日
		肥前山口肥前龍王間	九八一〇	同 五年三月十九日
		伊萬里楠久間	五五九〇	同 五年三月二十一日
		豐後中村豐後森間	九九三〇	同 四年十二月十五日
		西都城財部間	七〇〇〇	同 四年四月二十八日
筑前内野原田間	一四八八〇	同 四年十二月七日		
仙臺鐵道局	計	笹川谷田川間	八五七〇	同 四年五月十日
		仙臺愛子間	一五三〇	同 四年九月二十九日
		折壁氣仙沼間	一三三〇	同 四年七月三十一日
		荒屋新町田山間	一五〇〇	同 四年十月二十五日
		陸中八木久慈間	二七五〇	同 五年三月二十七日
		陸中八木久慈間	六四三〇	同 四年十一月二十六日
		陸中八木久慈間	七五七五〇	同 四年十一月二十六日
		陸中八木久慈間	七五七五〇	同 四年十一月二十六日
		陸中八木久慈間	七五七五〇	同 四年十一月二十六日
		陸中八木久慈間	七五七五〇	同 四年十一月二十六日

局名	線名	區	間	程	開業年月日	
札幌鐵道局	合計	瀨籠線	國縫	花石間	昭和四年十二月十三日	
		雨龍線	鷹泊	幌加内間	同 四年十一月八日	
		廣尾線	帶廣	中札内間	同 四年十一月二日	
		釧網線	標茶	弟子屈間	同 四年八月十五日	
		石北西線	上川	中越間	同 四年十一月二十日	
		網走本線	斜里	札鶴間	同 四年十一月十四日	
		石北東線	丸瀬布	白瀧間	同 四年八月十二日	
		合計			四五四・〇一	
					一六五九〇	
					一三六〇九〇	

營業廢止線路

局名	線名	區	間	程	廢止年月日
東京鐵道局	東海道本線	高島	程ヶ谷間	三・三三三	昭和四年九月十五日限リ
名古屋鐵道局	同	熱田	古渡間	一・八四三	同 五年三月三十一日限リ
合計				五・二二六	

停車場

本年度末ニ於ケル停車場數及信號場、信號所數ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

備考 本年度内營業開始線路ノ新數ト營業廢止線路新數ノ差引増加新數カ本年度末ニ於ケル營業線路新數ノ前年度比較増加新數ニ符合セサルハ年度内改良工事ニ依ル線路ノ部分變更ニ對スル増減新數ヲ含マサルニ依ル

種別	前年度比較増減	停車場		信號場		信號所	
		普通旅客貨物電車	假乗降場	假乗降場	計	計	計
東京鐵道局	三〇一	九	三	一	一	一	一
名古屋鐵道局	三〇〇	九	五	一	一	一	一
大阪鐵道局	四九三	五	一	一	一	一	一
門司鐵道局	四六六	一	一	一	一	一	一
仙臺鐵道局	四六九	一	一	一	一	一	一
札幌鐵道局	三八五	一	一	一	一	一	一
合計	二四六六	一	一	一	一	一	一
前年度比較増減	七九	一	一	一	一	一	一

第五節 用地並諸建物

用地 本年度末ニ於ケル鐵道用地ハ三億九千五百六十四萬五千六百四十六平方米ニシテ前年度ニ比シ八百二十三萬八千四百六十平方米(二分一厘)ヲ増加セリ之カ内譯ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	官舎敷	工場敷	倉庫敷	停車場敷	線路敷	雜用地	計
東京鐵道局	三〇、五〇〇	八六、七八三	二二、三〇六	一四、〇六七	二四、九八五	二八、四三三	四〇、四七四
名古屋鐵道局	一三、八二一	四一、三六三	八〇、七四六	一〇、七四八	二四、八八三	三五、〇五六	三六、三七八
大阪鐵道局	一五、八六三	四七、〇一七	六〇、六五六	一、四〇三	三五、四五三	五、七九〇	四八、六〇〇
門司鐵道局	二五、六五〇	二七、二〇一	四六、八八九	一三、一六四	三七、二七七	一八、六七四	五二、〇二一
合計	八五	二六六	三九六	二六	八三	一〇〇	二二

種別	鐵道		橋		雜橋		計	隧道
	甲	乙	陸海及 陸橋	其他	計	隧道		
種別	官舎敷	工場敷	倉庫敷	停車場敷	線路敷	雜用地	計	
仙臺鐵道局	二九、四五七	四〇、九八二	一〇、八五五	一八、一九五〇〇八	四六、六一三、五九五	七、七三八	六五、五二九、二三五	
札幌鐵道局	四九五、八三七	九一〇、三五六	五〇、一八三	二六、九七一、〇五五	一三五、〇七五、二六五	三三、七八四	一五、七四〇、五二〇	
合 計	一、六四五、四三八	三、三四九、三五二	四七、七八五	九五、五五〇、〇七四	二九四、二五八、三九二	三〇、四九五	三九五、六四五、六四六	
前年度比較増減	△ 六、〇七九	三五、三五五	二、三六〇	三一、五三六、六六四	六、〇〇三、五八二	二九、三九八	八、三三八、四六〇	

橋梁並隧道 本年度末ニ於ケル鐵道橋及雜橋梁等ノ總延長ハ四十五萬七千二百六十五米、隧道總延長ハ四十五萬四千八百五十七米ニシテ前年度ニ比シ前者ハ二萬二千二百二米(五分一厘)、後者ハ二萬四千七百八十七米(五分七厘)ノ増加ヲ示セリ之カ内譯ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	鐵道		橋		雜橋		計	隧道
	甲	乙	陸海及 陸橋	其他	計	隧道		
種別	桁橋	拱橋	開渠	暗渠	陸海及 陸橋	其他	計	隧道
東京鐵道局	七、六四四	一一、五九四	五、〇五九	二、八一	一一、七六	五、九二九	一〇四、二三	五、一九五四
名古屋鐵道局	五四、四一九	七三	七、四〇〇	二、三五九	五〇九	二、九一八	六八、三三七	七五、九〇四
大阪鐵道局	八〇、〇三四	八五七	一〇、一〇六	三、七〇七	二〇九	二、七三	九七、六四五	九九、五七八
門司鐵道局	五六、六四一	一、七四	一〇、四二五	三、五四九	四、三〇二	二、一五五	七八、一四六	一〇、三四一五
仙臺鐵道局	五二、五四	二二四	六、八八七	二、四九	七	一、九三〇	六四、一二	九三、〇四一
札幌鐵道局	三一、三八四	七三	三、七三	一、二八五	七、九三	五〇八	四四、九二	三一、九六五
合 計	三五二、六六六	一四、六五四	四三、六〇八	一六、一〇二	一四、一〇三	一六、一六二	四五七、二六五	四五四、八五七
前年度比較増減	一六、一六六	三三五	八、六四	二、四〇二	七、六三	一、六五二	二、三〇二	二四、七八七

諸建物 本年度末ニ於ケル諸建物ノ總平方米ハ五百八十一萬八千七百八十五平方米ニシテ前年度ニ比シ二十六萬四千七十七平方米(四分七厘)ヲ増加セリ之ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	官舎		停車場		工場及 發變電所		病院及 教習所		倉庫		雜建物		旅館		計
	官舎	停車場	工場及 發變電所	病院及 教習所	倉庫	雜建物	旅館	計	官舎	停車場	工場及 發變電所	病院及 教習所	倉庫	雜建物	
東京鐵道局	三五九、〇二〇	八七、八〇六	一五、八三八	三六、二七四	三六、四三四	一一、三二七	一、四七二、六七九								一、四七二、六七九
名古屋鐵道局	一八、八五九	三九、四三〇	六、〇六三	一八、八七九	一〇、二四二	三、二七四	六七一、一四七								六七一、一四七
大阪鐵道局	二五、三三五	六六、七二四	七、七〇〇	二八、五三一	二九、五七	四、一五七	一、〇四、四〇二								一、〇四、四〇二
門司鐵道局	二二、三七八	四三八、三八七	六、〇三五	二、六四九	一四、五四五	三七、九〇三	四〇一、三七六								四〇一、三七六
仙臺鐵道局	二二、八三三	四三、三九四	四、五二五	一五、五九八	七、五八〇	三〇、四八〇	七五八、〇八五								七五八、〇八五
札幌鐵道局	五一、三三二	三七、九〇四	五、七二〇	二五、〇七六	一八、三三三	二五、二七二	一〇一、〇九六								一〇一、〇九六
合 計	一、七七〇、五三七	三、一六七、一五〇	四、五八、四三〇	一四、五九九七	一、六六、八二	一、五〇、四一三	九、五七六								五、八一八、七六五
前年度比較増減	八三、四〇三	九三、六六四	二、六八六	一、四九九七	一、八一〇〇	二、五八九二	一八二								二、六四、〇七

第六章 工 作

第一節 工 場

工場敷 本年度末ニ於ケル工場及同派出所敷ハ工場二十一箇所、同派出所五箇所ニシテ苗穂工場派出所苦小牧ハ昭和四年十二月九日之ヲ廢止セリ

右ヲ鐵道局別ニ示セハ次ノ如シ

- 東京鐵道局 大宮(隅田川)大井(汐留)新小岩
- 名古屋鐵道局 名古屋(濱松)長野(金澤)
- 大阪鐵道局 鷹取(徳島)多度津(吹田)後藤
- 門司鐵道局 下關(小倉)若松(西鹿兒島)
- 仙臺鐵道局 郡山(盛岡)土崎
- 札幌鐵道局 苗穂(輪西)五稜郭(旭川)釧路

備考 括弧内ハ上記工場ノ派出所ヲ示ス

工場従事員數並技工及工手働狀態 本年度末工場従事員總數ハ工場長以下一萬五千七百七十六人ニシテ其ノ内譯ハ雇員以上四千八百三十四人(雇技工手千五百十六人ヲ含ム)第一種傭人六百十五人、第三種傭人一萬三百二十七人ナリ、而シテ之ニ對スル本年度末現在ノ給料月額ハ雇員以上參拾七萬貳百貳拾四圓雇技工手ノ分拾壹萬四千貳拾參圓ヲ含ム、第一種傭人貳萬六千五百五拾圓、第三種傭人五拾六萬八千貳百參拾圓、合計九拾六萬五千四圓ナリ、之ヲ前年度末ニ比スルニ雇員以上ハ人員五百七十七人、給料月額參萬九千七拾八圓ノ増加ナルモ其ノ内雇技工手ニ對スル分ヲ除ケハ人員七十六人、給料月額八千拾貳圓ノ増加ナリ、第一種傭人ハ人員七人、給料月額九百四拾九圓ヲ減少シ、第三種傭人ハ人員六百四十五人、給料月額參萬七千四百貳拾壹圓ヲ減少セルモ之ニ雇技工手ニ對スル分ヲ加フレハ人員二百十四人、給料月額六千參百五拾六圓ノ減少トナル本年度ニ於ケル工場技工及工手ノ働人工ハ三百六十一萬五千六百九十三人工ニシテ之ニ對ス

ル支拂賃金ハ九百七拾五萬七千六百七拾九圓(賃請仕事ニ對スル加給金貳百八拾五萬百九圓ヲ含ム)ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ働人工ハ六萬八千二百二十七人工(一分九厘)支拂賃金ハ拾參萬七千六百拾參圓(一分四厘)ヲ減少セリ

本年度中各工場ヲ通シタル工場技工及工手ノ平均作業日數ハ三百九日一分(一箇月平均二十五日八分)ニシテ前年度ニ比シ二・二日ヲ減少シ、一日平均現在人員ハ一萬二千百三人ニシテ前年度ニ比シ百五十人ヲ減シ、出勤割合ハ九割六分一厘ニ當リ前年度ニ比シ六厘ヲ増加セリ、而シテ作業一日平均働人工ハ一萬一千六百九十四人工ニシテ前年度ニ比シ百三十七人工ヲ減少シ、一人一日平均働人工ハ一〇・一人工ニ當リ前年度ト増減ナシ、又作業一日平均支拂賃金ハ參萬壹千五百七拾七圓ニシテ前年度ニ比シ貳百四拾壹圓ヲ減シ、出勤者一人當平均日收ハ貳圓七拾壹錢五厘賃請加給金七拾九錢參厘ヲ含ムニシテ一箇月平均作業日數二十五日八分ニ對スル出勤者一人當平均月收ハ七拾圓四錢七厘トナリ前年度ニ比シ日收ハ壹厘、月收ハ貳拾九錢七厘ヲ減少セリ、又現在人員即チ在籍者延現在人員一人當ノ日收ハ貳圓貳拾錢九厘ニシテ之レニ曆日數ヲ乘シタル一人當平均月收ハ六拾七圓拾五錢參厘トナリ前年度ニ比シ日收四厘、月收拾貳錢貳厘ヲ減少セリ、尙總實働人工ノ内賃請仕事ニ從事シタル人工ノ割合ハ七割二分四厘ニシテ前年度ニ比シ一分五厘ヲ増シ、賃請加給金ノ割合ハ賃請實働賃金ノ五割四分ニ當リ前年度ニ比シテ二分ノ減少ヲ示セリ

更ニ本年度中ニ於ケル工場技工及工手ノ異動狀態ヲ見ルニ新規採用並自工場外ヨリ轉入シタル者四百四十九人、自工場内他職ヨリ轉入シタル者二十三人、計四百七十二人ニシテ退職、死亡及

自工場外へ轉出シタル者五百三十一人、自工場内他職へ轉出シタル者百五十五人、計六百八十六人ナリ之ヲ前年度ニ比スレハ新規採用及轉入者百七十五人、退職死亡及轉出者八十七人ヲ孰レモ減少セリ

其ノ他本局及庫所機關庫、檢車所、電車庫、車電所ノ本年度末ニ於ケル修車費所屬現在人員ハ雇員以上千二百六十四人、第一種雇員三千九百七十七人ニシテ之ニ對スル給料月額ハ雇員以上拾萬四千四拾六圓、第一種雇員貳拾貳萬五千貳百參拾參圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ雇員以上ハ人員二百十八人、給料月額壹萬六千八百五拾四圓ノ増加ナルモ其ノ内雇員技工ニ對スル分ヲ控除セハ人員ハ九人、給料月額ハ壹千四百貳拾圓ノ増加ナリ、又第一種雇員ハ人員百三十二人、給料月額九千八百拾壹圓ヲ減少セルモ之ニ雇員技工ニ對スル分ヲ加フレハ人員ハ七十七人、給料月額五千六百貳拾參圓ヲ増加セルコトナレリ

本年度庫所ニ於ケル働延人員ハ百六十九萬四千三百二十八人ニシテ之ニ對スル支拂賃金ハ參百參拾六萬七千五百六圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ働延人員ハ五萬六千四百四十人、支拂賃金ハ拾參萬六千九百八拾七圓ヲ増加セリ

工場生産額 本年度工場ニ於ケル工事施行總額ハ工事人工二百四十八萬七千二百二十八人工、之ニ對スル工作費貳千貳百貳拾七萬六千六百六拾貳圓、材料費貳千八百八拾四萬六千五百壹圓、合計五千百拾貳萬參千六百六拾參圓ナルカ内、鑄造、木挽、工事落成品、代、機械及器具修繕費並工場相互間委託工事費ニシテ自工場内ニ於テ他工事ニ使用シ又ハ他工場勘定へ振替ヘタル金額八百五拾壹萬百參拾六圓ヲ控除セハ純生産額ハ工作費千九百五拾七萬四千七百九拾七圓、材料費貳千

參百參萬八千貳百參拾圓、合計四千貳百六拾壹萬參千貳拾七圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ工事人工ハ四萬六千八百十五人工ヲ減少シ、施行額ハ百七萬參千七百九拾壹圓、純生産額ハ百四拾八萬四千百貳拾八圓ヲ増加セリ

前記施行額ヲ工事別ニ示セハ車輛修繕貳千六百四拾九萬貳千五百六拾四圓、車輛改良七百九拾九萬五千五百參拾壹圓、車輛製作貳百四拾萬四千六百八拾壹圓、其ノ他鐵道用品製修壹千四百貳拾參萬四千參百八拾七圓ニシテ前年度ニ比シ車輛修繕ハ九萬七千拾六圓、車輛改良ハ九拾九萬參千百貳拾參圓、車輛製作ハ七萬四百貳拾貳圓ヲ増加シ、其ノ他鐵道用品製修ハ八萬六千七百七拾圓ヲ減少セリ

本年度中工場ニ於テ修繕シタル車輛數ハ蒸氣機關車三千八百七十七輛建設、改良工事專用車二十八輛、工場入換用車五輛、**チーゼル**車二輛ヲ除ク、電氣機關車九十五輛、客車、**ボギー**換算一萬六千三百五十五輛建設、改良工事專用車七百四十八輛ヲ除クニシテ前年度ニ比シ蒸氣機關車七十九輛、電氣機關車三輛ヲ減少シ、客車四百八十輛、電車二百三十七輛、貨車二千五百二輛ヲ増加セリ、又機關庫、檢車所、電車庫ニ於テ施行セル輕易ナル修繕輛數ハ蒸氣機關車一萬七千七百十五輛、**チーゼル**車五輛ヲ除ク、電氣機關車二千六輛、客車、**ボギー**換算五萬二千二百七十七輛、電車七千七百二輛、貨車五十萬千九百三十三輛ニシテ前年度ニ比シ蒸氣機關車七百二十六輛、電車四千九百二十九輛、貨車四千四百二十八輛ヲ減少シ、電氣機關車四百三輛、客車五千三百三輛ヲ増加セリ

本年度省内工場ニ於ケル車輛新製落成輛數ハ六輪**ボギー**一等展望車三輛、同一等寢臺車五輛、同

工 作

二二二

一等寢臺緩急車五輛、同二等寢臺車七輛、三等電動車電氣裝置五十三輛、三十噸大物車十輛、雪搔車搔寄三輛、同ロータリー一輛、同單線用ラッセル四輛ナリ、又車輛改造落成輛數ハ蒸氣機關車千二百六十三輛、電氣機關車九十二輛、客車六千六百九十一輛、電車六百二十八輛、貨車一萬二千二十九輛ナリ

前掲工場施行車輛修繕費額ヨリ副生品生産額ヲ低減シタル修車費決算額ハ蒸氣機關車壹千七百拾貳萬七千五百參拾參圓、電氣機關車參拾六萬九千百拾貳圓、客車五百八拾萬貳千九百六拾八圓(見積落成差益五百貳拾九圓ヲ含ム)、電車百拾六萬九千四百參拾九圓、貨車五百參拾八萬壹千六百六拾四圓、機械器具貳拾貳萬貳千九百八拾九圓、合計貳千參百六拾七萬參千七百五圓ニシテ之ニ本省八拾貳萬七千五百壹圓割掛費貳拾六萬九千五百貳拾五圓ヲ含ム、本局百參拾萬八千五百四拾貳圓、庫所四百五拾貳萬七千五百四拾參圓ヲ加算シタル修車費總決算額ハ參千參拾參萬七千貳百九拾壹圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スレハ工場貳拾六萬七百七拾參圓、本局拾貳萬壹千參拾壹圓、庫所貳拾萬參千七百七拾九圓ヲ増加シ、本省拾壹萬四千四拾五圓ヲ減少シ、差引合計四拾七萬九百參拾八圓ヲ増加セリ

前記工場ニ於ケル各車種別修繕車一輛當リ費額(副生品生産額ヲ低減セサル施行額)ハ左表ノ如シ

車種別	大 修				小 修			
	人工	工費	材料費	計額	人工	工費	材料費	計額
蒸氣機關車	三三六〇 <small>人工</small>	三〇三二 <small>工費</small>	二二七九 <small>材料費</small>	五三〇一 <small>計額</small>	五七〇 <small>人工</small>	五三六 <small>工費</small>	二八七 <small>材料費</small>	八二三 <small>計額</small>

電氣(アフト用)	客車	電車	貨車	電氣機關車(其ノ他)			
				平車	附隨車	平均車	均車
二七六〇	二〇七〇	五四二	六五一	二二一	四三七	四三七	七四
三四三六	一八二九	四五	五七	一九一	三九五	三九五	六五
一三九六	一七七一	三三三	七七	一〇一	四八	四八	五五
三三三三	三三〇一	六八四	一三〇四	二九五	八三	八三	一〇
三〇三〇	一三六〇	六二	一八二	六六	一四四	一四四	二五
一七六八	一一九九	五三	一六五	六〇	一三〇	一三〇	三三
三四三	一〇九	六	六三	六三	六三	六三	二
三、三〇	一、〇八	八一	三二七	一三三	一九五	一九五	三三

備考 一、本表ニハ建設、改良工事専用車チーセル車、工場入換用車輛ノ分ヲ含マズ
二、電氣機關車欄其ノ他ニハ蓄電池機關車ヲ含ム

本年度ニ於テ修車費ヨリ低減シタル副生品生産額ハ省内工場ニ於テ評價使用シタルモノ百七拾八萬五千九百貳圓、省外へ賣却シタルモノ八拾九萬壹千六百四拾參圓、貯藏品ニ編入シタルモノ拾四萬壹千八百四拾參圓、合計貳百八拾壹萬九千參百八拾八圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スレハ評價使用壹萬七千九百九拾九圓、貯藏品ニ編入壹萬百拾圓ヲ増加シ、省外賣却拾八萬四千九百六拾參圓ヲ減少シ、差引合計拾五萬六千八百五拾四圓ヲ減少セリ

工場施設 本年度ニ於ケル工場施設ノ概要左ノ如シ

- 敷地 本年度末現在 二、八一七、二七二平方米(前年度末比較減三九七八五平方米)
 - 建物 同 五〇五、三九九平方米(前年度末比較增二三、〇七八平方米)
 - 線路 同 二〇五、四一籽(同一一九籽)
 - 機械 同 六、二八五組(同一六五組)
- 組數 一五、一八一、九四二圓(同七八二、六九二圓)
- 價額

工 作

二二三

工作

機械内譯

工作機械	三、八八七	九、九八九、九九四
原動機械	一一五	五二八、五二三
電氣機械	一、〇五〇	一、二二五、二五七
物揚機械	四七四	一、六七〇、八七〇
唧筒機械	八一	七八、九六七
空氣機械	二三二	五一、四八四
試験機械	七一	一五四、〇七四
車輛移動機械	三二	一三一、九九八
其ノ他	三四三	八九〇、七七五

本年度ニ於ケル工場ノ擴張及改良工事ノ主ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

鷹取工場 四年二月起工ノ貨車職場新築工事ハ五年三月竣功シ四年二月著手ノ木型場新築
 工事及同年九月著手ノ電壓變更工事ハ共ニ工事中ニ屬ス

小倉工場 三年十二月起工ノ工具職場新築工事ハ五年三月竣功セリ、三年十月燒失セシ塗工
 及縫工職場ハ三年十二月ヨリ復舊工事ニ著手シ目下工事中ニ屬ス

濱松工場 三年十二月起工ノ倉庫新築工事ハ四年五月ニ竣功セリ

旭川工場 三年七月燒失セシ倉庫ハ直チニ之カ復舊工事ニ著手シ四年五月竣功セリ

大宮工場 四年十一月鐵材倉庫新築工事ニ著手シ目下工事中ナリ

大井工場 五年一月著手ニ係ル治療所増築工事ハ同年三月竣功セリ

新小岩工場 五年二月倉庫新築工事ニ著手シ目下工事中ナリ

新設幡生工場(下關工場移轉) 四年四月建物工事ニ著手シ目下工事中ニ屬ス

新設松任工場(金澤工場移轉) 本年度土工及線路工事ニ著手シ目下施工中ナリ

新設多度津工場(鷹取工場多度津派出所擴張) 五年一月客車塗工職場新築及軌道敷設工事ニ
 著手シ目下工事中ニ屬ス

郡山工場(擴張) 貨車職場新築ノ爲本年度ニ於テ用地一三、九七二平方米ヲ買收セリ
 本年度ニ於テ施行セル工場機械設備ノ主ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

大宮工場	トラバース	一組	鷹取工場	ジヤイナル	一組
	ホリゾミ	一組		インデル	一組
	ミリング	一組		マシン	一組
	鋼板歪取	一組		シリ	一組
	機械	一組		ポ	一組
	カーホキ	一組		ーリ	一組
	ール	一組		ン	一組
	レース	一組		グ	一組
		一組		マ	一組
大井工場	天井移動起重機	一組	若松工場	電動エヤーハンマー	一組
濱松工場	自動機	一組	小倉工場	カーホキールレース	一組
長野工場	電動エヤーハンマー	一組	苗穂工場	ガソリン機關車	一輛
吹田工場	電動エヤーハンマー	一組		電動エヤーハンマー	一組

驛機關庫、檢車所其ノ他ニ於ケル機械施設 本年度末ニ於ケル驛、機關庫、檢車所其ノ他ノ機械施設

ニシテ鐵道局工作課ニ於テ機械管理手續ニ依リ管理セルモノノ概要左ノ如シ

工作

工 作

驛機械

組數 一、三五〇組
價格 八、三二六、五九五圓

内 譯

物揚機械

五〇三組

五、三〇三、八二一圓

空氣機械及唧筒機械

五三組

三七、二四八圓

原動機械

五三組

七二、九一八圓

其ノ他

七四一組

二、九一二、六〇八圓

機關庫、檢車所其ノ他機械

組數

五、一二三組

内 譯

價格

一〇、七〇七、七七五圓

工作機械

一、二〇五組

九〇一、三九二圓

原動機械

四八八組

一〇八一、八三四圓

電氣機械

五〇九組

一八五、九二四圓

物揚機械

五二四組

二、八二三、二九四圓

唧筒機械

四八八組

二八三、一二三圓

空氣機械

五三〇組

五〇八、五六〇圓

印刷機械

二二〇組

四一四、九三八圓

試驗機械

九六組

三七七、五〇四圓

車輛移動機械

一九二組

一、三七〇、六九九圓

雜機械

八七一組

二、七六〇、五〇七圓

本年度ニ於テ驛所機械設備工事ノ竣功セル主ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

一、驛ニ於ケル貨物取扱設備

(イ) 木材取扱設備

留邊藁、小樽築港、上士幌、布部各驛

蒸氣ロコモチフクレイン

四組

湊町驛

オーバーヘッドクレイン

一組

(ロ) 石炭及砂利取扱設備

隅田川驛

ガントリークレイン

一組

(ハ) 重量品取扱設備

新宿及櫻島驛

ガントリークレイン

二組

白河驛

手動門型クレイン

一組

(ニ) 水陸連絡設備

飾磨港及安治川口驛

テルフアー

二組

安治川口驛

ワイフクレイン

一組

(ホ) 雜設備

大分驛

電動遷車臺

一組

足利外十驛

ジフクレイン

一一組

工 作

二二七

工 作

(〜) 手小荷物取扱設備

二二八

赤羽、高崎、大宮、米原、王子、濱田、小郡

跨線用テルフアー

一二組

直方、仙臺、柏崎、新庄、岩見澤各驛

渡線装置

三九組

岩瀬外三十八驛

二、機關庫ニ於ケル機關車給炭、給砂及灰取扱設備

平機關庫

アツシユ用クレীন

一組

下關及門司機關庫

バケツトエレベーター付給
炭槽及アツシユ用クレীন

二組

水戸機關庫

ガントリークレীন及給炭槽

一組

新津及一ノ關機關庫

給炭槽

二組

三、機關庫、檢車所其ノ他ニ於ケル車輛修繕設備

國府津機關庫

リフチングチャッキ

一組

高崎機關庫

車輛修繕集中設備工事

一式

鶴見機關庫

機關庫新設ニ伴フ機械設備

一式

東京檢車所外七十三箇所

空氣制動機試驗装置

七四組

目下工事施行中ノ主ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

一、驛ニ於ケル貨物取扱設備

(イ) 石炭取扱設備

青森及安治川口驛(二組)

ガントリークレীন

三組

(ロ) 木材取扱設備

海神奈川驛

テルフアー

一組

(ハ) 水陸連絡設備

若松驛

ガントリークレীন

一組

(ニ) 雜設備

淀川驛

電動トラバース

一組

二、機關庫ニ於ケル給炭、給砂及灰取扱設備

長野、直江津、米子、新庄各機關庫

ガントリークレীন及給炭槽

四組

盛岡機關庫

給炭槽

一組

第二節 車 輛

現在車輛及價格

本年度末ニ於ケル省有現在車輛數ハ蒸氣機關車四千二百二十二輛此ノ重量(運轉整備ノ時)三十二萬八千六百五十八噸、電氣機關車九十七輛此ノ重量(運轉整備ノ時)六千三百六十六噸、特種機關車三輛此ノ重量(運轉整備ノ時)百二十噸、客車一萬四百二十九輛此ノ乘客定員五十五萬七千五百三十二人、電車一千三十八輛此ノ乘客定員十萬二千八百八十五人、汽動車二十八輛此ノ乘客定員一千六百六十八人、貨車六萬七千四百三十四輛此ノ荷重噸數八十七萬九千二百七十四噸ニシテ之レニ對スル車輛財產價格ハ六億貳千百參拾七萬七千參百拾五圓ナリ、之レヲ前年

工 作

二二九

工 作

二二〇

度ニ比較スルニ蒸氣機關車二十一輛重量一萬五千九百九十二噸、特種機關車一輛(重量五十九噸)、客車二百四十二輛(定員二萬一千二百九十五人)、電車六十二輛(定員六千二百七十二人)、汽動車十二輛(定員五百十六人)、貨車千五百三十八輛(荷重三萬二千三百五十六噸)ヲ孰レモ増加シ車輛財產價格ニ於テ參千貳百七拾五萬貳千七拾壹圓ノ増加ヲ示セリ尙現在車輛ヲ所屬別ニ表示スレハ左ノ如シ

機關車

種 別	飽 和		過 熱		電 氣 機 關 車		特 種 機 關 車		合 計
	輛數	重 量	輛數	重 量	輛數	重 量	輛數	重 量	
東京鐵道局	二五〇	一、三五五、〇三	四六八	四、六八、七五	七三三	五九、四一、七八	—	—	六、〇二
名古屋鐵道局	二二四	一、〇、四七、〇五	五三六	五、四〇、八六、〇四	七五〇	六四、三三、〇九	—	—	七、五〇
大阪鐵道局	二四三	一、一八、八八、四五	四七六	四、五、〇三、八、四九	七一九	五、八、八、五、六、九、九	—	—	五、九、〇
門司鐵道局	二二二	一、三、七、三、五、九	四二八	四、〇、四、五、九、〇、五	六四〇	五、三、八、三、一、六、四	—	—	六、四、〇
仙臺鐵道局	二六三	一、三、四、二、五、四	四三三	三、九、三、九、〇、九、五	六九六	五、一、七、三、三、四、九	—	—	六、九、六
札幌鐵道局	三三二	一、三、五、二、三、四	二九四	二、八、四、一、九、五、二	五五五	四、一、九、三、一、八、六	—	—	五、五、五
工 事 專 用	八〇	一、八、二、九、三、八	—	—	八〇	一、八、二、九、三、八	—	—	八、〇
合 計	一、四、八、七	七、四、六、八、三、六	二、六、五、三、三	二、六、九、八、五、四	一、三、三、八	一、三、三、八、六、三	—	—	一、三、〇、九、三、四
前年度比較増減	△二六六	△六、二、四、五、五	—	—	—	—	—	—	—

備考 一、飽和輛數中ニハ七六二耗軌輛用ノモノ東京鐵道局四輛、名古屋鐵道局二輛、仙臺鐵道局三輛、札幌鐵道局八輛、工專專用六十六輛ヲ含ム

客車(含電車)

種 別	客 車		電 車		汽 動 車		合 計	
	輛數	定員	輛數	定員	輛數	定員	輛數	定員
東京鐵道局	二、一〇九	一、二九、五、三四	一、〇三七	一〇一、一八、五	—	—	三、一四六	二、三〇、七、二九
名古屋鐵道局	一、〇八四	一、八〇	—	—	—	—	一、〇八四	一、八〇
大阪鐵道局	一、九八〇	一、三九、三、五、八	—	—	—	—	一、九八〇	一、三九、三、五、八
門司鐵道局	一、三七〇	二、四四	—	—	—	—	一、三七〇	二、四四
仙臺鐵道局	一、〇五六	五、六、七	—	—	—	—	一、〇五六	五、六、七
札幌鐵道局	七四九	一、七、七	—	—	—	—	七四九	一、七、七
東京建設事務所	—	—	—	—	—	—	—	—
本省	二	—	—	—	—	—	二	—
合 計	八、三、五、〇	五、五、七、五、三、三	一、〇、三、八	一〇一、一八、五	一、六	—	九、三、九、四	六、五、八、七、一、五
前年度比較増減	三、三、五	△、九、三	六、三	六、二、七、三	—	—	三、三、五	△、九、三

一、重量ハ運轉整備ノ時ノ重量ヲ示ス
 一、本表中ニハ工場用十七輛、石炭試驗場用一輛、沙留倉庫用一輛、教習所用五輛、省外一時貸渡車一輛、工專専用ニ貸渡車十一輛、使用休止車百六十輛及洗罐用、空氣制動機檢査用、暖房用其ノ他ニ使用中ノモノ九輛ヲ含ム
 一、特種機關車ノ内東鐵所屬ノ蓄電池機關車二輛ハ前年度迄ハ電氣機關車中ニ併算セシカ本年度ヨリ分割別記セリ
 一、運轉整備ノ重量ハ四年度ニ於テ最近ノ車輛形式圖ニ依ル一輛當リ重量ヲ基トシ算出シタルモノニ改メタルカ爲右ニ伴フ増加ノ分ヲ含ム

工 作

二二一

種別	減		加		種別	輛數	自重	定員	荷重	記事				
	讓渡車	改造車	客車	貨車							讓渡車	改造車	客車	貨車
合計	一三三	一六三	六五〇	一、八七六	一三三	六、三二七	一	一、二四四	一、二四四					
蒸氣機關車	二	二	二	二	六	六、六四四								
ディーゼル電氣機關車	一	一	一	一	一	五、九九〇								
客車	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	一、四〇五、五四								
電車	六三	六三	六三	六三	六三	二、四六二、四七								
貨車	一、五三八	一、五三八	一、五三八	一、五三八	一、五三八	一八、九七〇、八三								
合計	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	八、一三三、一五	四、二六九	四、四〇八	四、四〇八					

車輛ノ改良 本年度ニ於テ施行セル車輛改良施設工事ノ主ナルモノハ前年度ヨリ引續キ 行セ
ル空氣制動機裝置工事及一般改良工事ニ於テ機關車ニ在リテハ前年度來施行セル速度計裝置、
電氣前燈裝置、灰箱内灰燼流出裝置、給水溫メ裝置等、電氣機關車ニ在リテハ積算電力計改造、砂撤
裝置改造、齒車改造等、客車ニ在リテハ前年度來施行セル大氣壓式蒸氣暖房器改造、水揚裝置ヲ空
氣押上式ニ改造、便所改造、大型客車臺枰補強、其ノ他車種變更等、電車ニ在リテハ戸閉裝置取付、踏
段撤去、電氣暖房器取付等、貨車ニ在リテハ十五噸積有蓋貨車ノ柱及戸ヲ鋼製ニ改造、石炭車ニ車

側制動機裝置、十五噸積有蓋車側補強及戸改造、中央梁木製臺枰ヲ鋼製ニ改造、十五噸積貨車側補
強、車軸及擔バネ取替等、其ノ他列車運轉上及旅客優遇上必要ナル諸種ノ改良施設ヲ成セリ、而シ
テ之レニ要セシ工事費ハ機關車百六萬貳千五百拾六圓、電氣機關車八萬壹千六百壹圓、客車貳百
九拾壹萬八千九百九拾參圓、電車七拾貳萬七千九百七圓、貨車參百拾七萬貳千百拾八圓、總額七百
九拾六萬參千百參拾五圓ニシテ前年度ニ比シ總額ニ於テ九拾九萬貳千貳百拾參圓ヲ増加セリ
以上ヲ工事別ニ表示スレハ左ノ如シ

機關車

種別	輛數	費額	種別	輛數	費額
空氣制動機裝置	一八〇	四六七、二九三	空氣制動機裝置	一八〇	四六七、二九三
速度計	一〇七	五、五九一	速度計	一〇七	五、五九一
電氣點燈裝置	六〇	六五、九一三	電氣點燈裝置	六〇	六五、九一三
空氣壓縮機ノ位置變更	二七	八六、八四六	空氣壓縮機ノ位置變更	二七	八六、八四六
給水溫メ裝置	五四	一三六、三六九	給水溫メ裝置	五四	一三六、三六九
過熱蒸氣機關車ニ改造	一一	七三、八二八	過熱蒸氣機關車ニ改造	一一	七三、八二八
灰箱内燒滓流出裝置	三〇	七、三三四	灰箱内燒滓流出裝置	三〇	七、三三四
運轉室後壁擴充	二〇〇	一八、九五九	運轉室後壁擴充	二〇〇	一八、九五九
炭水臺枰補強	一〇〇	一五、七四九	炭水臺枰補強	一〇〇	一五、七四九
其他工事	三六七	三、四二六	其他工事	三六七	三、四二六
合計	一、〇一〇	五、三二八	合計	一、〇一〇	五、三二八

電氣機關車 工作

二三六

種	別	輛	數	費	額
積算電力計改造			二	三八五	三八五
空氣壓縮機ヲ同期作用ニ改造			六	七四八	七四八
砂撒装置改造			三	一〇、八六七	一〇、八六七
齒車装置改造			二	五三、七四八	五三、七四八
列車暖房装置取付			八	四、九八八	四、九八八
其他工事			四	六五四	六五四
合計			六		八、六〇一
空氣制動機取替			三、二七三	二、四九八、八八八	二、四九八、八八八
空氣壓式蒸氣暖房装置改造			五	二六、三九九	二六、三九九
大氣壓式蒸氣暖房装置改造			五	六、七三一	六、七三一
便所化粧室ニ暖房放熱管新設			五	五、三四九	五、三四九
客車水揚装置ヲ空氣押上式ニ改造			二	一七、〇五六	一七、〇五六
便所			一	二六、九六〇	二六、九六〇
大型客車臺車補強			二〇〇	一四、八〇七	一四、八〇七
客車幌改造			三	九、六一九	九、六一九
電燈装置改造			三	一一、〇〇二	一一、〇〇二
合計			三、三三三		二、四九八、八八八

客

種	別	輛	數	費	額
電氣暖房器具付替			一〇九	二七八六	二七八六
水揚用ホース連結器堀式ヲ町野式ニ變更			一、三九三	一三、一五三	一三、一五三
客車引張摩擦装置ヲ輪バネ式ニ改造			五〇	九、三三〇	九、三三〇
其他工事			一四七	一六、〇八一	一六、〇八一
合計			七〇六		三、九一八、九三三

電車

種	別	輛	數	費	額
戶閉装置取付			三三	五七、〇二六	五七、〇二六
電氣暖房器具取			一三八	三〇、六八八	三〇、六八八
電氣暖房器具改造			六五	二六、四六六	二六、四六六
制氣御器改造			一〇〇	一七、九六四	一七、九六四
車種			二	一九七〇	一九七〇
其他工事			一六	四九、三五三	四九、三五三
合計			八〇六		七、七九〇、七

貨車

種	別	輛	數	費	額
空氣制動機装置			五五五		一一、〇〇、八二二

二三七

種別	輛數	費額
十五噸積有蓋貨車ノ柱及戸ヲ鋼製ニ改造	四八	一五九、八五六
石炭車ニ車側制動機裝置	五〇〇	五、五九二
十五噸積有蓋車側補強及戸改造	二、〇〇四	三、二三五三
中央梁木製臺枠ヲ鋼製ニ改造	一、〇〇〇	一六三、三五四
十噸積有蓋車側補強	二、〇〇〇	三六、四六九
十五噸積貨車車軸取替	一、一〇〇	八一、〇五七
增噸積貨車車軸取替	七	三、三六〇
車種變更工事	二〇一	二九、〇三九
其他工事	五五二	六五、一九七
合計	一三、四三三	三、一七三、一一八

第七章 電氣

第一節 通信、信號並信號保安

通信、信號並信號保安關係改良費決算額 本年度ニ於ケル改良費決算額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	東京電氣事務所	東京鐵道局	名古屋鐵道局	大阪鐵道局	門司鐵道局	仙臺鐵道局	札幌鐵道局	計
通信設備費	—	六五、七九	五〇、四二	六九、二二六	三七、三九〇	二六、三七九	二六、九二二	二七六、〇八八
信號設備費	—	—	—	—	—	—	—	—

電話設備費
高周波通信設備費

電話設備費	一九四〇三	五九六、九九	三七四、四六	三三〇、四七	三三六、五三九	三八二、五九四	三三四、八三	二、一八八、三三七
高周波通信設備費	—	二二	—	—	—	—	—	—
合計	—	六六、九六九	三七七、八七六	三八九、七〇四	三九八、三九四	四一五、七三九	三六三、〇九八	二、五九七、七六〇

電氣信號設備費
東海道線自動信號設備費
中央線自動信號設備費
東北線自動信號設備費
若松間自動信號設備費
小竹間自動信號設備費
自動信號設備改良費
信號保安裝置費
總武線自動信號設備費

電氣信號設備費	一九四〇三	一五三、五二二	三七五、三二四	—	—	—	—	五四八、三九九
東海道線自動信號設備費	六四	一五、三〇〇	—	—	—	—	—	一五、三〇〇
中央線自動信號設備費	—	三九、〇四三	—	—	—	—	—	三九、〇四三
東北線自動信號設備費	—	—	—	—	—	—	—	—
若松間自動信號設備費	—	—	—	—	—	—	—	—
小竹間自動信號設備費	—	—	—	—	—	—	—	—
自動信號設備改良費	—	一一、〇七七	一六、八五六	四一、七六五	三、一八三	—	—	一七三、九〇一
信號保安裝置費	—	二四五、五五六	三五、九四〇	七六、二二六	六、七〇	四五、六五四	—	五〇一、八六八
總武線自動信號設備費	—	一三、九六六	—	—	—	—	—	一三、九六六
合計	一九四六七	八五七、五〇四	四三八、一一〇	二二七、九二二	七三、〇一一	四五、六五四	二九、八八二	一、五七〇、五三九

電氣復興費
通信設備費

電氣復興費	—	五、三五六	—	—	—	—	—	五、三五六
通信設備費	—	九〇七	—	—	—	—	—	九〇七
合計	—	六、二六三	—	—	—	—	—	六、二六三

合計	一九四六七	一、五三六、七六六	七九五、九六六	五〇七、六二五	四七〇、四〇五	四六一、三九三	三九三、九八〇	四、一七四、五八二
----	-------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------

通信及信號設備 本年度末ニ於ケル國有鐵道ノ通信信號線路ハ互長一千六百四十一萬八百五十

六米(內通信線一千五百七十萬一千八百九米、信號線七十萬九千四十七米)線條延長五億四百七十

六萬五千八百五十八米(內通信線四億八千九百七十五萬四千三百九十四米、信號線一千五百一萬

電 氣

二四〇

一千四百六十四米、電柱三十一萬九千八百八十二本(内通信線用三十一萬六千六百七十三本、信號線用三千二百九本)ニシテ通信線ニ在リテハ前年度ニ比シ線路互長五十四萬七千八百九米(三分六厘)、線條延長三千七百九萬六千三百九十四米(八分二厘)、電柱一萬三千六百六十七本(四分三厘)ヲ執レモ増加セリ、而シテ通信回線ハ電信回線數四百六十六、此ノ延長五萬六千六百七十四杆、電話回線數二萬六千四百九十二、此ノ延長四十萬三千七百七十四杆、其ノ他回線數一萬二千六百九十七、此ノ延長二萬四千七百五杆ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ電信回線ニ在リテハ回線數十一(二分三厘)、延長一千八百六十三杆(三分二厘)ヲ減少シ電話回線ニ在リテハ回線數一千三百二十五(五分三厘)、此ノ延長二萬六千二百二十杆(七分)ヲ増加シ、其ノ他回線ニ於テ回線數八百十八(六分一厘)、此ノ延長五十二杆(二厘)ノ減少ヲ示セリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ次ノ如シ

局 別	通 信 信 號 線 路			通 信 回 線		
	互 長	延 長	電 柱	回 線 數	延 長	其 他
東京鐵道局	二、八五〇、六四一	一三、四〇七、六〇一	四六、七四五	一一四	九、三三三	三、三三九
名古屋鐵道局	一、九九五、八九〇	六八、四八九、四九八	四〇、一〇六	五六	七、六九五	八、四五四
大阪鐵道局	二、九三九、六一	九四、六六四、三六七	五八、五三三	九八	三、三七一	一、九三五
門司鐵道局	二、六九三、二二三	七五、三四五、六三〇	五三、五二六	六四	四、五三〇	三、四五四
仙臺鐵道局	二、九七八、〇三五	七三、八六〇、六八四	六二、九三九	八六	四、二〇〇	二、二六五
札幌鐵道局	二、九六四、四〇六	六一、九九八、〇七八	五九、〇四四	四八	三、五七六	一、八六三
合 計	一六、四一〇、八五六 (一五、七〇一、八〇九)	五三、一〇七、八五八 (四八、九七五、四三九)	一六、三七六 (一三、一六七)	二二〇	一、八六三	一、三三五
前 年 比	一、五七〇、七七七 (一、四七三、八〇九)	五三、一〇七、八五八 (三七、〇六六、三九四)	一六、三七六 (一三、一六七)	△ 二二	△ 一、八六三	一、三三五
增 減						二六、三三〇
						△ 八八
						△ 五三

前 年 比	一、五七〇、七七七 (一、四七三、八〇九)	五三、一〇七、八五八 (三七、〇六六、三九四)	一六、三七六 (一三、一六七)	△ 二二	△ 一、八六三	一、三三五	二六、三三〇	△ 八八	△ 五三
-------	--------------------------	----------------------------	--------------------	------	---------	-------	--------	------	------

備考 通信信號線路欄中括弧内ノ數字ハ通信線路數ヲ示シ内譯トス

又通信機器及電池數ヲ見ルニ電信機二千六百五十七座、電話機五萬一千六百七十四箇、双信閉塞器九百八十八箇、通票閉塞器四千二百二十五箇ニシテ是等機器ニ使用セル電池ハ一次電池二十四萬三千九百五十三箇、内通信用二十二萬二千四百十箇、信號用二萬一千五百四十三箇、二次電池一萬八千七百一箇(内通信用一萬四千七百十二箇、信號用三千九百八十九箇)ナリ之ヲ前年度ニ比較スレハ電信機ハ二百四十三座(八分四厘)ヲ減少シ、電話機ニ在リテハ四千四百十八箇(九分四厘)ヲ増加セリ又閉塞器ニ在リテハ双信閉塞器ハ六十箇(五分七厘)ヲ減シ、通票閉塞器ハ七十二箇(一分八厘)ヲ増加セリ而シテ通信用電池ニ在リテハ一次電池三千二十九箇(一分三厘)ヲ減シ、二次電池三千七百二十六箇(三割三分九厘)ノ増加ヲ示ス、以上ヲ局別ニ表示セハ左ノ如シ

局 別	種 別	電 信 機		電 話 機		閉 塞 器		電 池		
		雙 信 閉 塞 器	通 票 閉 塞 器	一 次	二 次	一 次	二 次	一 次	二 次	三 次
東京鐵道局		五二九	二六三	一、三六〇	四五〇	四七〇	六六	二九、八八九	五、六三八	三、七三二
名古屋鐵道局		六六三	六四九	六、七七六	五五	五七三	七三	三六、六八九	二、四三六	二、九一〇
大阪鐵道局		三九三	六四九	九、六六七	一六二	七五三	七三	三七、七五七	一、八三九	一、八三九
門司鐵道局		五〇〇	三九三	八、〇五五	一九五	七三七	七三	四六、八六一	三、一〇六	三、一〇六
仙臺鐵道局		三三三	三九三	八、〇七三	四〇	九七三	七三	四六、八六一	三、一〇六	三、一〇六
札幌鐵道局		三三三	三九三	八、〇七三	四〇	九七三	七三	四六、八六一	三、一〇六	三、一〇六

電 氣

二四一

局別	種別	電信機		電話機		閉塞器		電池	
		計	前年度比較増減	計	前年度比較増減	雙信閉塞器	通票閉塞器	一次	二次
合	計	二、六五七	△ 二四三	五、六七四	△ 四四一八	九八	四、二五	二四三、九五三 (三三、四一〇)	一八七〇 (一、四七三)
前年度比較増減								一八、五二四 (三、〇二七)	七、七五 (三、七三六)

備考 電池數欄括弧内ノ數字ハ通信用ノモノヲ示シ再掲トス

信號保安設備 本年度末ニ於ケル自動信號機設備ハ腕木式六百二十七機、色燈式千九百七十八機、燈列式二百五十二機、合計二千八百五十七機ニシテ此ノ設備區間ハ七十三萬八千六百二十一米ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ腕木式三十六機六分一厘、色燈式二百六十一機一割五分二厘、燈列式百六十四機十八割六分四厘ノ増加ヲ示シ從ツテ設備區間モ亦八萬二千七百七米一割二分二厘ノ増加ヲ示セリ又電氣聯動機ハ五百五箇所、電氣竝電空轉轍機ハ三百九組、電氣信號機ハ一千七十六機、電氣鎖錠器ハ三千六百九十箇、踏切道警報機ハ三百四十五箇所ニシテ前年度ニ比シ電氣聯動機百一十一箇所(二割八分二厘)、電氣竝電空轉轍機七十八組(三割三分八厘)、電氣信號機二百四十一機(二割八分九厘)、電氣鎖錠器五百三箇(一割五分八厘)、踏切道警報機五十箇所(一割六分九厘)ヲ孰レモ増加セリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ次ノ如シ

局別	種別	自動信號機				電氣聯動機	電氣(空)轉轍機	電氣信號機	電氣鎖錠器	踏切道警報機
		設備區間	腕木式	色燈式	燈列式					
東京鐵道局		二、六、〇〇	二七	一、二、六三	一、五、六	三、九	一、三	三、三	一、〇、七四	七

局別	種別	合	自動信號機																				
			設備區間	腕木式	色燈式	燈列式	計	電氣聯動機	電氣(空)轉轍機	電氣信號機	電氣鎖錠器	踏切道警報機											
名古屋鐵道局		七、八、六三	八〇、一〇七	三六	二、六	一、六	四、六	一、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七		
大阪鐵道局		一、六、一、六	三六	一、九、六	二、五三	二、八、五七	五、〇五	三、〇九	一、〇、七六	三、六九〇	三、四、五	五、八七	五、七、七	四、二	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五		
門司鐵道局		三、三、六三	三六	二、六	一、六	四、六	一、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六		
仙臺鐵道局		一、〇、〇	三六	一、九、六	二、五三	二、八、五七	五、〇五	三、〇九	一、〇、七六	三、六九〇	三、四、五	五、八七	五、七、七	四、二	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五		
札幌鐵道局		一、〇、〇	三六	一、九、六	二、五三	二、八、五七	五、〇五	三、〇九	一、〇、七六	三、六九〇	三、四、五	五、八七	五、七、七	四、二	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五		
合	計	七、八、六三	八〇、一〇七	三六	二、六	一、六	四、六	一、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	一、〇、七	三、六	
前年	比																						
較	増																						
減	度																						

備考 自動信號機ハ機構數ヲ以テ示ス

通信成績 本年度末ニ於ケル鐵道電報取扱驛所ハ二千六百八十四箇所(内公衆電報取扱驛所九百七十三箇所)ニシテ其ノ年度内取扱ニ係ル電報數ハ鐵道報五千三百六十四萬八千八百十三通、公衆報一千二百六十六萬一千六百四十七通、計六千六百三十一萬四千四百六十通ニシテ此ノ一日一驛平均取扱數ハ鐵道報五十五通、公衆報三十六通、計六十八通ナリ而シテ公衆電報取扱手數料ハ五拾八萬八千七百五拾五圓ナリトス、之ヲ前年度ノ成績ト對比スルニ鐵道電報取扱驛所ヲ八十九箇所(三分四厘)内公衆電報取扱驛所三箇所増加セルニ反シ取扱電報通數ハ孰レモ減少ヲ示セリ即チ鐵道報六百九十四萬九百三十三通(一割一分五厘)、公衆報四十七萬八千四通(三分六厘)、計七百四十一萬八千九百三十七通(一割一厘)ヲ減シ、一日一驛平均取扱數ニ在リテモ鐵道報ハ九通、公衆報ハ一通ヲ減少セリ、從ツテ公衆電報取扱手數料モ亦貳萬貳千九拾六圓(三分六厘)ノ減少ヲ見タリ、以上ノ成績ヲ局別ニ表示スルニ次ノ如シ

種別	取扱驛所		取扱電報		計數	一日一驛平均取扱數		取扱手數料
	鐵道	公共電報	鐵道	公共電報		鐵道	公共電報	
東京鐵道局	三九五	一〇七	二,三六〇,八四三	一,六四八,八三四	一三,五六五,五三三	九,〇三一,五二五	六〇	一〇,五九六,四四〇
名古屋鐵道局	三三五	一〇六	一,六四八,八三四	一,六四八,八三四	九,〇三一,五二五	六〇	六二	七,三六二
大阪鐵道局	五四二	一九五	二,六六一,八六六	二,六六一,八六六	一四,八〇五,五四九	六四	四二	一五,八六一
門司鐵道局	五〇〇	二二三	三,九六四,四三五	三,九六四,四三五	九,八三七,五三〇	三八	三七	一三,九七〇
仙臺鐵道局	五〇一	一六八	一,六五五,五二三	一,六五五,五二三	一〇,三四九,五八三	四八	三七	七,五九六
札幌鐵道局	四二一	一七四	一,三九四,一五六	一,三九四,一五六	八,七九七,四七一	四九	三三	六,八四〇
合計	三,六八四	九七三	一三,六六一,六四七	一三,六六一,六四七	六六,三三〇,四六〇	五五	三六	五八,七五五
前年度比較増減	八九	三	四七,〇〇四	四七,〇〇四	七,四一八,九三七	九	一	二二,〇九六

第二節 電燈並電力

電力關係改良費決算額

本年度ニ於ケル改良費決算額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	東京電氣事務所	臨時川崎電氣事務所	熱海建設事務所	東京第一改良事務所	東京第二改良事務所	東京鐵道局	名古屋鐵道局	大阪鐵道局	門司鐵道局	仙臺鐵道局	札幌鐵道局	計
電氣運轉設備費	三三,〇五五					一〇,五七〇						三三,〇五五
東京橫濱及櫻木町間	一〇,四一三					一〇,四一三						一〇,四一三
橫濱國府津及大船橋須賀間	六六五					六六五						六六五
國府津沼津間												
東京國分寺間												
計	三三,〇五五					一〇,五七〇						三三,〇五五

種別	發電設備費		送電設備費		計
	東京電力發電設備費	發電設備改良費	東京電力發電設備費	送電設備改良費	
國分寺八王子間	五〇,五五六				五〇,五五六
八王子甲府間	二〇,一七九				二〇,一七九
東京大宮間	五,〇〇八				五,〇〇八
米原今庄間					
電氣運轉設備改良費					
品川端及池袋赤羽間電車運轉設備費	六,九七九				六,九七九
品川赤羽及池袋田端間送電設備改良費					
東京神奈川間					
計	八二,七四九				八二,七四九
湖田二宮間	三,〇一〇				三,〇一〇
東京受電所八王子間	三,〇一〇				三,〇一〇
東京電力發電所湖田間	三,〇一〇				三,〇一〇
大船田浦間	一,五七五				一,五七五
蕨大宮間	二,五二五				二,五二五
八王子甲府間	六,二五六				六,二五六
送電設備改良費					
品川赤羽及池袋田端間送電設備改良費	一,七三六				一,七三六
東京神奈川間	二,一八三				二,一八三
計	八二,七四九				八二,七四九

種別	受電設備費		電燈電力設備費		電氣復興費		合計
	潮田受電設備費	赤羽受電設備費	配電設備費	電燈設備費	電氣復興費	電氣運轉設備費	
東京電務所	三三、五八二	八九、八三三	二九、六	三三、三三三	一七、七三三	一七、七三三	五、六四二
臨時川電氣所							八、七〇〇
熱海建設事務所							八、〇〇〇
東京第一良事務所							三、三〇〇
東京第二良事務所							三、三〇〇
東京鐵道局	三三、三三三	三三、三三三	八七、四一八	四三、八四九	二七、〇三三	一〇、〇〇〇	一、二九三
名古屋鐵道局			四、七〇三	二七、七三三	六、五七三		
大阪鐵道局			六、五八七	三、二〇〇	九、九七九		
門司鐵道局			四、四〇三	四、三三三	六、六八〇		
仙臺鐵道局			五、〇〇三	四、〇〇八	四、九九九		
札幌鐵道局			六、〇〇三	三、七〇三	五、〇七〇		
計	三三、五八二	八九、八三三	二九、六	三三、三三三	一七、七三三	一七、七三三	五、六四二

電力設備 本年度末ニ於ケル發電所ハ五箇所、變電所ハ二十箇所、開閉所ハ十四箇所ニシテ前年度ニ比シ變電所ニ於テ田浦潮田ノ新設ニ依リ二箇所ヲ増加シ開閉所ニ於テ巖ノ新設及潮田ノ廢合ニ依リ各一箇所ノ増減アリ今各所名ヲ列舉スレハ次ノ如シ

- 發電所 赤羽 横川 吹田 下關 三内川
- 變電所 汐留 大井町 川崎 潮田 神奈川 大船 田浦 二宮 湯河原 飯田町 大久保 東中野 武藏境 目黒 池袋 上野 王子 丸山 矢ヶ崎 戸畑
- 開閉所 神田 田端 巖 名古屋 京都 神戸 姫路 湊町 大阪 岡山 廣島 門司 長崎 若松

備考 車輛工場内ニ於ケル發電所及變電所ハ之ヲ除ク

而シテ前記發電所、開閉所及前記以外ノ開閉室(百十二箇所)、變電室(七箇所)ニ設備セル發電機、器ニ在リテハ原動機十二箇此ノ總容量三萬八百三十馬力、發電機及變成機百八十二箇此ノ總容量十七萬四千八百六十キロワット、變壓器三百十二箇此ノ總容量三十四萬八千四百七十七キロヴォルトアンペアニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ發電機及變成機ニ於テ二十八箇(割八分二厘)總容量一萬九千三百七十キロワット(割二分四厘)ヲ、變壓器ニ在リテハ二十五箇(八分七厘)總容量二萬七千六百七十三キロヴォルトアンペア(八分六厘)ヲ孰レモ増加セリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	原動機		發電機及變成機		變壓器	
	筒數	容量	筒數	容量	筒數	容量
東京鐵道局	六	二九五〇	一七〇	一七、六五五	二二	三四三、六八〇
名古屋鐵道局	—	—	—	—	—	—
大阪鐵道局	—	—	—	—	—	—
門司鐵道局	—	—	—	—	—	—
仙臺鐵道局	—	—	—	—	—	—
札幌鐵道局	—	—	—	—	—	—
合計	三	三、八三〇	一八二	一七、八六〇	三二	三四八、〇四七
前年度比較増減	—	—	—	—	—	—

電力供給成績 前述セル發電所及變電所ニ於ケル電力ノ供給狀況ヲ見ルニ發電所供給電力量ハ五千三百二十二萬四千八百九十三キロワット時之ニ要セル純經費八拾萬六千五百九拾參圓ニシテ一キロワット時當リ純經費ハ壹錢五厘壹毛強ニ當リ又變電所ニ於ケル供給電力量ハ二億二千八百八十九萬七千二百九十キロワット時之ニ要セル純經費七百壹萬壹千參百九拾參圓ニシテ一キロワット時當リ純經費ハ參錢六毛強ナリトス之ヲ前年度ニ比スレハ發電所ニ在リテハ供給電力量ニ於テ百九十九萬七千七百六十キロワット時(三分六厘)ヲ純經費ニ於テ拾六萬八千四百七拾參圓(一割七分三厘)ヲ一キロワット時當リ經費ニ於テ貳厘五毛(一割四分二厘)ノ孰レモ減少ヲ示シ、又變電所ニ在リテハ供給電力量ニ於テ二千二百二十九萬八千百十七キロワット時

(一割三厘)ヲ、純經費ニ於テ四拾參萬參百七拾貳圓(六分五厘)ヲ增加セルニ反シ供給電力量一キロワット時當リ經費ニ在リテハ壹厘強(三分四厘)ヲ減少セリ、以上ヲ局別ニ表示スルニ左ノ如シ

種別	發電所		變電所	
	供給電力量	純經費	供給電力量	純經費
東京鐵道局	四九、三三八	七〇三、二七六	二〇五、三九三	六〇四、三三三
名古屋鐵道局	—	—	三、三八八	一四六、六九九
大阪鐵道局	六四八、五六七	三八、六〇八	八、一一一	三三四、三〇八
門司鐵道局	一、〇七七	四八、四九三	五、七六六	三二七、一四七
仙臺鐵道局	二、一九〇	一六、二二五	四、一五四	一六六、三五七
札幌鐵道局	—	—	二、〇八三	一〇四、六六〇
合計	五三、三二四	八〇六、五九三	二二八、八九七	七、〇一一
前年度比較増減	△一、九九七	△一、六四七	△二、二九八	△四、三〇七

電力線路 本年度末電力線路ノ互長ハ七百三十萬八百二十八米、此ノ總延長二千二百五萬三千五百七十七米ニシテ是等ノ大部分ヲ添架スル電柱總數ハ十五萬一千二百四十二本ナリ、之ヲ前年度ニ比スレハ互長ニ於テ八十四萬四千五百九十一米(一割三分一厘)延長ニ於テ二百三十九萬六千五百二米(一割二分二厘)ヲ電柱ニ於テ七千八百七十二本(五分五厘)ヲ孰レモ増加セリ以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	線路互長	線路延長	電柱	種別	線路互長	線路延長	電柱
東京鐵道局	三、三六、一六四	一、〇六、三、三〇四	三、九、五、八四	仙臺鐵道局	八、四、二、二二	二、〇、〇、一、八八	二、三、五、〇〇
名古屋鐵道局	九、四、〇、四八	三、九、六、四、一五三	三、四、五、六八	札幌鐵道局	五、七、二、一五八	一、七、三、三、二五	一、四、六、六一
大阪鐵道局	九、三、八、六一	三、九、六、七、二七一	二、七、八、七九	合計	七、三、〇、〇、八三八	二、二、〇、五、三、一五七	一、五、一、二、四、二
門司鐵道局	七、九、三、八五	二、三、三、六、一、二七	二、二、〇、九、〇	前年度比較増減	八、四、四、五、九一	二、三、九、六、五、〇二	七、八、七、二

備考 本表ニハ車輛工場設備ノモノハ含マズ

電燈及電動機設備 本年度末ニ於ケル驛所其ノ他ニ設備セル電燈及電動機設備ノ現況ハ白熱燈三十六萬六千八百七十八箇、此ノ總ワット數一千四百五十七萬九百十五ワット、電動機九百五十三箇此ノ總容量四千九百四馬力ナリ、之ヲ前年度ニ比較スレハ電燈ニ於テ二萬六千二百六十四箇(七分七厘)其ノワット數ニ於テ百三十八萬七千四百四十ワット(一割五厘)ヲ、又電動機ニ在リテハ箇數九十五箇(一割一分一厘)其ノ容量五百七十馬力(一割三分二厘)ヲ孰レモ増加セリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ次ノ如シ

種別	白熱燈		電動機		種別	白熱燈		電動機	
	箇數	總ワット	箇數	總容量		箇數	總ワット	箇數	總容量
東京鐵道局	一〇、三、八、〇六	四、八、一、五、三九〇	二、四、二	九、三、八、八	仙臺鐵道局	四、五、〇、九一	一、五、三、七、六三五	一、〇、六	四、三、四、三
名古屋鐵道局	四、八、七、三六	一、七、七、六、六一五	九、四	五、〇、九〇	札幌鐵道局	四、〇、六、九五	一、三、九、三、四一〇	八、九	四、〇、四、八
大阪鐵道局	七、〇、五、四三	二、七、四、九、二三〇	二、九、五	一、八、八、六八	合計	三、六、六、八七八	一、四、五、七、〇、九一五	九、五、三	四、九、〇、三七
門司鐵道局	五、九、〇、〇八	二、二、九、八、六五五	一、三、七	七、三、〇、〇	前年度比較増減	二、六、二、六四	一、三、八、七、四、四〇	九、五	五、六、九、九

備考 本表ニハ車輛工場設備ノモノハ含マズ

列車電燈設備 本年度末ニ於ケル列車電燈ノ業務ヲ取扱フ車電所ハ四十四箇所、電力區一箇所ニシテ本年度内ニ貝塚及神戸兩車電所廢止セラレ尾久及明石兩車電所新設セラレタリ、今其ノ名稱ヲ局別ニ示セハ次ノ如シ

- 東京鐵道局 東京、飯田町、尾久、錦糸町、宇都宮、水戸、高崎
- 名古屋鐵道局 名古屋、靜岡、甲府、長野、金澤、敦賀
- 大阪鐵道局 京都、吹田、明石、湊町、奈良、姫路、岡山、福知山、出雲今市、高松、小松島、高知電力區
- 門司鐵道局 門司、下關、廣島、長崎、鹿兒島、大分
- 仙臺鐵道局 仙臺、福島、山形、秋田、盛岡、青森、新潟
- 札幌鐵道局 札幌、函館、室蘭、旭川、釧路、野付牛、稚内

而シテ本年度末ニ於ケル電燈設備車輛數ハ一萬二千五百五十五輛ニシテ之カ内譯ハボギー車八千三百三十一輛、四輪車一千九百二十四輛ナリトス、之ヲボギー車ニ換算スレハ八千九百七十三輛ヲ示シ車内裝置電燈數ハ十萬三千四百七十二箇ニシテ燭力ハ二百七十萬六千六十ワットニシテ前年度ニ比スレハ電燈設備車輛數ハ換算二百八十六輛(三分三厘)ヲ増加セルモ之カ内譯ハボギー車ニテ三百十輛ヲ増加シ四輪車ニテ七十五輛ヲ減少セリ又車内裝置電燈數ハ四千四十八箇(四分一厘)ヲ、燭力ハ五十八萬九千四百八十八ワット(二割七分九厘)ヲ孰レモ増加セリ、燈數ノ増加率ニ比シ燭力ノ著シク増加セルハ本年度ヨリ車内照明度ノ増加ヲ計レルト從來使用ノ真空電球ヲ殆ント瓦斯入電球ニ取換ヘタル爲ナリ、以上電燈點火ニ要スル發電機ハ四千九百四十八臺、蓄電池ハ十二萬七百七箇ニシテ之ヲ前年度ニ比スレハ發電機四百三臺(八分九厘)、蓄電池一萬二

百四十八箇(九分三厘)ヲ増加セリ又以上ノ諸設備ノ換算車輛一輛當リノ割合ヲ見ルニ電燈箇數ハ十一・五箇、燭力ハ三百一ワット、發電機ハ〇・六臺、蓄電池ハ十三・五箇ニシテ前年度ニ比シ電燈箇數〇・一箇、燭力五十八ワット、發電機〇・一臺、蓄電池〇・八箇ノ孰レモ増加ヲ示セリ、以上ヲ局別ニ表示スルニ左ノ如シ

局別	電燈裝置車輛		發電機	蓄電池	一輛當リ				
	輛數	燈數			燭力	發電機	蓄電池		
東京鐵道局	二,一五六	二七,二七六	七六,八〇三	一,二二五	二九,六七〇	一,二二七	三,四一七	六	一,三三八
名古屋鐵道局	一,一四九	一三,四〇五	三五,七九〇	六三〇	一五,〇七六	一〇八	三,一三三	五	一,三三一
大阪鐵道局	二,一九三	二五,五八七	六九,三五一	一,二二四	二九,三五一	二・七	三,六〇〇	六	一,三三三
門司鐵道局	一,四二六	一六,〇一四	三五,〇九八	七六一	一八,三三八	二・三	二,四六九	五	一,二九九
仙台鐵道局	一,三四〇	一三,三四〇	三六,一六七	六八三	一六,八六〇	一〇八	二,九〇五	六	一,三三六
札幌鐵道局	八二〇	八,八四八	二〇,〇五二	四五五	一一,五二〇	一〇九	二,四七六	六	一,四二二
合計	八,九七三	一〇三,四七三	二七〇,〇六〇	四,九四八	一三〇,七〇七	一一・五	三〇,一〇〇	六	一,三三五
前年度比較増減	二六六	四,〇四八	五九,九四八	五〇三	一〇,二四八	・一	五八〇	・二	八

備考 輛數ハボギ一車ニ換算シタル輛數ヲ示シ四輪車三輛ヲ以テボギ一車一輛トス

第八章 經理

第一節 會計

資本勘定 本年度ニ於ケル資本勘定歳入決算額ハ壹億八千六百七萬貳千八百八拾六圓、歳出決算

額ハ壹億九千四百拾萬六千參百參拾五圓ニシテ前年度ニ比シ歳入ニ於テ參百六拾五萬壹千九百九拾七圓ヲ減少シ歳出ニ於テ貳百六拾四萬六千九百七拾六圓ノ増加ヲ示セリ之歳入ニ在リテハ公債金、雜收入及用品勘定過剩金繰入ニ於テ増加シタルモ鐵道益金繰入ニ於テ減少シタルニ依リ、歳出ニ在リテハ改良費ニ於テ減少シタルモ建設費ニ於テ増加シタルニ依ル、今既往三箇年度間ニ於ケル本勘定歳入歳出決算額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	昭和四年度		昭和三年度		昭和二年度	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
鐵道資金收入	一八五,四四七・三七	一八五,四四七・三七	一八九,三八一・四三九	一八九,三八一・四三九	二二,三二八・七三六	二二,三二八・七三六
用品勘定過剩金繰入	六二七,一四九	六二七,一四九	四四三,六四四	四四三,六四四	二四五,一四〇	二四五,一四〇
合計	一八六,〇七三・八八六	一八六,〇七三・八八六	一八九,七三四・〇八三	一八九,七三四・〇八三	二二,四六三・八七六	二二,四六三・八七六
鐵道建設及改良費	一九四,一〇六・三三五	一九四,一〇六・三三五	一九二,四九九・三五九	一九二,四九九・三五九	二〇五,四六一・八八二	二〇五,四六一・八八二
合計	一九四,一〇六・三三五	一九四,一〇六・三三五	一九二,四九九・三五九	一九二,四九九・三五九	二〇五,四六一・八八二	二〇五,四六一・八八二
國債償還金	一九四,一〇六・三三五	一九四,一〇六・三三五	一九二,四九九・三五九	一九二,四九九・三五九	二〇五,四六一・八八二	二〇五,四六一・八八二

用品勘定 本年度ニ於ケル用品勘定歳入決算額ハ壹億九千六百萬四千八百四拾四圓、歳出決算額ハ壹億九千四百貳拾壹萬五圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スレハ歳入ニ於テ參拾萬九千六百貳拾八圓ヲ減少シ歳出ニ於テ百八拾參萬壹千九百九拾六圓ヲ増加セリ之歳入ニ在リテハ用品修繕料及電力料ニ於テ増加セルモ用品賣拂代及雜收入ニ於テ減少シタルニ依リ、歳出ニ在リテハ諸拂戻金ニ於テ減少シタルモ用品費、工作費及電氣費ニ於テ増加シタルニ依ル、今既往三箇年度間ニ於ケル本勘定歳入歳出決算額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
鐵道用品及工作收入	一九六,〇四八,四四四	一九六,三三四,七三三	一〇一,四六〇,五〇二
鐵道用品及工作費	一九四,二一〇,〇〇五	一九三,三七六,〇〇九	一九九,九七一,〇〇五

收益勘定 本年度ニ於ケル收益勘定歳入決算額ハ六億貳千貳百八拾參萬參千六百貳拾六圓、歳出決算額ハ五億參百八拾四萬四千百拾八圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ歳入ニ於テ五百八拾八萬七百拾圓ヲ減少シ歳出ニ於テ壹千百萬五千四百九拾六圓ヲ増加セリ之歳入ニ在リテハ假收入及立替金受入ニ於テ増加シタルモ運輸收入及雜收入ニ於テ減少シタルニ依リ、歳出ニ在リテハ營業哩、特別小口扱貨物集配數量、國債債額等ノ増加竝ニ地方鐵道ノ補助ヲ要スルモノ多カリシ爲之等ニ關スル經費ノ増加シタルニ依ル、今既往三箇年度間ニ於ケル本勘定歳入歳出決算額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
運輸收入	五二一,九六七,四三四	五三三,〇二九,八八六	五〇一,一九五,三五〇
雜收入	八,五四三,三六八	八,六三八,八〇三	七,三二六,三三一
假收入及立替金受入	一〇一,三三三,八二四	九七,〇四五,六四七	八四,〇二一,一九〇
計	六一三,八三三,六二六	六一八,七二四,三三六	五九二,五三三,八六一
事業費	三〇九,〇三四,四三五	三〇六,四九九,八一七	二八八,〇四一,六七六
利子及債務取扱諸費	八三,九九三,九六四	八〇,五四三,七七七	七四,六二九,三二四
諸拂戻及立替金	一〇四,八七一,七四	九九,四五七,八五六	八六,三五八,八四五
機密費	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇

種別	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
地方鐵道補助計	六九六,四五五 五〇三,八四四,一八	六二九,八一七 四九三,八三六,三三	五二九,五五〇 四五四,三六五,二四二
差引益金	一一八,九八九,五〇八	一三五,八七五,七〇四	一三八,一六七,六八九

次ニ本年度ニ於ケル純營業收支ノ差即チ鐵道總益ハ貳億壹千參百八拾七萬參千七百參圓ニシテ之ヲ前年度首資本總額參拾壹億九百八萬九千參百八拾七圓ニ對スレハ六分九厘ニ當リ之ヲ前年度ノ割合ニ比較スレハ一分減ヲ示ス、本年度ニ於ケル純益金ハ右總益金ヨリ鐵道軌道監督及線路調査費、補充費、利子及債務取扱諸費、地方鐵道補助ヲ控除シタル殘額ニシテ即チ壹億壹千八百九拾八萬九千五百八圓ナリトス

種別	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
營業收入	五七七,四八四,一〇四	五二九,一三二,五三四	五〇六,四四四,六六〇
假收入及立替金受入	三二一,六一一	一三四,九五六	—
計	五八〇,一六四,五三三	五二九,二五六,四八〇	五〇六,四四四,六六〇
營業費	三〇四,一四二,七四九	三〇〇,七〇七,七六五	二八一,九八七,九五四
引總益金	二二三八,七三,七〇三	二二八,五四八,六九五	二二四,四五六,七〇六
鐵道軌道監督費	五八三,八四九	四七四,八〇五	四五〇,〇四八
及線路調査費	四,三三七,八三七	五,三五七,三二七	五,六四三,六七六
補充費	八三,九九三,九六四	八〇,五四三,七七七	七四,六三九,三二四
利子及債務取扱諸費	六九六,八五四	六二九,八一七	五二九,五四〇
地方鐵道補助	—	—	二七〇,六四四
假收入及立替金受入	—	—	—
諸拂戻及立替金トノ差	九四八,八四,一九五	九三,六七,九八一	八六,二八〇,八八七

種別	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
再差引純益金	一、二八、九九五〇八	一、三五、八七五、七四〇	一、三八、一六七、六一九

敍上ノ成績ニ依リ更ニ營業一日一哩ノ收支及益金並收支割合ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	平均一日ノ收支		平均營業一哩ノ收支	
	昭和四年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和三年度
營業收入	一、四八、六六〇〇三	一、四九、六七五、四〇八	五九、八六四、八三八	六三、九二七、四三三
營業費	八三三、二六七八〇六	八三三、八五六、九四五	三五、一六三、四五二	三五、七六一、九三三
營業收入ニ對スル營業費ノ割合	五五、五、四八、一九七 割合五八、七	六三、五、八一、八四六 割合五八、六	二四、七、〇、三三七 割合五八、七	二七、一、六五、四九〇 割合五八、六
平均一日一哩ノ收支	一、四〇、〇一三	一、六四、〇一三	九六、三三八	一七三、四〇四
昭和四年度	九七、九七六	七四、四三六	五八、七	五八、六

資本 本年度ニ於ケル鐵道資本ハ鐵道益金繰入、公債金、其ノ他ニ於テ計參億五千貳百七拾九萬八千四百五拾八圓ヲ増加シタルモ改良及補充工事ノ爲撤去シタル財産ノ價額並讓渡シタル土地物件ノ價額及公債借換償還額等壹億七千六百七拾貳萬壹千九百五拾貳圓ヲ減少シタルヲ以テ差引壹億七千六百七拾萬六千五百六圓ヲ増加セリ而シテ本年度末ニ於ケル資本總額ハ前記差引增加額ニ本年度首ニ於ケル資本總額參拾壹億九百八萬九千參百八拾七圓ヲ合算シタル參拾貳億八千五百拾六萬五千八百九拾參圓ナリトス、今本年度中ニ於ケル資本ノ増減並最近二箇年度ノ資本總額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	特 有 資 本	借 入 資 本	計
本年度首ノ價額	一、四八、一六九、八二一	一、六二、七三九、五六六	三、一〇、九〇八、三八七
本年度中増	一、三三、一八一、一〇〇	三、三〇、五七七、三二八	三、五三、七九八、四四八
本年度中減	三三、四三三、二二七	一四、三三三、八七五	一、七六、七六一、一〇二
差引年度末價額	一、五八、〇四七、八三四	一、七〇、四六八、〇五九	三、二八、五一五、九〇三
昭和三年度末價額	一、四八、一六九、八二一	一、六二、七三九、五六六	三、一〇、九〇八、三八七
昭和二年度末價額	一、三三、一八一、一〇〇	一、五五、五九三、七五五	二、八八、七〇四、八五五

固定財産 本年度首ニ於ケル固定財産總額ハ參拾億六千貳百六拾壹萬四千九百八拾七圓ニシテ本年度中増加額ハ貳億參百九拾八萬百四拾圓ナルモ土地讓渡其ノ他ニ於テ壹千九百八拾七萬百八拾四圓ヲ減少シタルヲ以テ年度末ニ於ケル固定財産ハ參拾貳億四千六百七拾貳萬四千九百四拾參圓ナリ之カ内譯ヲ示セハ次ノ如シ

種別	年度首價額	本 年 度 中 増 加 額			本年度中減少額	合 計
		建設費	改良費	補充費		
昭和四年度	三、〇三、二六三、四九七	六、八、九〇六、六四七	二、五、一、九六六、六八八	四、三、七、七三七	一、九、八、七、一八四	三、〇三、二六三、四九七
昭和三年度	二、八、九、九四、四四四	五、一、八、二、四、四、四六	二、九、六、三、四、八三三	五、三、五、七、三七七	一、五、七、四、六、五二	三、〇三、二六三、四九七
昭和二年度	二、六、七、四、四三三	四、九、二、三、六、九三	一、五、六、三、四、九六九	五、六、四、三、六、六	七、七、七、四、一、二二	二、六、七、四、四三三
		鐵道買収及補償公債	其ノ他	計		
		六、七、五、四、四〇〇	五、八、〇、五、八	二、〇、三、九、〇、一、一〇		
		七、七、七、四、一、二二	四、五、五、六、四、四	二、七、二、〇、〇、八、三二		
		八、七、六、〇、〇、〇	三、三、三、〇、〇、七、五	三、三、三、〇、〇、七、五		

第二節 物 品

用品資金 本年度ニ於ケル用品勘定ハ次表ニ示スカ如ク貯藏物品貳千貳百八拾貳萬壹千八百貳

拾九圓、工場勘定參拾四萬四百參拾壹圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ五拾四萬參千貳百參拾圓二分三厘、後者ハ貳拾萬七千五百貳拾貳圓(三割七分九厘)ノ孰レモ減少ヲ示セリ

種別	昭和四年度		昭和三年度		比較増減
	貯藏物品	工場勘定	現收	借方計	
貯藏物品	三二八、二八三	三二八、二八三	三三、三五、〇五九	三三、三五、〇五九	△
工場勘定	三、四〇、三三三	三、四〇、三三三	五、四七、九五三	五、四七、九五三	△
現收	一〇、三三、二六六	一〇、三三、二六六	八、九六、〇七三	八、九六、〇七三	△
借方計	一〇、〇五、〇〇〇	一〇、〇五、〇〇〇	一一、五、四九九	一一、五、四九九	△
用品	三三、〇一、〇〇八	三三、〇一、〇〇八	三三、〇〇一、六三四	三三、〇〇一、六三四	△
支出品	三三、三六、九四三	三三、三六、九四三	三三、三六、九四三	三三、三六、九四三	△
資本勘定ニ繰入	六三、七、〇一七	六三、七、〇一七	三三、〇、四四八	三三、〇、四四八	△
貸方計	六三、七、〇一七	六三、七、〇一七	四四、二、六四四	四四、二、六四四	△
貸方計	三三、〇一、〇〇八	三三、〇一、〇〇八	三三、〇〇一、六三四	三三、〇〇一、六三四	△

決算品 本年度ニ於ケル決算品現在高ハ貳千四百五拾四萬壹千八百四拾六圓ニシテ前年度ニ比シ百五拾壹萬七千五百拾圓(五分八厘)ノ減少ヲ示セリ費目別比較左表ノ如シ

種別	昭和四年度		昭和三年度		比較増減
	建設費	改良費	作業費	計	
建設費	三、二四、三、九三九	一、七、九、七、一八八	三、三、八、〇、七三九	三、二、四、一、八四六	△
改良費	三、八、九、七、〇〇八	一、八、二、七、〇、六六七	三、九、五、三、五八一	三、六、〇、九、三、五五六	△
作業費	五、五、七、七、七九九	三、五、九、八、七九九	五、七、一、八、五三三	一、五、一、七、五、一〇〇	△
計	三、二四、三、九三九	一、七、九、七、一八八	三、三、八、〇、七三九	三、二、四、一、八四六	△

物品購入 本年度ニ於テ締結シタル物品購入及製作請負契約ハ總額壹億五千六百貳萬八千參百

六拾九圓ニシテ内内國註文ハ九割四分六厘、外國註文ハ五分四厘ナリ、今前年度ニ對スル比ヲ見ルニ内國註文ニ於テ四百九拾九萬五千四百貳拾四圓(三分三厘)、外國註文ニ於テハ百六拾壹萬七千八百八拾參圓(一割六分一厘)、總額ニ於テ六百六拾萬六千貳百七圓(四分一厘)ヲ減セリ、内國註文ハ概シテ工事用品ノ所要數量増加セルモノアリタルモ實行豫算改訂減額ニ伴ヒ其ノ他ノ所要數量ノ減少ト下半年ニ於ケル一般物價低落等ニ基因シ減少ヲ來セルモノニシテ又外國註文ノ減少ハ本年九月國産品使用獎勵委員會設置セラレ極力内國品使用ノ方策ヲ講シタル結果ニ因ル所大ナルモノトス概況左表ノ如シ

種別	昭和四年度		昭和三年度		比較増減
	内國註文	外國註文	計	計	
内國註文	一、四、七、六、三、二、七五	八、三、九、六、〇、九四	一、五、六、〇、八、三六九	一、五、六、〇、八、三六九	△
外國註文	一、五、二、六、二、七、六九九	一、〇、〇、六、八、七	一、六、一、〇、六、三	一、六、一、〇、六、三	△
計	一、五、二、六、二、七、六九九	一、〇、〇、六、八、七	一、六、一、〇、六、三	一、六、一、〇、六、三	△

第九章 監督

第一節 地方鐵道

線路ノ免許及失效 本年度ニ於テ地方鐵道ノ敷設ヲ免許セシモノ三十一、此ノ料程七百三十九九厘、此ノ建設費概算壹億九千六百八拾九萬六千六百圓ニシテ前年度ニ比スルニ鐵道數二十六、料程八十九九分ヲ夫々減少セルモ建設費概算壹億五百六拾五萬貳千七百拾圓ヲ増加セリ、又

敷設免許ノ失効シタル鐵道數三十二、杆程三百四十杆五厘、建設費概算貳千九百貳拾九萬七千貳百八拾圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ鐵道數十七、杆程百七十三杆六分五厘、建設費概算壹千八百貳拾壹萬貳千貳百八拾圓ヲ増加セリ、今之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	免許		失効		效	
	鐵道數	杆程	鐵道數	杆程	建設費概算	建設費概算
蒸氣	六	一〇七三	一六	一七九七	一、六〇四、四三	一、六〇四、四三
瓦斯	一	一三二	一	一	一	一
電氣併用	二	六〇七九四	一六	一六、〇八	一七、六三、八三	一七、六三、八三
合計	三	七三、〇九	三三	三四、〇五	三、四〇、〇五	三、四〇、〇五
前年度比較増減	△	八九九〇	一七	一七、六五	一八、三三、八〇	一八、三三、八〇

備考 免許線一部失効シ該區間ノ建設費概算ニシテ分割シ難キモノハ計上セス

本年度中開業線路 本年度ニ於テ新ニ運輸營業ヲ開始シタル鐵道數十九、此ノ杆程二百十二杆、既設開業鐵道ニシテ延長線ノ運輸ヲ開始シタル鐵道數三十四、杆程三百五十七杆二分六厘ニシテ右兩者ノ合計ヲ前年度ニ比スルニ鐵道數三、杆程百二十杆一分六厘ヲ増加セリ、之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	鐵道數		杆程	
	鐵道數	杆程	鐵道數	杆程
蒸氣	〇	〇	一〇	一、〇六二、五
瓦斯併用	〇	〇	一	一、〇〇、四八
合計	〇	〇	一一	二、〇六三、〇三
前年度比較増減	△	八九九〇	一七	一七、六五

種別	鐵道數		杆程	
	鐵道數	杆程	鐵道數	杆程
瓦斯倫	〇	〇	二	一、六二五
電氣併用	〇	〇	一	一、〇〇、四八
合計	〇	〇	三	二、六三〇、〇三
前年度比較増減	〇	〇	三	一、六三〇、〇三

備考 ○印ヲ附シタルハ本年度ニ於テ新ニ運輸營業ヲ開始シタル鐵道ヲ示ス

年度末現在開業線路 本年度末現在ニ於ケル地方鐵道開業線路ハ鐵道數ハ二百五十二、杆程六千五百十三杆一分、此ノ建設費概算八億八百八十八萬八千七百六拾六圓ナリ、之ヲ前年度ニ比較スルニ鐵道數十三、杆程五百七十五杆五分七厘、建設費概算ニ於テ壹億壹千七百九拾貳萬八千六百拾參圓ヲ増加セリ、以上ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	鐵道數		杆程		建設費概算
	鐵道數	杆程	鐵道數	杆程	
蒸氣	九三	二、〇五七、四三	一	一、〇〇、四八	一、四九、七三、〇五
瓦斯併用	五三	一、三二、三四	一	一、〇〇、四八	七、五九、七四、七三
電氣併用	八	一、三五、三四	一	一、〇〇、四八	二、〇六、二、九七
合計	一五三	三、四四六、〇〇	三	二、〇〇、八六	三、九四、七〇、二六
前年度比較増減	△	八九九〇	一七	一七、六五	一八、三三、八〇

前年度比較増減

一三

三三四・三

二五・四五

五七五・七

一七、九八六・三

備考 鐵道數ノ合計ニ符合セサルハ一鐵道ニシテ二動力以上ヲ併有セルモノヲ各動力別ニ計上シ計ニ於テ控除セルニ因ル

年度末現在未開業線路 本年度末現在ニ於テ地方鐵道ノ未開業線路ヲ有スル鐵道數ハ二百五十六此ノ料程五千九百十三杆八厘建設費豫算拾億七千四百七拾壹萬壹千七百七拾壹圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ鐵道數二十六ヲ減シ料程ハ二十六杆八分五厘建設費豫算ニ於テ壹億七千四百參拾六萬參千九百八拾八圓ヲ執レモ増加セリ之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	鐵道數	料程	建設費豫算
蒸氣	八二	一、九三九・五九	一四三、六六八・五七
蒸氣瓦斯併用	二	六・四三	二九九・九〇〇
瓦斯	八	一〇七・八六	五、三三六・九二〇
電氣	一三	三、六二二・九三	八九一、四〇〇・八七
電氣	三五	二九・三三	九、七九八、〇〇〇
蒸氣電氣併用	一〇	一四六・九五	三四、四六七・四九七
合計	三五六	五、九三三・〇八	一、〇七、四七〇、一七二
前年度比較増減	△	二六八・五	一七四、三三三、九八八

備考 前表ノ備考ニ同シ

運輸並運轉成績

列車料 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ列車料ハ合計二千四百九十五萬五千二百三十杆ニシテ此ノ内譯ヲ示セハ旅客列車料百八十五萬一千八百三十八杆、貨物列車料六百十三萬一千二百九十九杆、混合列車料一千六百九十七萬二千九百三十三杆ナリ、之ヲ前年度ニ比スレハ四萬一千四百杆ノ減少ヲ示セリ之ヲ動力別ニ表示スルニ左ノ如シ

種別	旅客列車	貨物列車	混合列車	計
蒸氣	九八六、〇三四	四三八、三三五	九四五、一九九	一、〇八七、六三八
蒸氣瓦斯併用	二九五、九四三	二〇五、四五七	四三五、九二六	四、八六〇、六六六
瓦斯	五八一	二、五七八・〇四	八一九、八四五	三、三四三、四六〇
電氣	五五九、一八九	一、〇四六、七九九	一、五二六、〇三〇	五、八七四、七五六
蒸氣電氣併用	五五九、一八九	一九三、二八〇・五	一、五二六、〇三〇	三、四九五、三三〇
合計	一、八五二、八三八	六、一三一、二九九	一、六九七、〇九三	三、四一〇、七三
前年度比較増減	一七〇、六八五	二六九、二八三	△	四八、〇七三

備考 一、「電機」ハ電氣機關車牽引、「瓦斯」ハ瓦斯機關車ノ牽引ヲ其ノ他ハ蒸氣機關車牽引ノ列車料トス

二、電動車及瓦斯動車ニ對スルモノハ列車料中ニ計上セズ

三、本表以下職員表ニ至ル各事項ハ各鐵道ノ營業年度ニ依ル、但シ運轉事故ハ會計年度トス

車輛料 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ客車走行料ハ二億八千五百七十二萬六千六百三十五杆、貨車走行料一億二千二百四十八萬七千八百九十五杆、合計四億八百二十一萬四千五百三十杆ニ

シテ之ヲ前年度ニ比較スルニ客車走行糶五千四百四十二萬八千九百五十一糶、貨車走行糶二十一萬一千二百九十五糶合計ニ於テ五千三百五十四萬二千四百四十六糶ヲ増加セリ、以上ヲ動力別ニ示スニ左表ノ如シ

種別	客車走行糶	貨車走行糶	計
蒸氣	三九〇、二九八、七六	三三、四三〇、六四一	七、四六〇、五一七
蒸氣瓦斯併用	一九九、九三三、七三	一五、三六一、九六	三五、三〇八、九一九
瓦斯	三四五、七二〇	—	三四五、七二〇
電氣(普通)	一四三、〇七三、四九七	二七、〇三八、一七〇	一七〇、一〇〇、六六七
電氣(鋼索)	三、七四〇、三三七	九、四一〇	三、七四九、六四七
蒸氣電氣併用	七九、六四五、五八二	四六、七〇三、四七	一二六、三四九、〇六〇
合計	二、八五七、三六三、五	一、二三四、七八九、五	四、一〇一、一五三、〇
前年度比較増減	五、四三八、九五二	三、二二一、三九五	五、五五〇、二四六

旅客運輸 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ旅客運輸成績ヲ見ルニ平均營業糶六千六百六十七糶五分、旅客人員四億一千五百四十六萬二千九百七十三人、此ノ延人糶三十五億二千七百六十六萬九千五百七十人糶、旅客運賃六千四拾八萬貳千七百四拾八圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ平均營業糶六百二十一糶七分(一割一分二厘)、旅客人員四千九百十八萬五千三百七十六人(一割三分四厘)、延人糶五億五千二百三十六萬四千八百七十二人糶(一割八分六厘)、旅客運賃八百參拾八萬九千九拾九圓(一割六分一厘)ヲ孰レモ増加セリ、今般上ノ成績ニ依ツテ一人平均ノ割合ヲ觀ル

ニ乘車糶八糶五分、旅客運賃拾四錢六厘ニシテ前者ハ零糶四分、後者ハ四厘ヲ増加セリ、又一人一糶平均運賃ニ於テハ壹錢七厘ヲ示シ前年度ヨリ壹厘ヲ低下セリ、之ヲ動力別ニ示スニ左表ノ如シ

種別	平均營業糶	旅客人員	延人糶	旅客運賃	一人平均乘車糶	一人平均旅客運賃	一人一糶平均旅客運賃
蒸氣	一八五、六、五	三三、〇三三、七九九	三、八八〇、五七三	六八、三九、一三五	一、〇〇	〇、二三	〇、二二
蒸氣瓦斯併用	一、〇、六、一	一七、〇五七、〇〇一	一、五、三八八、二二三	三、五七、六六一	九三	〇、二〇	〇、三三
瓦斯	一八六	四、一五七、七六	一、二八五、九六〇	三、六六、六六二	三一	〇、七六	〇、三五
電氣(普通)	三、〇、六、五	三五五、三六八、一八	三、〇、三六、七、九三三	三三、六四九、二九〇	八〇	〇、二四	〇、〇六
電氣(鋼索)	五四七	一、二、三、六、九、七、四	三七〇、七、三、八、四	二、一五、三、六、三五	三〇	〇、七四	〇、五六
蒸氣電氣併用	一、一、八、五、一	九八、三、九、六、三五	九、七、五、三、三、五、一〇	一、五、三、三、九、四、三五	九九	〇、五五	〇、一六
合計	六、一、六、七、五	四、一、五、四、六、三、九、七、三	三、五、二、七、六、六、九、五、七、〇	六〇、四、八、三、七、四、八	八五	〇、四六	〇、一七
前年度比較増減	六、二、七	四、九、一、八、五、三、七、六	五、五、三、三、六、四、八、七、三	八、三、八、九、〇、九、九	四	〇、〇〇四	〇、〇一

貨物運輸 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ貨物輸送噸數ハ二千六百四十六萬七百八十五噸、此ノ延噸糶五億三千五百九十二萬六千七百七十噸糶ニシテ貨物運賃貳千參百參拾九萬五千五百壹圓ナリ、今之ヲ前年度ニ比較スルニ貨物噸數百三十六萬七千三百二十四噸(五分四厘)、貨物運賃五拾壹萬參千參百七拾九圓(二分二厘)ヲ夫々増加セリ、以上ノ貨物運輸成績ニ依リ一噸平均割合ヲ觀ルニ輸送糶二十糶三分、貨物運賃八拾八錢四厘ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ零糶九分、後者ニ在リテハ貳錢八厘ヲ減セリ、又一噸一糶平均貨物運賃ハ四錢四厘ニシテ壹厘ヲ増加

セリ之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	貨物延噸數	延噸料	貨物運賃	輸送平均		貨物運賃		貨物運賃	
				噸	料	噸	料	噸	料
蒸氣	1,070,500	130,879.38	7,526.59	1.23	1.00	0.73	0.58	0.58	
蒸氣瓦斯併用	2,641,849	55,377.50	2,746.75	2.09	1.00	1.00	0.50	0.50	
瓦斯	5,199,571	108,276.91	5,906.84	2.08	1.36	1.36	0.55	0.55	
電氣(普通)	7,701	14,647	4,343	5.04	1.68	1.68	2.97	2.97	
電氣(鋼索)	7,908,163	241,441.29	7,111,073	3.05	1.91	1.91	0.00	0.00	
蒸氣電氣併用	2,646,075	55,920.67	3,395.01	2.03	1.84	1.84	0.44	0.44	
合計	1,367,334	4,094,103	5,337.9	△	△	0.38	0.01	0.01	
前年度比較増減									

運轉成績 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ蒸氣機關車走行料ハ二千五百五十五萬一千六百六十五料電氣機關車走行料五百三十九萬六千八百四十九料、電動車走行料八千七百六十三萬八千六百三十九料、瓦斯併用機關車走行料三百七十七料、瓦斯併用客車走行料三百七十七萬二千六百六十一料、汽動車走行料五十四萬六千五百四十五料ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ電氣機關車走行料九分七厘、電動車走行料三割五分三厘、瓦斯併用客車走行料十二割八分、汽動車走行料八分九厘ヲ孰レモ増加シ、蒸氣機關車走行料二分四厘、瓦斯併用機關車走行料四割五分九厘ヲ減少セリ、運轉用燃料ノ石炭消費量ハ二億四千三百八十二萬三千七百九十九噸、此ノ代價貳百九拾貳萬七千六百參圓、電力消費量ハ二億五千五萬二千六百四十四キロワット時、此ノ代價六百貳拾七萬六千六百四拾貳圓、瓦斯併用消費量ハ八十九萬五千九百九十七立、代價拾參萬七百貳拾貳圓ナリ、之ヲ前年度ニ

比較スルニ石炭消費量七百二十四萬九千七百七十六噸(二分九厘)、代價九萬九千七百參拾壹圓(三分三厘)ヲ減シタリ、然ルニ電力消費量ニ在リテハ六千五百五十八萬五千四百六十九キロワット時(三割二分七厘)、代價百六拾九萬四千九百壹圓(三割五分四厘)ヲ、瓦斯併用消費量ハ五十三萬八百十六立(十四割五分四厘)、代價七萬九千九百拾參圓(十五割三分三厘)ノ増加ヲ示セリ、次ニ油脂總消費量ハ百三萬六千四十九立、此ノ代價貳拾四萬貳千六百七拾八圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ油脂總消費量ニ於テ十二萬五千二百九十二立(一割三分八厘)、代價貳萬貳千九百參圓(一割四厘)ヲ夫々増加セリ、以上ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

種別	機關車 汽動車 電動車 瓦斯併用	石炭、電力、瓦斯併用		油脂消費高		走行百料當消費高	
		數量	代價	數量	代價	數量	代價
蒸氣	1,191,386	1,171,786.8	1,141,954.8	2,854.8	676.03	1,011.2	2.4
蒸氣瓦斯併用	1,599,194	90,089	1,107.0	3,873	1,093	692	2.4
瓦斯	5,103,730	54,989.8	767,745	11,393.7	2,763.6	1,077	2.4
電氣	3,278,571	7,650.4	11,304.8	57,990	1,867.2	1,045	1.6
蒸氣電氣併用	3,040,333	1,614,335.5	3,178.1	2,616	899	3,05	1.1
合計	22,821.9	1,774,750.5	2,355,006	33,877.6	7,260.5	2,649	1.1
前年度比較	3,533,303	62,595.3	7,359.5	521	1,84	3,03	1.5
蒸氣	1,191,386	1,171,786.8	1,141,954.8	2,854.8	676.03	1,011.2	2.4
蒸氣瓦斯併用	1,599,194	90,089	1,107.0	3,873	1,093	692	2.4
瓦斯	5,103,730	54,989.8	767,745	11,393.7	5,799.0	1,045	1.6
電氣	3,278,571	7,650.4	11,304.8	57,990	1,867.2	1,045	1.6
蒸氣電氣併用	3,040,333	1,614,335.5	3,178.1	2,616	899	3,05	1.1
合計	22,821.9	1,774,750.5	2,355,006	33,877.6	7,260.5	2,649	1.1
前年度比較	3,533,303	62,595.3	7,359.5	521	1,84	3,03	1.5

種別	合計		數量	代價	數量	代價	數量	代價
	前年度比較增減	計						
機關車	△	二,五五一	二,四〇〇	八,六七五	一,一三六	一,一三六	一,一三六	一,一三六
汽車	△	五,三九六	五,三九六	八,八九七	一,〇六八	一,〇六八	一,〇六八	一,〇六八
電車	△	八,七三九	八,七三九	一〇,六八三	一,〇六八	一,〇六八	一,〇六八	一,〇六八
瓦斯	△	三,七二二	三,七二二	八,八九七	一,〇六八	一,〇六八	一,〇六八	一,〇六八
併用	△	五,四六五	五,四六五	六,九四二	二,二〇九	二,二〇九	二,二〇九	二,二〇九
合計	△	二二,五五一	二二,五五一	二八,八七五	三,五〇九	三,五〇九	三,五〇九	三,五〇九

運轉事故 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ事故總數ハ千四百八十六件ニシテ死傷人員數ハ死者三百七十一人傷者五百四十八人ナリ、之ヲ前年度ニ比較スルニ事故數ニ於テ二百七十七件、死傷人員ニ於テ死者五十四人、傷者百二十八人ヲ孰レモ増加セリ、今之ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

種別	前年度比較增減	合計	數量	代價
衝突	△	五七	五七	一,〇九
接觸	△	五二	五二	一,〇九
脫線	△	一九	一九	一,〇九
顛覆	△	二	二	一,〇九
傾倒	△	一	一	一,〇九
列車分離	△	二	二	一,〇九
列車異線	△	三	三	一,〇九
車輛不良	△	二〇	二〇	一,〇九
車輛逸走	△	一	一	一,〇九
線路障礙	△	三	三	一,〇九
列車又ハ車輛障礙	△	七	七	一,〇九
妨害	△	八	八	一,〇九
電氣設備故障	△	一	一	一,〇九
火災	△	一	一	一,〇九
其他	△	五	五	一,〇九
合計	△	一〇九	一〇九	一,〇九

運轉事故死傷人員

種別	前年度比較增減	合計	死	傷
蒸氣	△	一六	一	一五
瓦斯	△	一〇	一	九
併用	△	五九	二	五七
合計	△	八五	四	八一

車輛現在數

種別	合計		死	傷
	前年度比較增減	計		
蒸氣	△	一六	一	一五
瓦斯	△	一〇	一	九
併用	△	五九	二	五七
合計	△	八五	四	八一

機關車 本年度末ニ於ケル地方鐵道ノ機關車總數ハ九百七十一輛(內蒸氣機關車八百十一輛電

氣機關車百五十八輛、瓦斯倫機關車二輛、此ノ總重量二萬四千八百十九噸ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ輛數三十輛、總重量ニ於テ千二百六十噸ヲ孰レモ増加セリ、之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	蒸氣機關車		電氣機關車	瓦斯倫機關車	計	總重量
	タンク	テンダー				
蒸氣	三七九	二〇	一	一	四〇一	九七五
蒸氣瓦斯倫併用	一九二	二	一	一	一九三	四〇八七
瓦斯倫	五	一	一	一	五	六
電氣	四三	一	一〇	一	一五三	四〇四二
電氣併用	一三	一	四七	一	三〇	六八四七
蒸氣電氣併用	一	一	一	一	三	一
合計	七五〇	六二	一五	二	九七二	二四八一九
前年度比較増減	二七	△	九	一	三〇	一、二六〇

客車及貨車 本年度末ニ於ケル地方鐵道ノ客車總數ハ四千七十七輛内電動客車千六百九十一輛、汽動車二十二輛、瓦斯動客車百五十三輛其ノ他二千二百一十一輛、此ノ定員二十六萬八千二百五十五人ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ前者ニ於テ四百三十三輛、後者ニ在リテハ四萬二千二百一人ヲ増加セリ、又貨車ハ總數一萬一千二百二十六輛内電動貨車百十七輛、瓦斯動貨車一輛、其ノ他一萬一千八百八輛、此ノ積載重量十萬八千二百九十九噸ニシテ前年度ニ比スルニ前者六百四十四輛、後者四千五百四十一噸ヲ増加セリ、以上ヲ動力別ニ表示スレハ左表ノ如シ

種別	客車		貨車		計	積載重量
	輛數	定員	有蓋車	無蓋車		
蒸氣	八四	三、一七四	九六	三、〇一七	三、九四五	三三、一六一
蒸氣瓦斯倫併用	四六	三、五九二	六四九	九五五	一、六〇四	一五、七九五
瓦斯倫	一	六八五	六	五	一一	九三
電氣	三六	一〇、九八四	九五一	一一、二六八	二、一九〇	三三、〇九三
電氣併用	三三	五、八五八	二	二	四	一一
蒸氣電氣併用	五	九、〇五三	九九三	一一、三三六	三、三三三	三六、一四七
合計	四〇七	二六、二五五	三、六〇三	七、六三三	一、二二六	一〇八、二九九
前年度比較増減	四三三	四、〇一一	一、四一一	五〇二	六四四	四、五四一

營業收支 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ營業收入ハ九千參百六拾參萬六千七百八拾八圓營業費五千貳百貳拾七萬貳千六百五拾壹圓ニシテ差引四千壹百參拾六萬四千百參拾七圓ノ營業益金ヲ生シタリ、之ヲ前年度ニ比スルニ營業收入壹千壹百拾五萬九千參百七拾參圓(一割三分五厘)、營業費六百拾九萬五千四百八拾八圓(一割三分四厘)、營業益金四百九拾六萬參千八百八拾五圓(一割三分六厘)ノ孰レモ増加ヲ見タリ、以上ノ成績ニ依リ一日一糶ノ平均ヲ觀ルニ營業收入四拾壹圓六拾錢貳厘、營業費貳拾參圓貳拾錢四厘、差引益金拾八圓參拾七錢八厘ニシテ前年度ニ比シ營業收入九拾壹錢貳厘、營業費四拾九錢貳厘、結局營業益金四拾貳錢ノ增收ヲ得タリ、又營業收入ニ對

スル營業費ノ割合ハ五割五分八厘建設費ニ對スル益金割合ハ年五分六厘ヲ示シ前者ハ一厘後者ニ於テ五厘ノ減少ヲ示セリ、較上ノ成績ヨリ考察スルトキハ年々相當ノ新規開業又ハ延長線アリ一般財界ノ不況ハ前年度ニ比シ益々深刻化シ今ヤ其ノ極ニ達シタル感アル年ニ際會シ加フルニ乗合自動車ハ各地方共ニ著シキ發達ヲ告ケ居ルノ情勢ナルニ拘ラス一日一杆平均ニ於テ前述ノ如キ成績ヲ呈スルハ甚タ意ヲ強クスル所タルヘシ、只建設費ニ對スル益金割合ノ低下ハ年々既設線ニ對シテ各鐵道共相當改良及建設費ヲ投スル關係上建設費ハ嵩マル一方ニシテ現今ノ財界ニテハ運輸成績之ニ伴ハサルハ一面不止得サルモノト謂フヲ得ヘシ、今以上ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	營業收入		營業支出		普通鋼索	併用電氣	合計	前年度比較增減
	客車收入	貨車收入	運輸收入	雜收入				
蒸氣	七,三九八,五三三	七,四七〇,七五一	六,〇〇一,一八〇	一,六〇三,三六一	三,三三三,二二二	一,一八六,五八三	六,二五〇,六四〇	八,一四一,五四五
蒸氣瓦斯併用	三,九〇三,三五九	三,七四七,〇〇一	二,〇六六,六九三	一,二〇〇,六九六	一,一八六,〇一七	一,一八六,〇一七	三,一八〇,六八〇	三,八五三,〇〇〇
瓦斯併用	三,一七三,三三三	—	—	—	—	—	—	—
電氣	三,三三三,二二二	—	—	—	—	—	—	—
併用電氣	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	一四,七〇五,〇九五	一四,一〇七,〇〇一	八,〇六八,〇七三	二,八〇四,〇〇七	四,五一九,二三二	一,三七二,六〇〇	一三,八〇〇,四七三	一六,九八八,〇〇〇

種別	延日	杆	一日一杆平均		營業收入ニ對スル營業費ノ割合	建設費ニ對スル益金ノ割合
			營業收入	營業費		
蒸氣	六七七,五七九	三三六,四八八	一五,二七五	八,三三三	六四,六〇〇	〇,四四五
蒸氣瓦斯併用	三七四,五七九	一八六,六三八	一三,二一九	五,四九九	七〇,五〇〇	〇,三〇一
瓦斯併用	六,七三三	五,六五〇	四,五五五	一,〇九五	八〇,六〇〇	〇,〇〇三
電氣	七三九,三六〇	五九三,一三三	三〇,八三三	二八,四八〇	五二,〇〇〇	〇,六六一
電氣鋼索併用	二〇,〇九二	一一,三二二	六,〇八二	五,〇三九	五〇,九〇〇	〇,六三三
蒸氣電氣併用	四三三,五〇八	五六六,九三三	二九,九五六	二六,七三七	五二,八〇〇	〇,六〇四

種別	延日	平均			營業收入ニ對スル營業費ノ割合	建設費ニ對スル利益ノ割合
		一日	一	均		
營業收入	二,五〇七,五九一	四一六〇三	三三,三三四	一八,三三六	五五八	〇五六
營業費	二,三三六,六一六	九一二	四九二	四二〇	〇〇一	〇〇五
合計	二,三三六,六一六	九一二	四九二	四二〇	〇〇一	〇〇五
前年度比較増減						

資産及負債 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ資本總額ハ拾壹億七千五百八拾四萬四千參百八拾壹圓ニシテ内拂込資本八億參百參拾貳萬九百六拾九圓、社債、借入金當座預金借越及支拂手形ノ合算額ハ七億壹千五百貳拾八萬七百九圓ナリ、而シテ之等ノ費途ハ開業線建設費七億七千四百壹萬壹千八百八拾七圓、未開業線建設費五千參百六萬壹千五百貳圓、他事業興業費五億六千八百五拾八萬九千五百拾六圓ニシテ今貸借對照表ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

資産ノ部

種別	蒸氣	蒸氣併用	瓦斯倫	電		蒸氣併用	合計	前年度比較増減
				普通	鋼索			
拂込未済資本金	三,七九〇,一七二	二,九六三,二四八	一,八七三,六二〇	二,七五〇,九九九	六,三〇八,四七〇	九,七〇三,三三三	三,七五〇,一七二	一,一五三,一六〇
建設費(開業線)	一,三三三,七〇三	六,九六〇,二九四	二,四八八,四〇〇	三,五〇〇,六九九	一,六四七,八四九	一,八八八,六八三	七,七〇〇,一八七	一,一五三,一六〇
未開業線	三,三三三,七〇三	二,五三三,一〇一	四,八三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	七,六〇,五八	六,三三三,〇〇〇	五,三三三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
他事業興業費	五,四〇三,三六八	一,六七七,一九八	六,九六九	三,七三三,三三〇	六,三三三,〇〇〇	一,六三三,〇〇〇	五,六三三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
假出金	六,九八八,〇六七	二,八三三,九六六	二,九八九,九八	三,三三三,〇〇〇	一,六三三,〇〇〇	一,六三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
未收入金	六,〇七三,七六七	一,四七三,八五〇	三,三三三	九,六三三,〇〇〇	八,七三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
預金	五,〇五二,三三三	八,五三三,九九九	九,七三三	二,四三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

負債ノ部

種別	蒸氣	蒸氣併用	瓦斯倫	電		蒸氣併用	合計	前年度比較増減
				普通	鋼索			
資本金	一,六四九,七四四	五,八三三,二八八	四,三〇〇,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇	一,五七三,七三九	一五,〇〇〇,〇〇〇	一八,三三三,〇〇〇	三,三三三,〇〇〇
特別資金	一,七三三,九九五	五,八三三,二八八	—	一,五七三,七三九	—	—	一,七三三,九九五	—
法定準備金	三,三三三,九九九	一,〇六八,九九九	—	一,八八八,一八三	—	—	三,三三三,九九九	—
任意準備金	四,三三三,九九九	一,〇〇〇,〇〇〇	—	二,七三三,〇八一	—	—	四,三三三,九九九	—
社債	五,三三三,〇〇〇	—	—	一〇,〇〇〇,〇〇〇	—	—	五,三三三,〇〇〇	—
財團抵當借入金	一,七三三,九九九	—	—	—	—	—	一,七三三,九九九	—
其ノ他借入金	一,八三三,〇一一	—	—	—	—	—	一,八三三,〇一一	—
當座預金借越	四,八三三,〇〇〇	—	—	—	—	—	四,八三三,〇〇〇	—
支拂手形	三,三三三,〇〇〇	—	—	—	—	—	三,三三三,〇〇〇	—
支拂金	四,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—	—	四,五〇〇,〇〇〇	—
未拂配當金	一,三三三,〇〇〇	—	—	—	—	—	一,三三三,〇〇〇	—

種別	蒸氣		蒸氣瓦斯		瓦斯倫		普通鋼索		併蒸氣電氣		合計	前年度比較増減
	假受金	職員積立金	保證金	前期繰越金	当期利益金	政府補助金	其他	合計	併蒸氣電氣			
假受金	九〇四、一六	三、七九、六四九	三、六、一〇一	五、七、八七	八、九三、二九	四、九七、五七	一、四、四七三	一、四、四七三	一、四、四七三	二〇、三、八〇五	二、四、一、一七	一、八、九、五五
職員積立金	六、七、〇〇五	三、三、五〇一	九、六	一、五、一、九五	一、八、一、九三	一、八、一、九三	一、八、一、九三	一、八、一、九三	一、八、一、九三	一、八、一、九三	一、八、一、九三	一、八、一、九三
保證金	四、九、三三〇	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三
前期繰越金	一、一〇、一〇三	九、九、〇〇一	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三
当期利益金	三、三、三三三	五、〇、〇〇七	五、〇、〇〇七	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三	三、三、三三三
政府補助金	一、三、三三三	六、七、三三三	六、七、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三	一、三、三三三
其他	七、九、五七四	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一	一、九、三、四八一
合計	二、八、一、三、五三六	九、一、九、四、一八八	九、一、九、四、一八八	五、二、一、一、五三三	一、四、四、七、三三三	一、〇〇、八、一、三、三三三	一、四、四、七、三三三	一、四、四、七、三三三	一、四、四、七、三三三	一、四、四、七、三三三	一、四、四、七、三三三	一、四、四、七、三三三

職員現在數 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ職員數ハ四萬三千七百二十七人ニシテ此ノ給料月額ハ百九拾貳萬五千七百貳拾九圓、諸給與月額七拾七萬五百拾壹圓、一人平均(除重役)ノ給料並諸給與月額ハ五拾八圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ職員數四千六百人、給料月額拾六萬九百四拾七圓、諸給與月額五萬七千八百九拾九圓ヲ執レモ増加シタルモ一人平均給料並給與月額ニ於テ壹圓ヲ減セリ之ヲ動力別ニ表示スレハ左表ノ如シ

種別	蒸氣		蒸氣瓦斯		瓦斯倫		普通鋼索		併蒸氣電氣		合計	均一人平均
	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額		
前年度比較増減	△一、〇〇三	諸給與△六、七、九七三	△一、〇〇三	諸給與△六、七、九七三	△一、〇〇三	諸給與△六、七、九七三	△一、〇〇三	諸給與△六、七、九七三	△一、〇〇三	諸給與△六、七、九七三	△一、〇〇三	△一、〇〇三
本年度	八、六、七	諸給與一〇〇、〇〇〇	八、六、七	諸給與一〇〇、〇〇〇	八、六、七	諸給與一〇〇、〇〇〇	八、六、七	諸給與一〇〇、〇〇〇	八、六、七	諸給與一〇〇、〇〇〇	八、六、七	八、六、七

補助 本年度末ニ於ケル地方鐵道現在數ハ八十七ニシテ此ノ料程千四百五十七分ナリ、本年度ニ於テ補助金ヲ交附シタル鐵道數九十七、此ノ補助料數千六百三十八分九分ニシテ補助金總額ハ六百九拾六萬八千五百四拾五圓ナリ、而シテ建設費ニ對スル補助金割合ハ四分五厘ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ補助鐵道現在數ニ於テ四、料數百十七分六分ヲ減シタルモ年度中ニ於テ補助シタル鐵道數ハ八、料數五十七分七分、補助金ニ在リテハ六拾七萬參百七拾參圓ヲ執レモ増加セリ、而シテ建設費ニ對スル補助金割合ハ一厘ヲ減ス、今年度末現在ニ於ケル鐵道數及料數ヲ動力別ニ示シ更ニ補助成績ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	蒸氣		蒸氣瓦斯		瓦斯倫		普通鋼索		併蒸氣電氣		合計	
	鐵道數	料數	鐵道數	料數	鐵道數	料數	鐵道數	料數	鐵道數	料數		
前年度比較増減	△八	△一、二八六	△八	△一、二八六	△八	△一、二八六	△八	△一、二八六	△八	△一、二八六	△八	
本年度	三四	六、七、三三三	三四	六、七、三三三	三四	六、七、三三三	三四	六、七、三三三	三四	六、七、三三三	三四	三四

第二節 軌道

線路ノ特許及失效 本年度ニ於テ敷設ヲ特許シタル軌道數八十、其ノ料程八百二十九分七分三厘、

建設費概算參百六拾八萬六千五百五拾六圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ軌道數十七、秆程九秆一分、建設費概算壹千五百七拾壹萬六千四百四拾四圓ヲ孰レモ減少セリ、又敷設特許ノ失效シタル軌道八十四秆程八十一秆九分五厘、建設費概算百八拾壹萬八千貳百拾圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ軌道數一、秆程四十二秆八分六厘、建設費概算五拾貳萬九千四百五拾九圓ヲ孰レモ減少セリ、今之ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

種別	本年度		特許		本年度		中失効	
	軌道數	秆程	建設費概算	軌道數	秆程	建設費概算	軌道數	秆程
電氣	七	一九三三	二八三、〇〇〇	七	三九三	八六六、〇〇〇	—	—
瓦斯	—	—	—	—	—	—	—	—
馬力	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	七	一九三三	二八三、〇〇〇	七	三九三	八六六、〇〇〇	—	—
前年度比較増減	△	一九〇△	一五、七〇、六四四	—	△	四二八六	△	五二九、四五九

備考 特許線一部失效シ該區間ノ建設費概算ニシテ分割シ難キモノハ計上セヌ

年度中ノ開業線路 本年度ニ於テ新ニ運輸營業ヲ開始シタル軌道數ハ五ニシテ此ノ秆程三十七秆五分五厘、既設開業軌道ニシテ延長線ノ運輸ヲ開始シタル軌道數十八、秆程三十四秆一分四厘ニシテ右兩者ノ合計ヲ前年度ト夫々比較スルニ軌道數二、秆程ニ於テ零秆八分八厘ヲ増加シタリ、以上ヲ動力別ニ示スニ左ノ如シ

種別	本年度		特許		本年度		中失効	
	軌道數	秆程	建設費概算	軌道數	秆程	建設費概算	軌道數	秆程
電氣	—	—	—	—	—	—	—	—
瓦斯	—	—	—	—	—	—	—	—
馬力	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—
前年度比較増減	△	〇	△	二四	△	二〇、三三七	△	九、四九

備考 〇印ハ本年度ニ於テ新ニ運輸營業ヲ開始シタル軌道ヲ示ス

年度末現在開業線路 本年度末現在ノ開業軌道數ハ百五十二、此ノ秆程二千七百十六秆六分六厘、資本金貳拾貳億五百八拾參萬五千五百拾圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ軌道數三、秆程三秆三分七厘、資本金五千貳拾五萬四千九百六拾九圓ヲ孰レモ減少セリ、之ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

種別	本年度		特許		本年度		中失効	
	軌道數	秆程	建設費概算	軌道數	秆程	建設費概算	軌道數	秆程
電氣	九三	七六五五	一、三三六、二五	—	—	—	—	—
瓦斯	一七	二四四	—	—	—	—	—	—
馬力	一六	五三二七	—	—	—	—	—	—
合計	一二六	一〇、三三六	一、三三六、二五	—	—	—	—	—
前年度比較増減	△	〇	△	二四	△	二〇、三三七	△	九、四九

種別	軌道數	程		
		單線	二線以上	計
前年度比較増減	△	三△	一〇一五 ^軒	九六八△
合計			三三七 ^軒	五、三〇、四六九 ^圓

備考 軌道數ノ計ニ符合セサルハ一軌道ニシテ二動力以上ヲ併有セルモノヲ各動力別ニ計上シ計ニ於テ控除セルニ因ル

年度末現在未開業線路 本年度末現在未開業軌道數ハ百三、程程一千二百十六軒七分六厘、資本金七千七百七拾壹萬七千五百拾六圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ軌道數ニ於テ七ヲ減少セルモ程程二十九軒六分七厘、資本金百六拾貳萬貳千五百拾六圓ヲ増加セリ、之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	軌道數	程	資本	金
電氣	六	八二九 ^軒	七、七〇〇、〇〇〇	
蒸氣	六	五七八	五二〇、〇〇〇	
瓦斯	六	一四三、七九	一、〇七、一五六	
馬力	一〇	一七、四六	一、〇一〇、〇〇〇	
人力	五	二二七	三、八〇〇、〇〇〇	
合計	一〇三	一、二六六	七、七七一、五六	
前年度比較増減	△	七	二九六七	一、六三、一五六

運輸並運轉成績

車輛軒 本年度ニ於ケル軌道ノ客車走行軒ハ三億四千四百六十萬九千七百九十軒貨車走行軒一千三十三萬九千六百六軒ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ六十三萬九千二百六十三軒(二厘九毛)後者ニ在リテハ百四十四萬六千二百三十三軒(一割二分二厘七毛)ノ孰レモ減少ヲ示セリ、以上ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	客車走行軒	貨車走行軒	合計	
				電氣
電氣	三、九一三、三〇〇	四、四五六、三四一	三、四三三、五八八	
蒸氣	三、一四七、八七四	一、九六六、四五七	五、一一四、三三二	
瓦斯	一、九二二、五三〇	三、三二四、八九三	四、三三七、四三三	
馬力	三、五五、七三二	六、三一、八五三	九、八七、五七四	
人力	六、一、三四四	九七、〇六四	一、〇三、三八八	
合計	三、四、六〇、九七〇	一〇、三三九、六六六	三、五、四九、三五六	
前年度比較増減	△	△	△	
	六、三九、二六三	一、四四六、三三三	三、〇八五、四九六	

備考 本表以下各事項(事故關係ヲ除クハ)各軌道ノ營業年度ニ依ル

旅客運輸 本年度ニ於ケル軌道ノ旅客平均營業軒ハ二千五百二十三軒八分ニシテ旅客輸送人員ハ十八億一千八百八萬七千七百五十八人、此ノ運賃壹億貳千六百貳拾八萬七千參拾六圓ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ平均營業軒ニ於テ七十九軒五分三分五厘、旅客輸送人員五千三百九十一萬九千四百二人(二分八厘八毛)同運賃參百六拾壹萬六千四百五拾九圓(二分七厘八毛)ヲ孰レモ減少セリ、今之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	平均營業料		旅客人員		旅客運賃		一人平均旅客運賃	
	電氣	瓦斯	馬力	人力	電氣	瓦斯	馬力	人力
合計	二,〇〇七・八	二,九〇・三	一,八〇九・五七五	七六四	一五,一三八・〇八九	七〇四・一五八	〇・六九	
前年度比較増減	△	△	△	△	△	△	△	
電氣	九五五・五	二六三・〇	九四三・四九九	三三三・七六〇	一三,一三三・二二三	三六〇・一六九	一・三九一	
瓦斯	一三五・五	三〇六・七六六	三〇六・七六六	一〇八・四九九	三七四・〇〇四	一七三・三七一	一・二一九	
馬力	八一・六	一〇八・四九九	一〇八・四九九	一七・九八七	一七三・三七一	一七三・三七一	一・五九八	
人力	三三・二	一七・九八七	一七・九八七	一・二六五〇四	一七三・三七一	一七三・三七一	九・八八	
合計	二,五三三・八	一,八〇九・五七五	一,八〇九・五七五	七六四	一六,二八七・〇三六	一,〇六九		
前年度比較増減	△	△	△	△	△	△	△	

貨物運輸 本年度ニ於ケル軌道ノ貨物平均營業料ハ一千四百六十八粒九分ニシテ貨物輸送噸數百七十四萬七百六十噸、此ノ運賃貳百參拾四萬七千貳百七拾壹圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ平均營業料百三十八粒四分八分六厘一毛、貨物輸送噸數十六萬九千五百五十五噸(八分四厘二毛)同運賃ニ於テ拾六萬八百四拾七圓六分四厘一毛ノ孰レモ減少ヲ示セリ、之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	平均營業料		貨物噸數		貨物運賃		一噸平均貨物運賃	
	電氣	瓦斯	馬力	人力	電氣	瓦斯	馬力	人力
合計	一,四六八・九	一,七四〇・七六〇	二,三四七・二七一	一,三四八	一,三四七・二七一	一,三四八	〇・三五	
前年度比較増減	△	△	△	△	△	△	△	
電氣	九五五・五	二六三・〇	九四三・四九九	三三三・七六〇	一三,一三三・二二三	三六〇・一六九	一・三九一	
瓦斯	一三五・五	三〇六・七六六	三〇六・七六六	一〇八・四九九	三七四・〇〇四	一七三・三七一	一・二一九	
馬力	八一・六	一〇八・四九九	一〇八・四九九	一七・九八七	一七三・三七一	一七三・三七一	一・五九八	
人力	三三・二	一七・九八七	一七・九八七	一・二六五〇四	一七三・三七一	一七三・三七一	九・八八	
合計	一,四六八・九	一,七四〇・七六〇	二,三四七・二七一	一,三四八	一,三四七・二七一	一,三四八	〇・三五	
前年度比較増減	△	△	△	△	△	△	△	

運轉成績 本年度ニ於ケル軌道ノ客車使用延日車數ハ百七十九萬四千二百二十三輛、貨車使用延日車數三十六萬一千八十四輛ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ一萬二千二百四十五輛(六厘八毛)後者ニ在リテハ二萬三千二百一十一輛(六分四毛)ヲ孰レモ減少セリ、以上ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	電氣		瓦斯		馬力		合計		前年度比較増減
	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛	
客車	一七七八・七三	四七三・四九	三三八八・五	九二・一	二七七五・七	六・〇	一,八二五・〇	四九七・八	△ 一三,〇四五
貨車	一〇七,九六二	三〇三・二四	七五,六三九	二一七・三	九八,一六五	三,〇一・一	一四三,〇五三	一〇,四六・六	△ 三三,〇二一
合計	一八八,七四〇	七八〇・七三	四三六,四二九	二一七・三	三,七五二・四	九,〇一・二	二,〇六八,〇〇六	一〇,九六四・四	△ 四六,〇七六
前年度比較増減	△	△	△	△	△	△	△	△	△

運轉事故 本年度ニ於ケル軌道ノ運轉事故件數ハ一萬六千八百八十二件、運轉上ヨリ生シタル死傷人員數ハ死者二百八十九人、傷者六千六百五十七人ナリ、之ヲ前年度ニ比スレハ前者四千九十三件斯ク増加セルハ報告要領ヲ異ニセルニ因ルヲ又後者ニ在リテハ死者十七人、傷者二百七人ノ増加ヲ示セリ、之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

監督
運轉事故件數

種別	電氣				瓦斯				合計
	電氣	瓦斯	馬力	人力	電氣	瓦斯	馬力	人力	
衝突接觸	1	1	1	1	1	1	1	1	6
脫線	1	1	1	1	1	1	1	1	6
顛覆	1	1	1	1	1	1	1	1	6
傾倒	1	1	1	1	1	1	1	1	6
列車ノ列車間 線進入不良	1	1	1	1	1	1	1	1	6
車輛車輛線路 妨害	1	1	1	1	1	1	1	1	6
火災	1	1	1	1	1	1	1	1	6
其他	1	1	1	1	1	1	1	1	6
合計	17	17	17	17	17	17	17	17	104

運轉事故死傷人員

種別	電氣				瓦斯				合計
	電氣	瓦斯	馬力	人力	電氣	瓦斯	馬力	人力	
乘客	3	3	3	3	3	3	3	3	24
職員	2	2	2	2	2	2	2	2	16
公衆	2	2	2	2	2	2	2	2	16
合計	7	7	7	7	7	7	7	7	56

車輛現在數 本年度末ニ於ケル軌道ノ機關車數ハ百七十七輛(内電氣機關車六輛、瓦斯機關車六

十四輛、蒸氣機關車百七輛)客車數七千六百三十三輛(内電動客車六千五百二十七輛、汽動車七輛、瓦斯動客車五十七輛)其ノ他四百七十二輛、此ノ定員四十五萬七千二百二十五人、貨車數一千九百七十五輛(内蓋貨車二百三十五輛、中電動貨車六十三輛、無蓋貨車一千七百四十輛、中電動貨車八十輛)有ス。ニシテ此ノ積載噸數六千八百二十噸ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ機關車五十二輛ヲ減シ、客車ニ在リテハ百二十一輛、定員一萬五千五百四十人ヲ増加シタルモ、貨車ハ百十三輛、積載噸數二百十二噸ヲ減少セリ、以上ヲ動力別ニ示スニ左表ノ如シ

客車

種別	電氣		瓦斯		合計
	本年	前年度	本年	前年度	
電氣	6,522	1,376	1	1	6,523
瓦斯	13	13	14	14	27
合計	6,535	1,389	15	15	6,550

監督

種別	有蓋車		無蓋車		合計	積載重量
	電氣	蒸氣	電氣	蒸氣		
電氣	九六三	三六	三三〇	三六	五七六	三、六〇〇
蒸氣	一	三六	三三〇	三六	三六八	一、一八七
瓦倫斯			五九〇	三六	六二六	一、三〇一
馬力			一五六	三六	二〇二	三三〇
人力			三三八	三六	四二四	四二二
合計	三五	七	一七〇	一〇六	二七五	六、八三〇
前年度比較増減	△	△	△	△	△	△

營業收支 本年度ニ於ケル軌道ノ營業收入ハ壹億四千四拾七萬貳千八百七圓營業費八千七拾五萬貳千九百八拾五圓ニシテ差引營業益金五千九百七拾壹萬九千八百貳拾貳圓ヲ舉ケ之ヲ前年度ニ比較スルニ營業收入ニ於テ貳百七拾貳萬五千六百四拾五圓(一分九厘)營業費百七拾八萬七千八百七拾圓(二分一厘七毛)營業益金九拾參萬七千七百七拾五圓(一分五厘五毛)ノ孰レモ減少ヲ見タリ、以上ノ成績ヨリ一日一軒平均ノ營業收支ヲ算出スルニ營業收入百四拾八圓拾貳錢營業費八拾五圓拾五錢營業益金六拾貳圓九拾七錢ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ營業收入壹圓九拾七錢營業費九拾壹錢差引壹圓六錢ノ營業益金ヲ見タリ、又營業收入ニ對スル營業費ノ割合ハ五割七分五厘、建設費ニ對スル益金割合ハ八分三厘ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ一厘、後者ハ八厘ノ減少ヲ呈セリ、本年度ノ財界ハ前年度ヨリ一層不振其ノ極ニ達セル折柄近時各地方共

乗合自動車殊ニ大都市ニ在リテハ貸切自動車等ノ發達ニ伴ヒ之等ノ影響ヲ受ケ減收ヲ示スニ至レリ、然レ共一日一軒平均ノ營業收支ヲ檢スルニ前年度ヨリ好成绩ヲ舉ケタルハ比較的營業不振ノ軌道カ休止又ハ廢止シタル爲平均ニ於テハ好成绩ヲ齎ラシタルモノナラムカ、今之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	電氣		蒸氣		瓦斯倫		馬力		人力		合計	前年度比較増減
	客車收入	貨車收入	客車收入	貨車收入	客車收入	貨車收入	客車收入	貨車收入	客車收入	貨車收入		
客車收入	二五、二五〇〇〇	一、二五、四七六	七、四四三六	三五七、八一	三、五二、六一	一、七三、七四	六、六〇、六	二、四、一三三	二、六、四五一	二、〇、九	三、七〇、九、七四	△
貨車收入	一、二五、四七六	五、五七、三五五	三、五七、八一	一、一八、〇九	三、五二、六一	一、三、七三	一、一、五五九	一、一、三、四四	一、一、三、四四	一、一、三、四四	一、一、三、四四	△
營業雜收入	一一、三〇、四〇〇	二、八、六五六	七、五九、三六三	一、〇五、二四〇	一、〇五、二四〇	一、〇五、二四〇	一、〇五、二四〇	一、〇五、二四〇	一、〇五、二四〇	一、〇五、二四〇	一、〇五、二四〇	△
營業雜支出	一、一、三、七、八八三	一、九、八、〇六三	七、三、九、二四	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業保存費	九、八、七、四、八七	二、九、八、三、〇四	七、三、九、二、四	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業汽車費	一、八、〇、八、三、〇	二、五、四、八、八二	一、九、九、八、三、七	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業運輸費	三、七、五、〇、三、五七一	二、二、四、八、八二	一、九、九、八、三、七	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業諸費	九、七、四、四、二、六八	二、二、四、八、八二	一、九、九、八、三、七	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業計	三、六、〇、〇、六、九	二、六、七、三、六	一、三、〇、八、一	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業諸稅	七、七、五、八、二、五	一、〇、〇、〇、八、一	六、二、九、四、八、一	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業益金	五、九、三、七、九、六六八	一、七、六、九、七九	一、二、九、七、八、二	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
營業其他益金	一、二、六、六、四、九、三、八	五、〇、一、二、九、七、一	七、三、〇、一、三、九、四	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
支拂利子	三、三、四、三、五、三、一	七、三、四、七、八	八、五、五、九、九	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
其他損金	二、六、九、六、九、三、五	一、五、七、〇、九、八	二、七、二、一、三、八	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△
差引純益金	一、五、九、九、三、三、一〇	四、九、九、九、三、七、四	六、九、七、三、四、九	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	一、〇、五、二、四〇	△

種別	前年度繰越金		本年度繰越金		前年度比較増減
	法定準備金	任意準備金	法定準備金	任意準備金	
電力	七,三〇〇,五九九	五,五三七,四二一	七,三〇〇,五九九	五,五三七,四二一	△
瓦斯	四〇九,九二〇	一,一〇三,七三〇	四〇九,九二〇	一,一〇三,七三〇	△
馬力	一,三五五,二八九	五〇六,七一五〇	一,三五五,二八九	五〇六,七一五〇	△
人力	二九,五〇五,一九五	二,一七三,五	二九,五〇五,一九五	二,一七三,五	△
合計	七,六二七,六二八	六,七九六,五五一	七,六二七,六二八	六,七九六,五五一	△
後年度繰越金	二七,〇三三,三〇三	二〇,二五〇	二七,〇三三,三〇三	二〇,二五〇	△
分其ノ他	三〇,三八八七一	四,五六五,七七六	三〇,三八八七一	四,五六五,七七六	△
後年度繰越金	二七,〇三三,三〇三	二〇,二五〇	二七,〇三三,三〇三	二〇,二五〇	△

資産及負債 本年度ニ於ケル開業軌道ノ資本總額ハ貳拾參億六千九百五拾七萬六千六百五拾貳圓内
 拂込資本金拾九億七千參百拾壹萬九千貳百八拾四圓、社債借入金、當座預金借越及支拂手形等ヲ
 合セテ拾貳億參千六百拾四萬四百四拾壹圓、之ニ上記拂込資本金ヲ加算スルトキハ參拾貳億九

種別	前年度比較増減		本年度		前年度比較増減
	増	減	増	減	
電力	一八八七四	一〇三	一八八七四	一〇三	〇八四
瓦斯	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	〇三五
馬力	一三〇二	一三〇二	一三〇二	一三〇二	〇三三
人力	七〇七	七〇七	七〇七	七〇七	〇〇七
合計	一四八・二	一四八・二	一四八・二	一四八・二	〇八三

百貳拾五萬九千七百貳拾五圓ナリ、右財源ヲ投資別ニスレハ軌道開業線建設費七億貳千四百八拾貳萬八千九百八拾七圓、同未開業線建設費九百四拾九萬五千九百七拾七圓、他事業興業費貳拾貳億貳千九拾九萬八千七百拾七圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ資本總額壹億壹千八百八拾八萬貳千六百九拾八圓、軌道開業線建設費ニ於テ四千五百拾萬七千四百九拾四圓ノ増加ヲ見タリ、今之ヲ動力別ニ示セハ次表ノ如シ

資産ノ部

種別	前年度		本年度		前年度比較増減
	金額	割合	金額	割合	
拂込未済資本金	三,六四二,〇八六	一七・九六	三,六四二,〇八六	一七・九六	〇
建設費	七,一〇二,八三五〇	六九・四〇	七,一〇二,八三五〇	六九・四〇	〇
他事業興業費	一,八七四,六三三	一八・四三	一,八七四,六三三	一八・四三	〇
貯藏物品	二七,四二七,四九七	二六・三三	二七,四二七,四九七	二六・三三	〇
假出金	九,九一三,三〇四	九・五三	九,九一三,三〇四	九・五三	〇
未收入金	八七,六三三,九八三	八・四三	八七,六三三,九八三	八・四三	〇
預入金	一,一五五,三三,八八三	一一・三三	一,一五五,三三,八八三	一一・三三	〇
有價證券	一四七,九四六,五八九	一四・一〇	一四七,九四六,五八九	一四・一〇	〇
現金	一一,一九九,七九三	一一・二二	一一,一九九,七九三	一一・二二	〇
現期損金	五,四九八,二八	〇・五二	五,四九八,二八	〇・五二	〇
其他	七三,六六〇,三八七	七・〇三	七三,六六〇,三八七	七・〇三	〇
合計	三,四七二,五〇五,三四七	一〇〇	三,四七二,五〇五,三四七	一〇〇	〇

種別	電		蒸		瓦斯		馬力		人力		合計	前年比較増減
	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員		
資本金	三,三二六,〇七四		六九,三〇六,〇〇〇		三五八,八九八,七〇〇		九二七,〇〇〇		五七六,八七六		三,三六九,五七〇	一一,八八三,六九九
特別資金	五六三,五二〇		三,三〇〇								五六八,八二〇	一,七二二,五二五
法定準備金	五九,五八,〇〇九		一,六四〇,八一八		一九八,〇九五七一		二六三,九三六		五四,九二九		八二,三四七,三五三	九,四〇八,七五〇
任意準備金	五一,二六三,四一六		八四四,七四八		一三,七二五,五一一		七四,四一〇		四八,七三一		六五,九四六,八二六	一,九三三,五三三
社債	八四,五八二,一九三		四〇,四〇〇,〇〇〇		一三,五八八,六〇九		四六,〇〇〇,〇〇〇				九三,三二〇,八〇三	一八五,二九六,九〇四
財團抵當借入金	一七,四九九,六八九		三三八,七五七		一八五,三八〇				八,四一〇		一七,九六三,二四五	三三八,〇四七
其ノ他ノ借入金	一六六,八二五,五三〇		一,四〇〇,八三五		二,七五一,一七三		一九一,一三三		一七,一五四		一七,二二八,〇四	二〇,二〇〇,四一三
當座借越金	五九九,六七〇		九,九四四		一五三,五九八		二九,〇〇七				七六一,二六九	二,五四七,五三四
支拂手形	五〇,二六八,〇四四		一,六三九,四一四		九七三,三三六		三〇三,六〇〇				五三,〇八三,三一一	二,四三三,一六五
未拂配當金	三〇,九三六,八五六		一,八一三,三四〇		一三,四一八,九七一		三三二,三〇六		一一〇		三六,四九一,五七四	六,三四〇,八三九
未拂受當金	八三三,一九四		四三,九七六		四八,五三二		五五六		六四三		九三五,八九〇	七三,八三三
假積立金	四四,八三六,六六一		二八一,二九六		三〇,五〇八,八四〇		三五三,三四一				七五,九九九,一三六	七,八七六,三九六
職員積立金	八,三六九,九四四		一六八,六九四		二九二,〇七九		一一,三五五		六六一		一一,五七九,七六三	三,三四二,六一
保證金	三〇,六八〇,〇三六		二一,六五三		三二六,六六三		五八,三三九				三〇,九八二,一九三	一,五三八,〇八五
前期繰越金	一八,九八,四四五		五,五三〇,六		三,一六九,〇七		三六,五〇六		三,四一六		三三,六〇一,〇八〇	六,二〇八,五二七
前期繰越金	八七,六四四,四二九		三,四八五,三五二		一一,四九六,八九三		一四八,七五五		一九,六六〇		一〇,一三五,〇八七	一八,一五三,四七〇
當期純益金	六三,〇四三,〇六六		一一四,八八八		五六八,一四〇		一八,八八三		一五,四七三		六三,七五八,七六九	一三,四三三,三三九
其他												
合計	三,四七二,五五五,四七七		一一二,〇五八,三九七		四八二,四三〇,七九〇		一六,五五五,八八六		七四七,一四五		四,〇九二,二六七,四九五	三五七,六六七,三七三

職員現在數 本年度末現在ニ於ケル軌道ノ職員數ハ五萬八千七百七十四人ニシテ之ニ對スル給

料及諸給與月額ハ五百貳拾九萬五千貳百八拾貳圓ナリ、今重役ヲ除キタル一人平均給料及諸給與月額ハ八拾四圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ職員數ニ於テ八百五拾九人給料及諸給與月額拾八萬七千六百貳拾圓、一人平均給料及諸給與月額ニ於テ參圓ノ就レモ増加ヲ示セリ、之ヲ動力別ニ示セハ左ノ如シ

種別	電		蒸		瓦斯		馬力		人力		合計	一人平均
	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員		
本年度	五,六二一,五七三	八,一〇八	五,八五五,五六一	五,八五五	五,七六八,八五三	二,七〇七	一〇,四九四	三,三三一	六,三〇二	五八,七四五	二,九五二	八四
前年度比較増減	八四六	一七三	四九五	七七二	一七四	一七三	四三三	一三三	六四六	三五	一九七	八五九
	一七三,四九五	七七一	二〇,一七四	一七三	四三三	一三三	六四六	三五	一九七	八五九	一八七,六二〇	三

第三節 專用鐵道

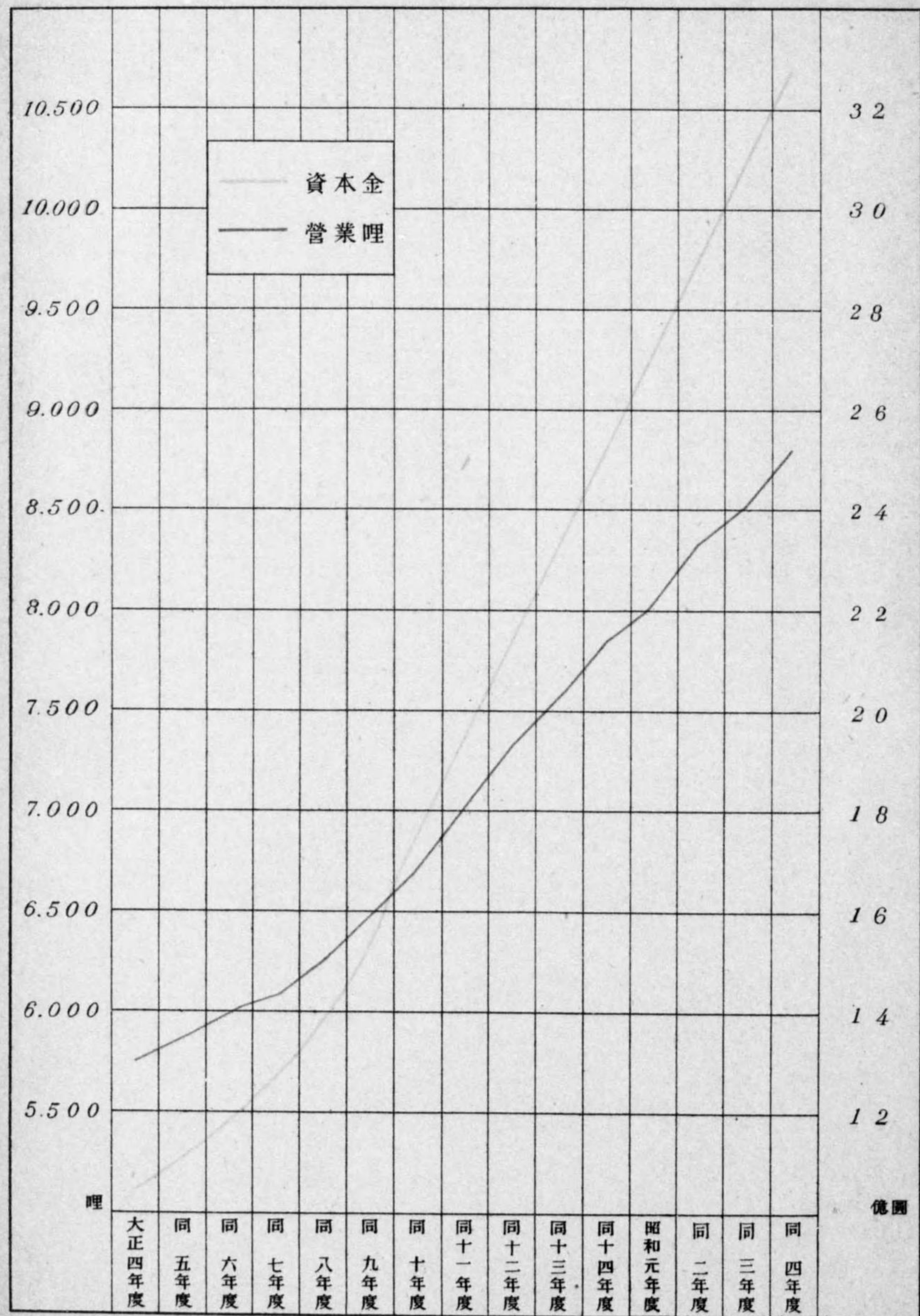
本年度末現在ノ専用鐵道ノ總數ハ八十二ニシテ内運輸ヲ開始セル鐵道數七十五、此ノ料程三百十斤三分、同使用開始鐵道ニシテ運輸未開始ノ料程十一斤五分八厘ヲ有ス、又運輸未開始ノ鐵道數ハ七ニシテ此ノ料程十五斤二分八厘ナリ

圖表

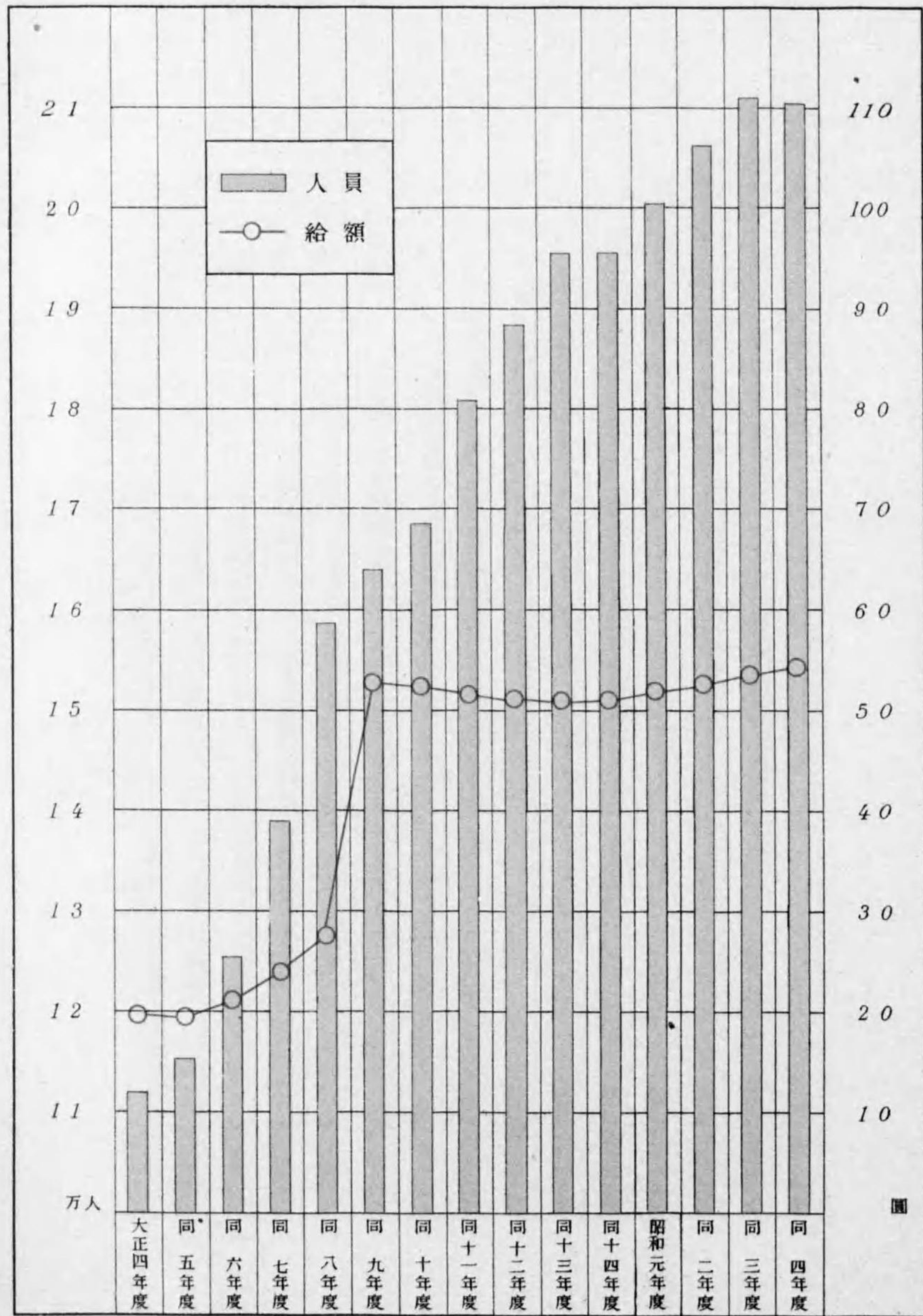
目次

- 一 資本金及營業哩
- 二 職員總數及一人平均給月額
- 三 車輛現在數
- 四 船舶隻數及總噸數
- 五 列車及客貨車哩
- 六 旅客人員及貨物噸數
- 七 旅客人哩及貨物噸哩(附旅客一人平均乘車哩及
附貨物一噸平均輸送哩)
- 八 旅客一人一哩及貨物一噸一哩平均運賃
- 九 蒸氣機關車及換算客貨車走行杆
- 一〇 燃料及電力消費高(附油脂消費高)
- 一一 營業收入及營業費並益金(附一日一哩平均收支並益金)

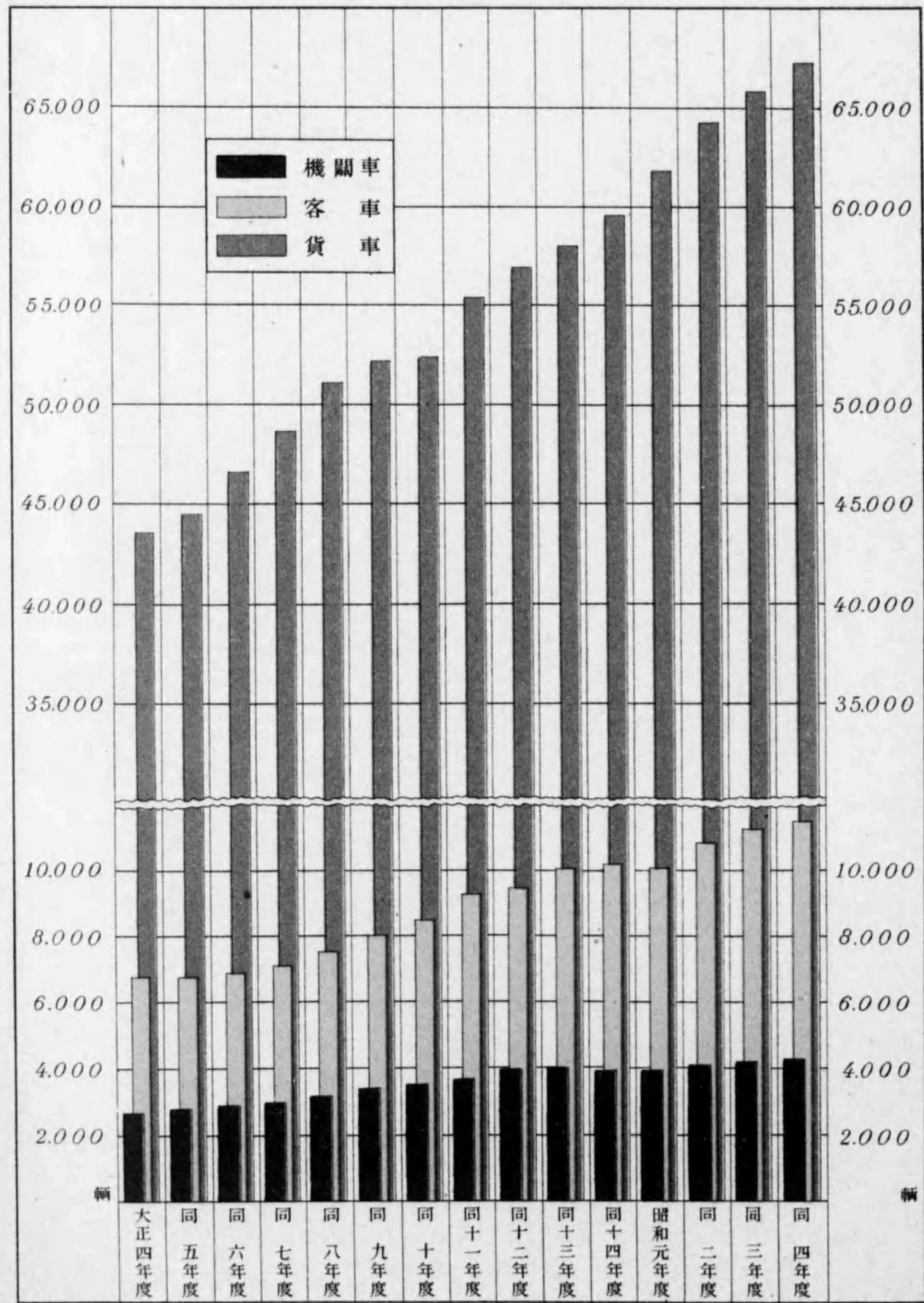
一 資本金及營業哩



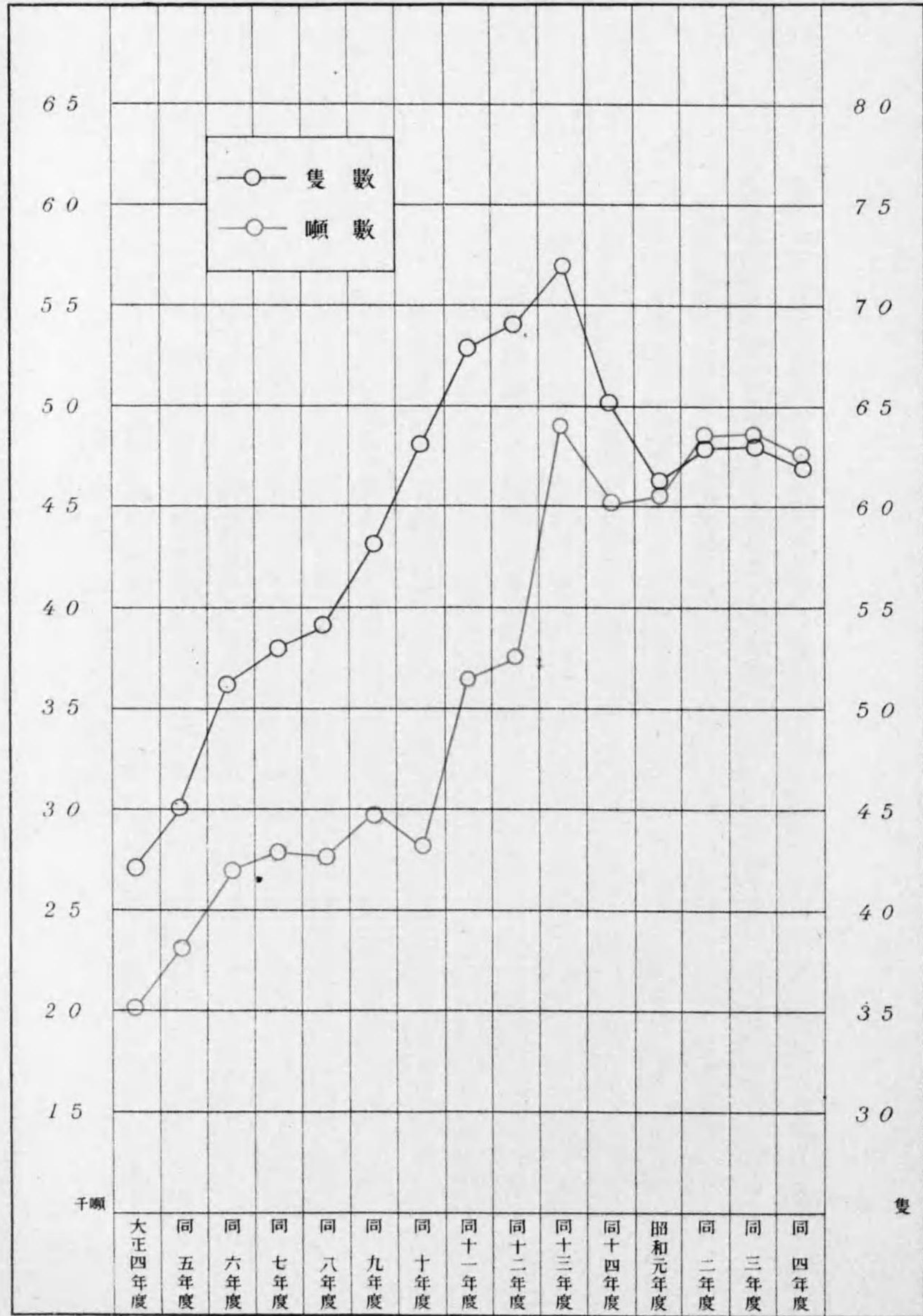
二 職員總數及一人平均給月額



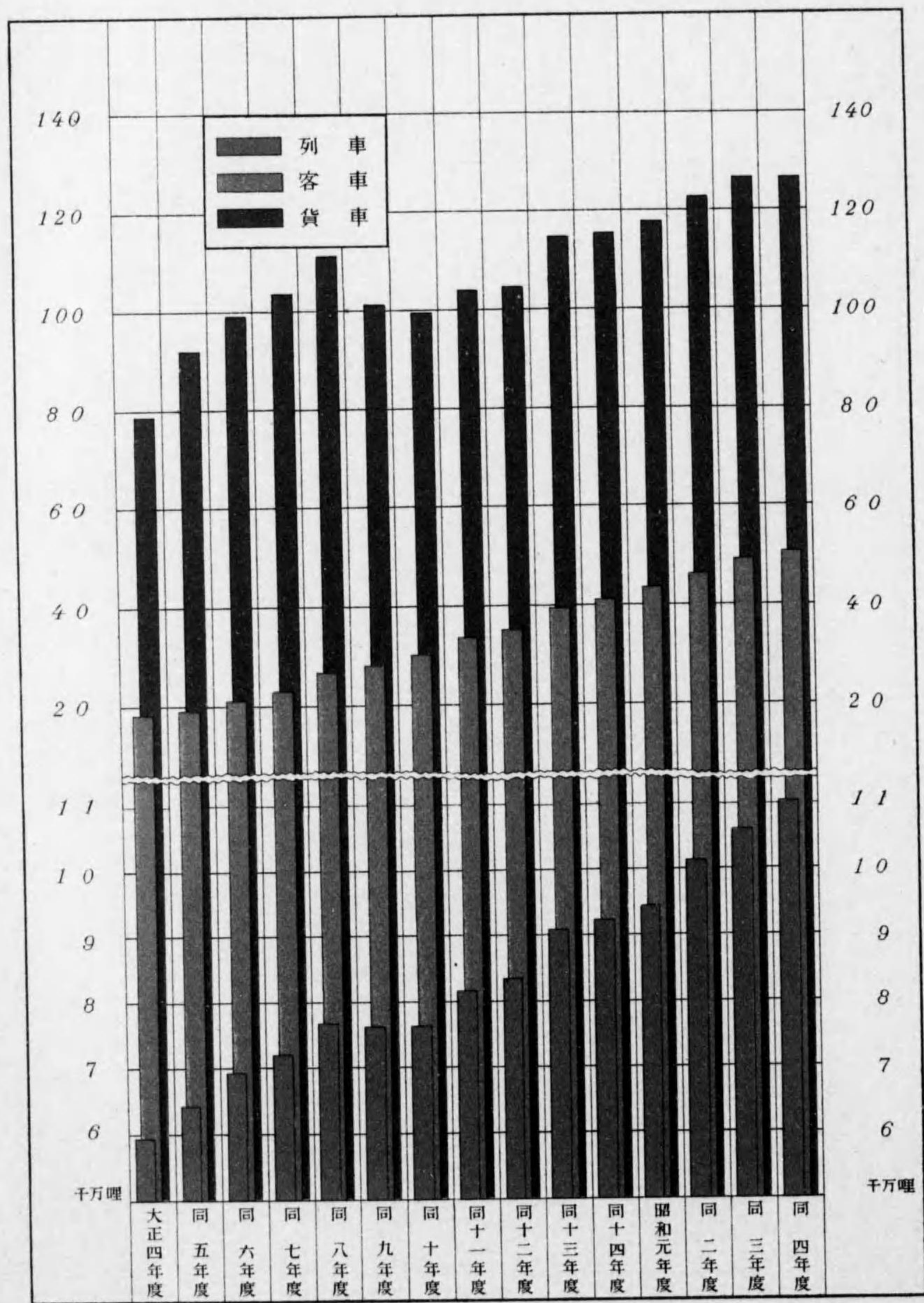
三 車輛現在數



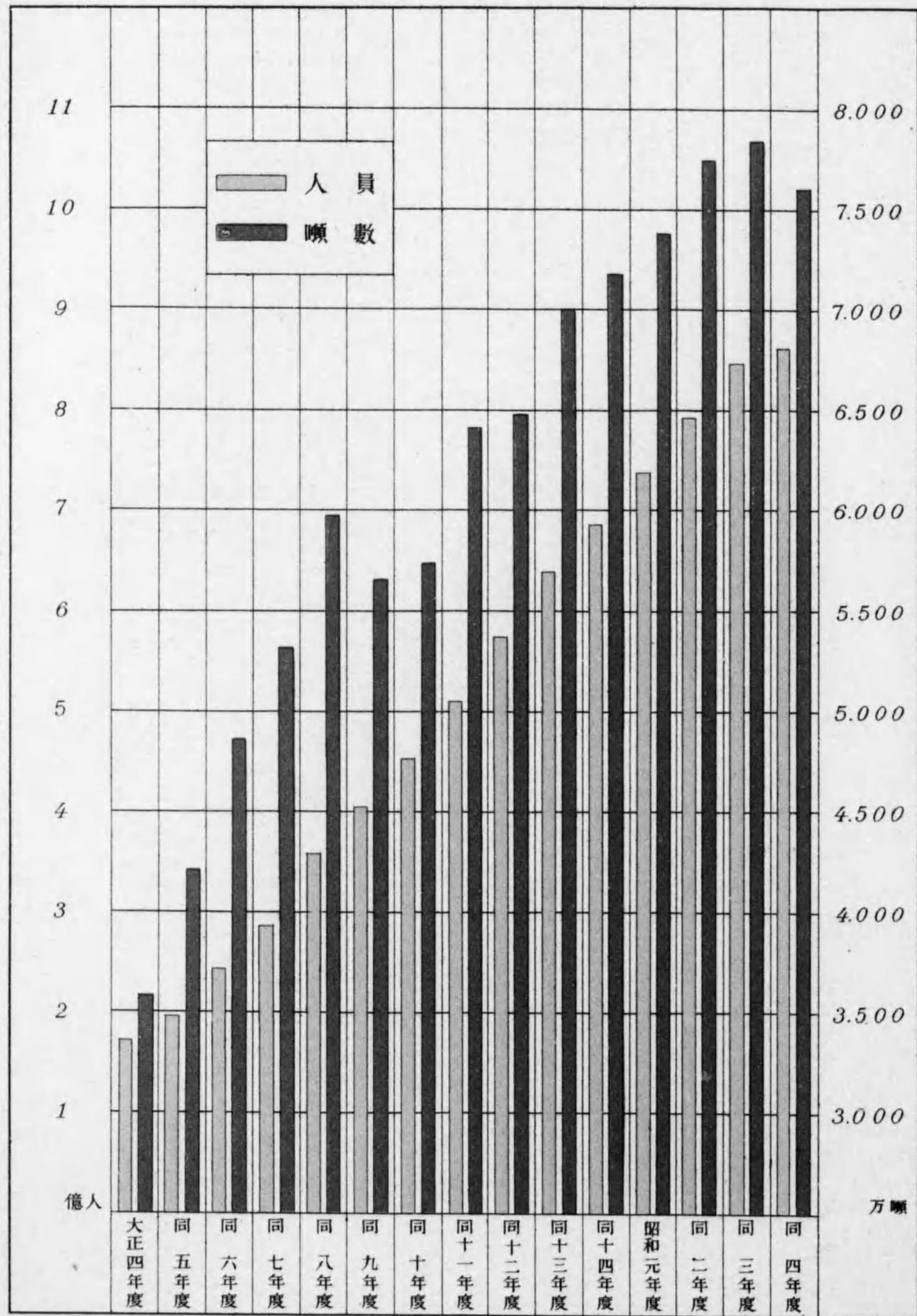
四 船 舶 隻 數 及 總 噸 數



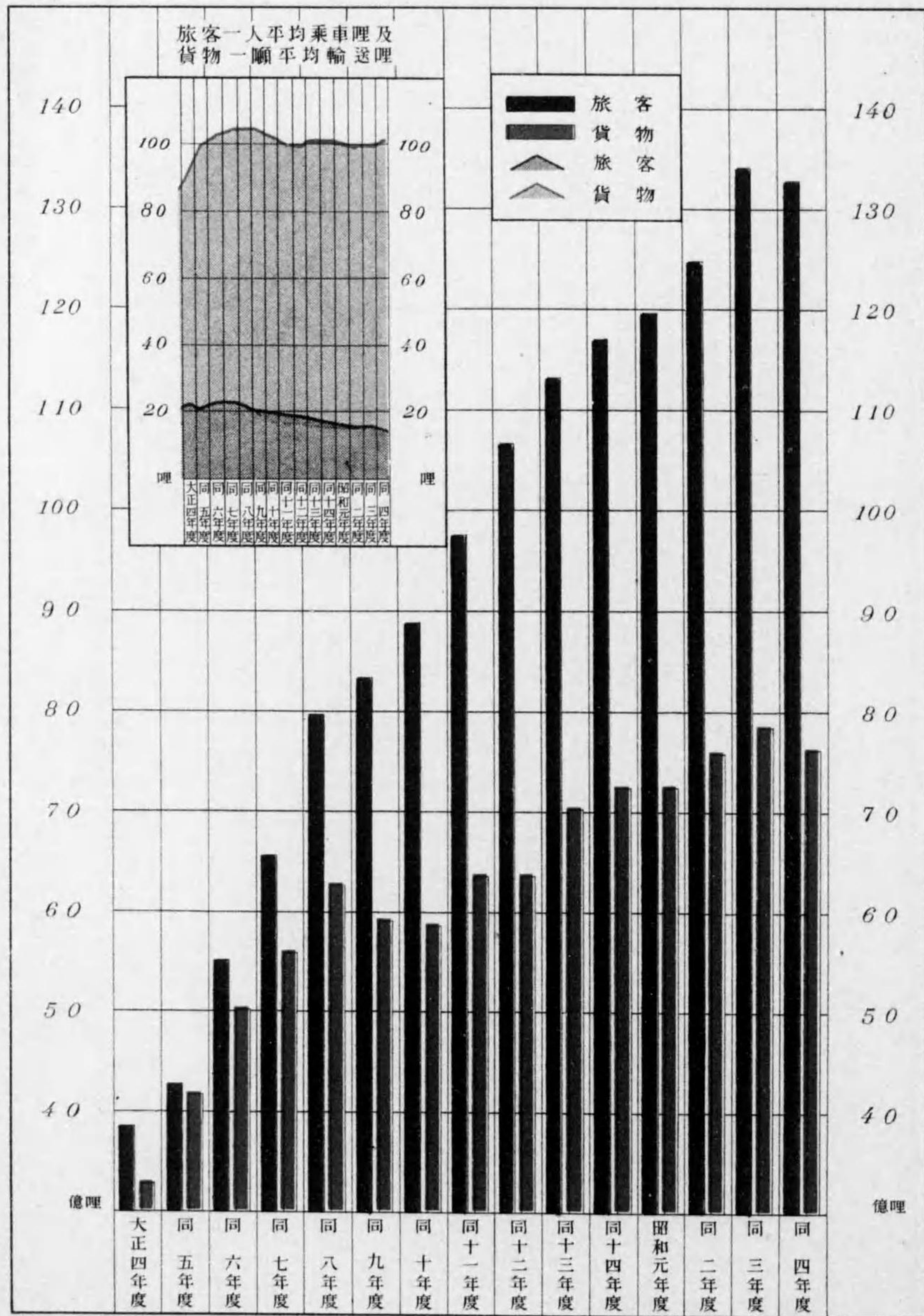
五 列 車 及 客 貨 車 哩



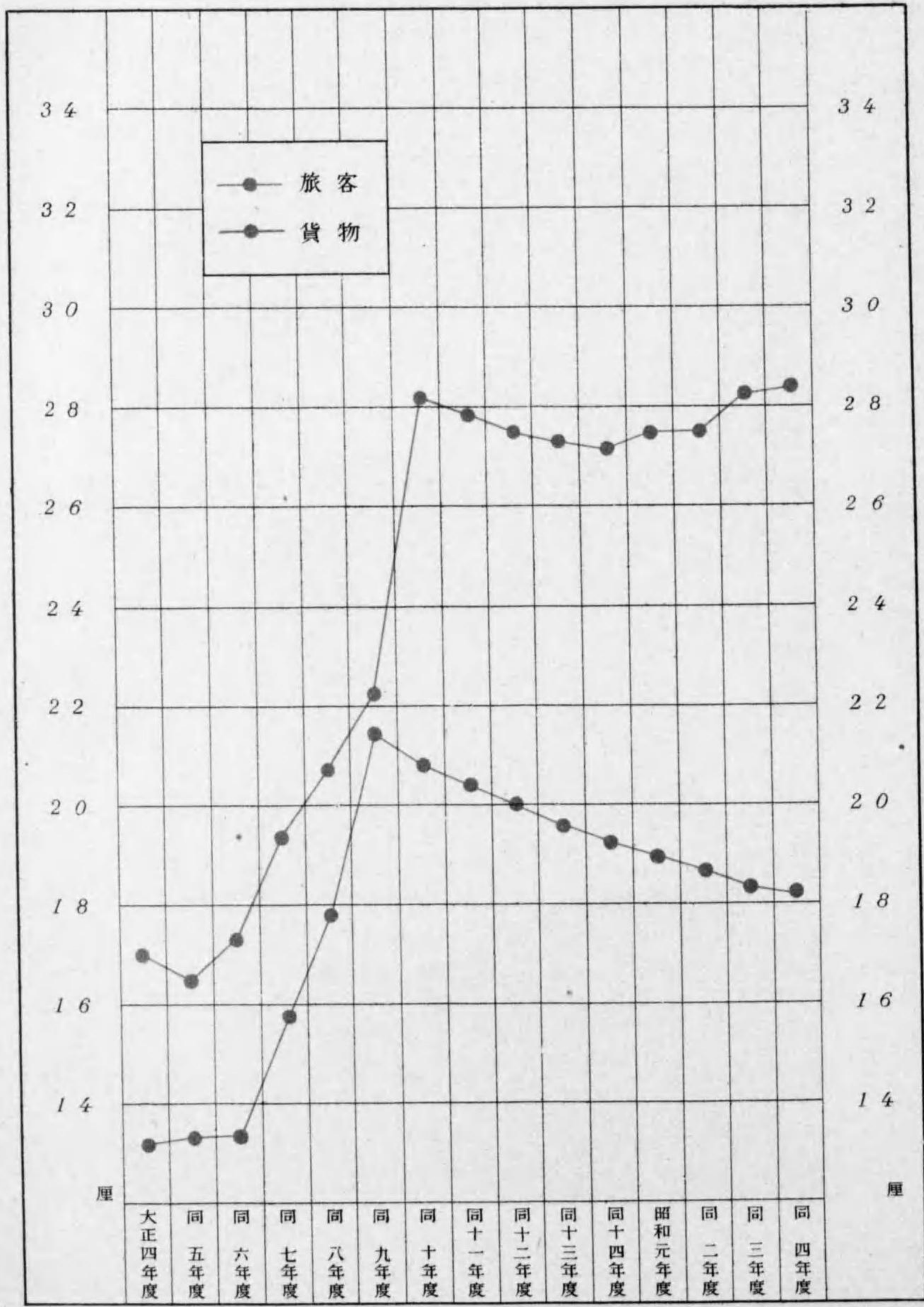
六 旅客人員及貨物噸數



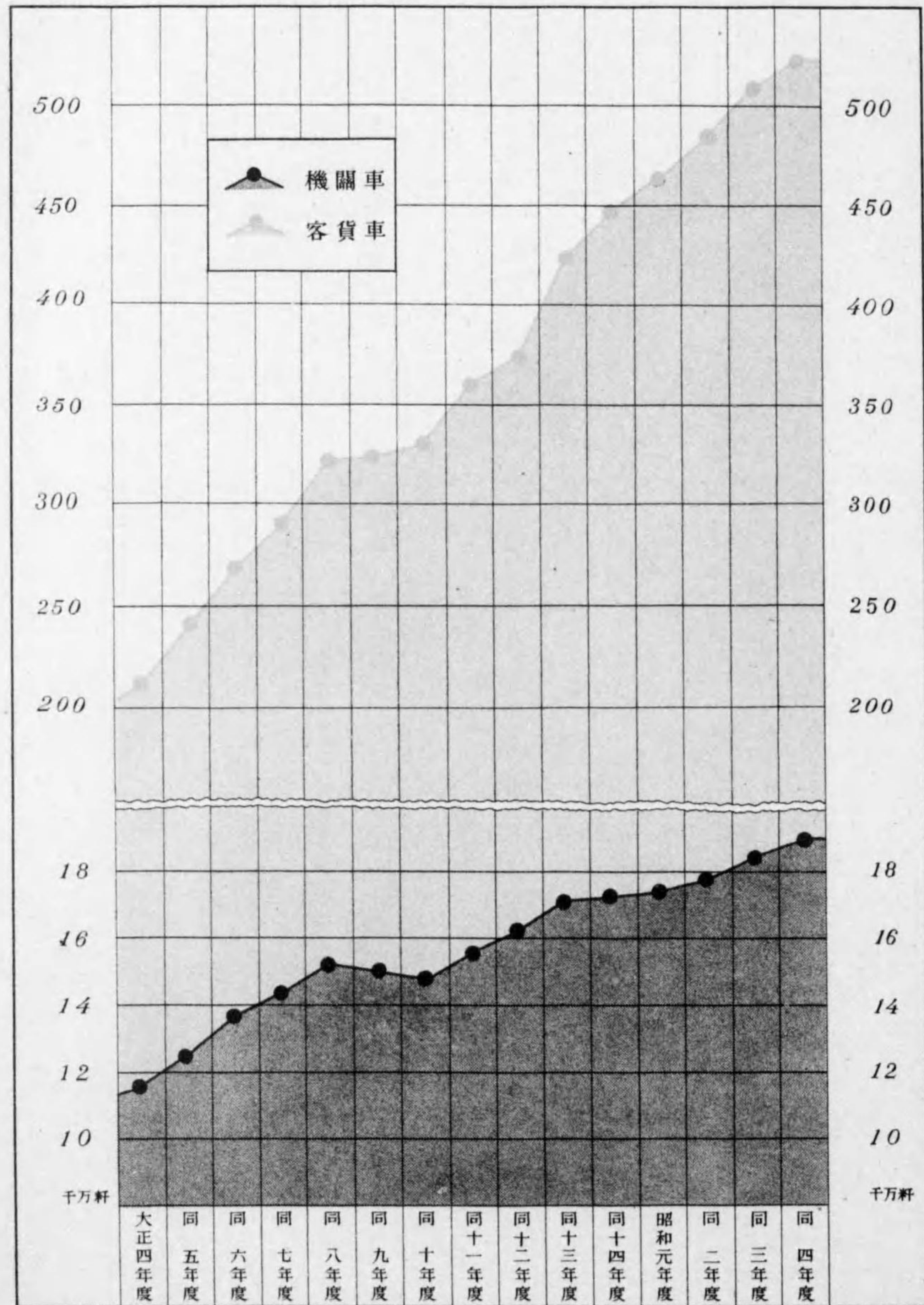
七 旅客人哩及貨物噸哩(附旅客一人平均乘車哩及貨物一噸平均輸送哩)



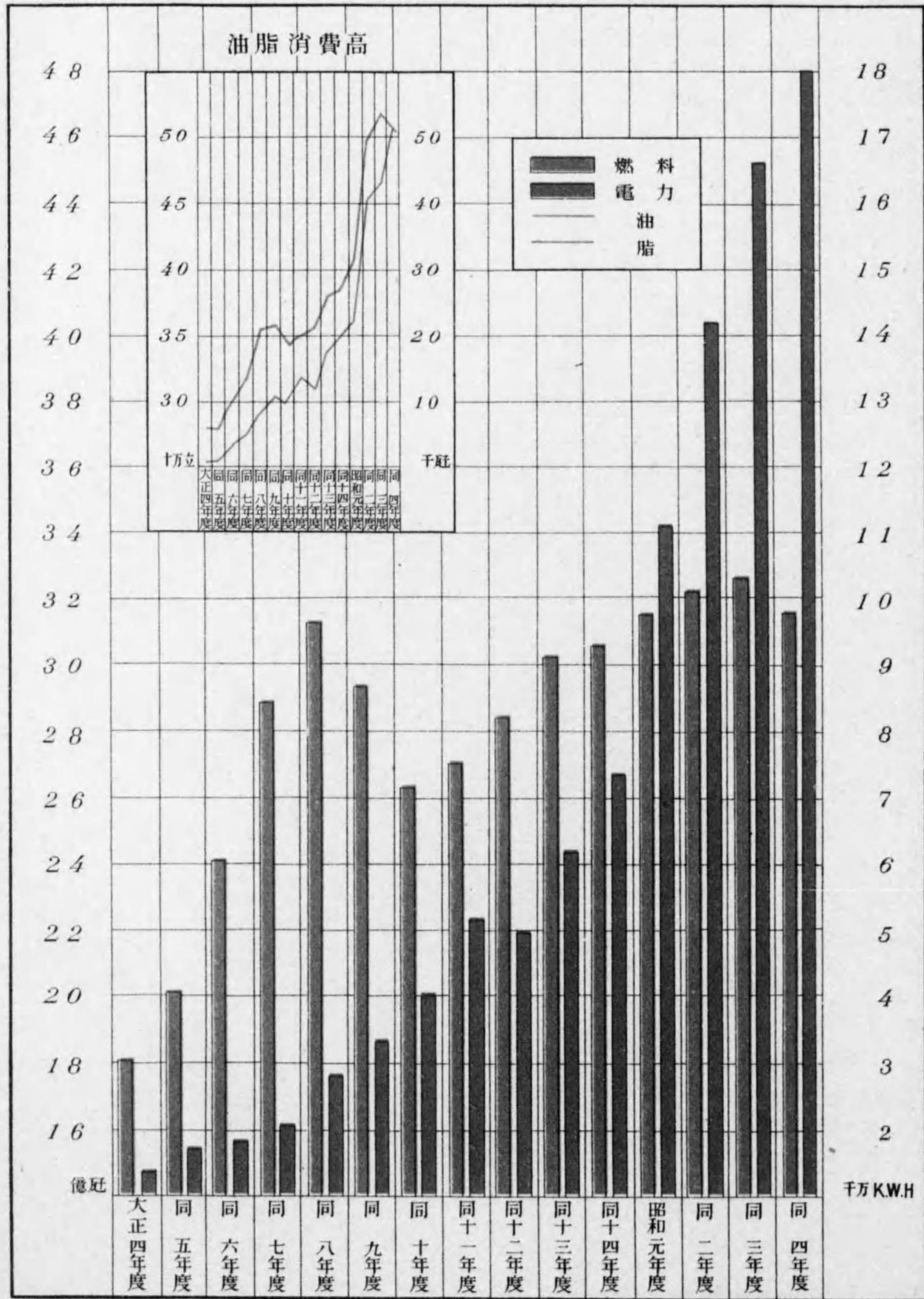
八 旅客一人一哩及貨物一噸一哩平均運賃



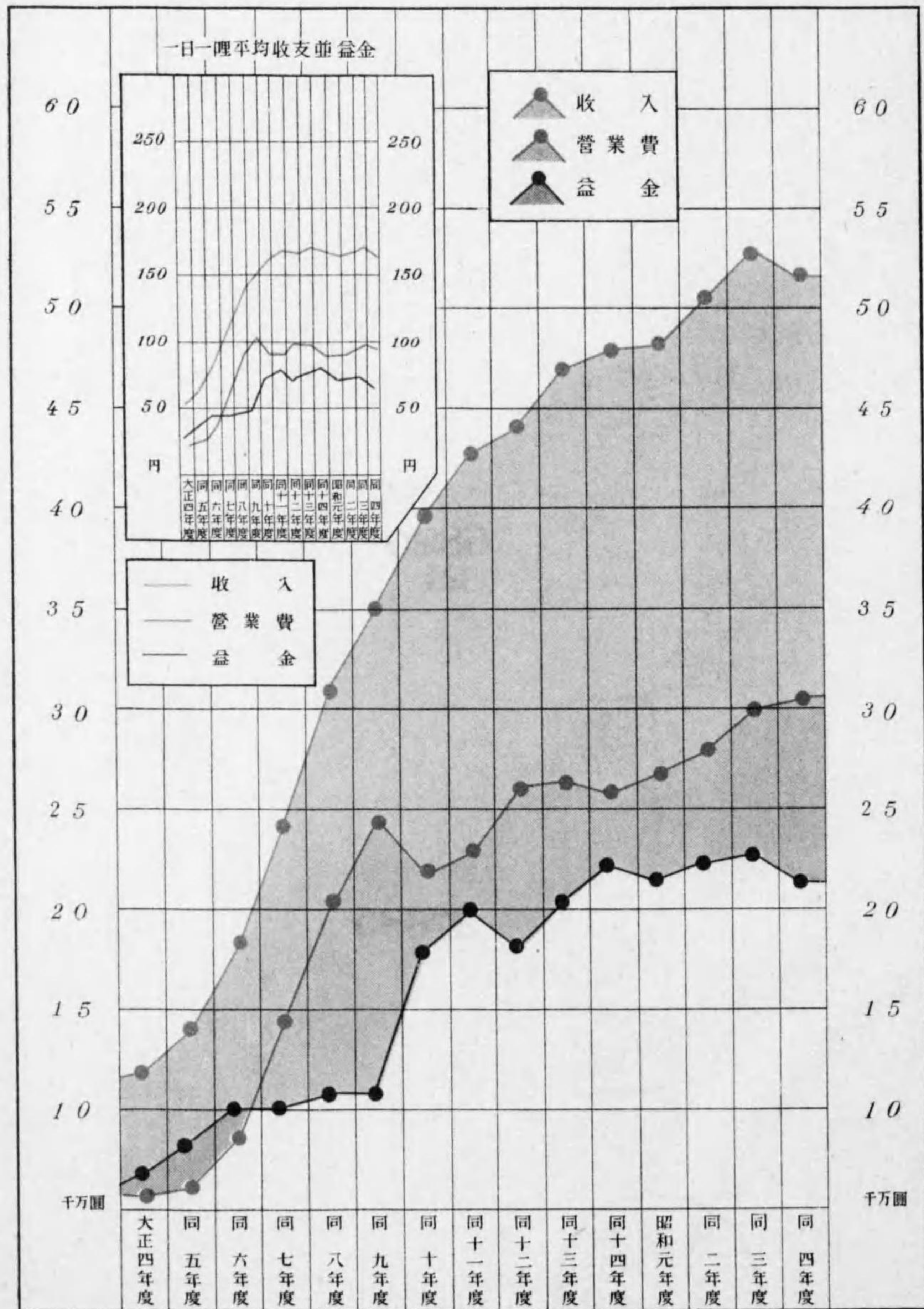
九 蒸氣機關車及換算客貨車走行料



一〇 燃料及電力消費高 (附油脂消費高)



一一 營業收入及營業費並益金(附一日一哩平均收支並益金)



昭和五年十二月二十日印刷
昭和五年十二月二十二日發行

鐵道省

印刷者 小林武之助

東京市深川區東大工町四十八番地

印刷所 東京印刷株式會社

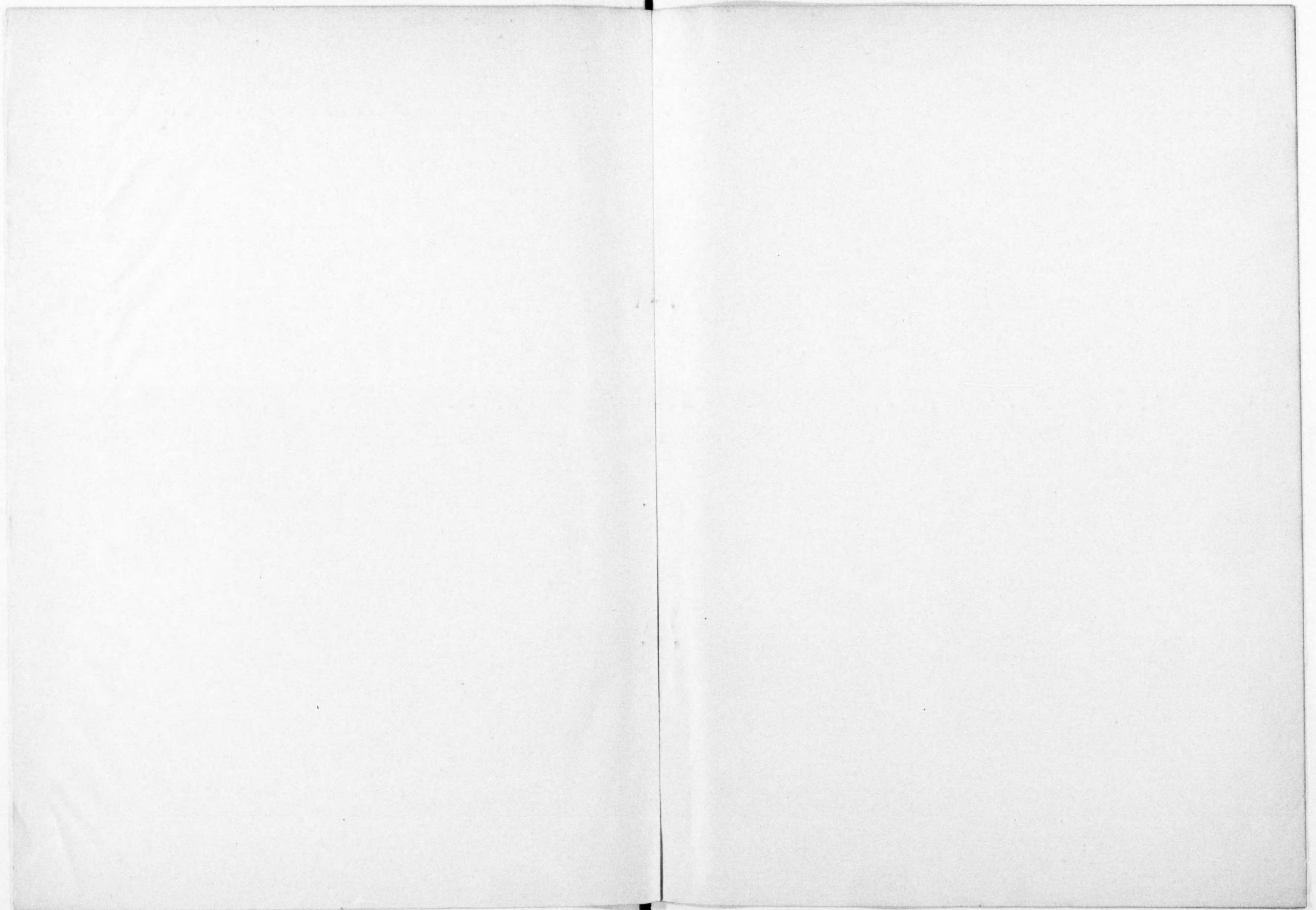
東京市深川區東大工町四十八番地

6820
21

27685

編所寄贈





終